

文部科学省委託事業
「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」

日本語学級・ 在籍学級での 教科横断的な 日本語指導

～マニラ日本人学校の
対面・オンライン授業の実践から～



2021年3月

公益財団法人 海外子女教育振興財団

目次

本冊子刊行にあたって	1
バイリンガル・バイカルチュラル人材の育成のための日本語指導プログラム開発 ～ 教科横断型日本語指導を通して ～	3
本校の日本語指導について	4

日本語学級1年生

対面授業

 1年生 じどう車くらべ	6
 1年生 これは、なんでしょう	9

オンライン授業

 1年生 いきものブックをつくろう	13
 1年生 かたかなをみつけよう	17
 1年生 しらせたいな 見せたいな～フィリピンのおやつ メリエンダ～	20
 1年生 しらせよう、せんせいのこと	26

日本語学級2年生

対面授業

 2年生 分かりやすくせつめいしよう My おもちゃ	30
 2年生 遊び方を工夫して楽しもう	33
 2年生 2年生の思い出すごろく	36

オンライン授業

 2年生 Jamboard を使いこなそう	40
 2年生 1年生にしらせよう	44
 2年生 オンライン音読劇をやろう	48
 2年生 お話のさくしゃになろう	54

日本語学級3年生

対面授業

 **3年生** しりょうから分かる、小学生のこと 58

 **3年生** ことわざについて調べよう 60

オンライン授業

 **3年生** ○○のひみつ おしえます 63

 **3年生** ことばであそぼう ① 69

 **3年生** ことばであそぼう ② 72

 **3年生** 感想を伝え合おう ありの行列 75

 **3年生** 登場人物の気持ちをさぐる モチモチの木 79

在籍学級4年生

オンライン授業

 **4年生** きょう土の伝統・文化と先人たち 84

在籍学級5年生

対面授業

 **5年生** より豊かなフィリピンへ 98

オンライン授業

 **5年生** 比べ方を考えよう (1) 104

在籍学級6年生

オンライン授業

 **6年生** フィリピンと日本の架け橋 116

日本語指導の実践を通して 122

今後に向けて 123

本冊子刊行にあたって

弊財団は、1971年に外務省および文部省（現 文部科学省）の許可を受け、海外で経済活動を展開している企業・団体によって設立されて以来、海外赴任者・帰任者のための教育相談・情報提供や、日本人学校・補習授業校への財政上・教育上の援助等をはじめ、政府の行う諸施策および維持会員の要望に相呼応して幅広い事業を展開・実施してまいりました。

一方、日本政府においても、近年急速に発展してきた経済社会のグローバル化に対応しうる人材育成を喫緊の課題と捉えており、文部科学省では在外教育施設をグローバル人材育成拠点と位置づけて、大学・民間研究団体等の研修者と連携して評価・検証を行い、より高度なグローバル人材の育成を見据えた先進的なプログラムの開発・推進を図ることを打ち出しました。

そして、弊財団は2017年に文部科学省より委託を受け、それらの指導體制、指導・評価方法、ICT教材の活用等の実証研究を担う「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」（略称：AG5）（委員長：佐藤郡衛・明治大学特任教授／前 目白大学学長／元東京学芸大学副学長）を実施いたしております。

その中のプロジェクトの1つ「日本人学校におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発とそのための教員研修のプログラム開発」では、昨今、日本国内と同様に日本人学校でも増加している国際結婚家庭の子どもなど日本語指導が必要な子どもに対し、日本語を教科横断型で学ぶ学習活動および在籍学級での授業における適切な支援を行うことで、日本人学校での学習に十分に参加できるようになり、力を伸ばしていくことを目指しております。

この取組は、2017年に台北日本人学校および台中日本人学校を研究提携校として開始し、その成果を活用し2019年よりマニラ日本人学校、大連日本人学校および青島日本人学校にて、バイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのより汎用性の高いプログラムの開発を進めているところです。その実践につきましては、AG5の成果発信サイト（<https://www.ag-5.jp/>）におきましてもお伝えしているところでありますが、この成果を海外子女・帰国子女教育に関わる多くの方々に広くご活用いただくため、今般、マニラ日本人学校にて開発した学習活動案をまとめた本書を刊行するはこびとなりました。

ここに、本研究開発にご尽力いただきました佐藤委員長をはじめとするAG5運営指導委員・研究員の皆様ならびにご協力いただきました学校関係者、児童生徒およびその保護者の皆様等すべての方々に対し、あらためまして厚く御礼申し上げる次第でございます。

本書が日本語指導に携わる皆様にとりまして、学習言語としての日本語を子ども達が

効果的に学ぶための手立てを考える一冊となり、今後の海外子女・帰国子女教育およびグローバル教育に加え、日本国内の外国人児童等の教育の発展にお役立ていただけましたら、本事業の実施者として、これに勝る喜びはありません。

弊財団では引き続き本事業を推進し、これを通じて新たに開発したプログラムや提言を国内外の教育施設へ周知・普及することにより、高度グローバル人材育成に貢献することを目指してまいり所存でございます。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年3月

公益財団法人 海外子女教育振興財団
理事長 綿引宏行

バイリンガル・バイカルチュラル人材の育成のための日本語指導プログラム開発 ～ 教科横断型日本語指導を通して ～

「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」では、8つの研究テーマがあります。本冊子で紹介する内容は、テーマ2「日本人学校におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発とそのための教員研修のプログラム開発」におけるマニラ日本人学校の研究実践です。

テーマ2は、2017～2019年度台北日本人学校・台中日本人学校・高雄日本人学校において、主としてバイリンガル・バイカルチュラルな観点を取り入れた日本語指導のプログラム開発、教員研修のプログラム開発に取り組みました。この成果を引き継ぎ、2019年度からマニラ日本人学校・大連日本人学校・青島日本人学校が、それぞれの学校の特色を生かしながら、バイリンガル・バイカルチュラル人材育成のための日本語指導プログラム開発、教員研修プログラム開発を進めています。

マニラ日本人学校では、2019年度以前から日本語指導が必要な子どもたちに向けて日本語学級を設置し、週1回放課後に学級担任が指導していました。しかし、多様化する児童の実態に適した効果的な日本語指導という点で課題がありました。そこで2019年度にAG5テーマ2の拠点校となったことを機に、台北日本人学校・台中日本人学校での日本語指導の取り組みの成果を生かして、マニラ日本人学校の子どもの実態を踏まえた上で、日本語指導が必要な子どもが在籍学級の教科学習に参加できるよう、新たな日本語指導プログラム開発に取り組みました。

まず、週1回という日本語学級の限られた時間でより効果を高められるよう、在籍学級の授業と関連させ、教科横断型の学習活動を設定しました。教科横断型とすることで、一教科だけでなく、他の教育活動でも子どもの活躍の可能性が広がります。また在籍学級の授業でも日本語学級と連携した日本語支援を行い、子どもたちの学習参加を促しました。

本冊子で紹介するマニラ日本人学校の実践事例は、日本語学級1～3年生の教科横断型の学習活動と4～6年生の在籍学級での授業を紹介しています。日本語指導が必要な子どもたちの変容や指導の効果・課題が具体的に示されています。在籍学級の学習に参加でき活躍できたことで、自信をもち学ぶ意欲を高めていく子どもたちの姿を読み取ることができるでしょう。各地の日本人学校でも、マニラ日本人学校の実践を手がかりにして、それぞれの特色を生かしながら取り組んでいただければ幸いです。

今後は、オンラインでのマニラ・大連・青島情報交換会の経験を活かして、各地の日本人学校での成果も共有し、より汎用性の高い日本語指導プログラムへと発展させたいと願っています。

AG5運営指導委員・目白大学専任講師
近 田 由 紀 子

本校の日本語指導について

本校の現状

本校には国際結婚家庭の児童が在籍しています。その数は近年増加傾向にあり、2019年度の国際結婚家庭児童数は、全体455人の約20%に当たる85人となりました。2020年度はコロナウイルスの影響でその数は62人まで減りましたが、全体184人の約34%に当たります。この国際結婚家庭の児童は現地のインターナショナルスクールに進む児童もいますが、本校の中学部や国内の中学校へ進学する児童がほとんどです。また、卒業前に日本の学校へ転出する児童も少なくありません。そのため保護者は児童に対して、それぞれの学年相応の日本語力や学習内容を身に付けることを望んでいます。

しかしこの国際結婚家庭の児童の中には、授業中、教師の指示が分からなかったり、学習言語能力が十分でなかったりするために学習に参加することが困難な児童がいます。このような児童に対し、本校では日本語学級を開設して日本語の指導を行っています。

日本語学級

2019年度以前から日本語学級は開設されていましたが、指導内容や指導方法は児童の実態に適しているとは言えないものでした。国際結婚家庭児童数の増加に伴って日本語学級へ入級する児童数が増え、その実態も多様化しています。2019年度よりAG5テーマ2の拠点校となったことを機に、従来の指導体制や指導方法を見直し、バイリンガル・バイカルチュラル人材育成のための日本語力向上プログラムとそのための教員研修プログラム開発に取り組んでいます。

▶ 日本語学級の指導時間

週1回金曜日の放課後に40分間、各学級担任が対象児童に対して日本語指導を行います。

小1～3：年間24時間

小4～6：年間16時間（クラブ活動のない週に実施）

▶ 日本語学級入級の手続き

1年生は年度初めの保護者会で日本語指導が必要な児童の保護者へ説明をします。その後保護者の希望により入級手続きをします。2年生以上は前年度に対象児童の保護者へ案内を出し、保護者の希望により翌年の手続きをします。

2019年度：37人（1～3年生31人、4～6年生7人）

2020年度：36人（1～3年生28人、4～6年生8人）

▶ 児童の実態に応じた指導

2019年度9月にDLA〈はじめの一步〉の語彙力チェックを行いました。その結果から本校の日本語学級に入級している児童の日本語力は日本国内の外国人児童と比べて高い傾向にあることがわかりました。しかし在籍学級の学習では日本語でつまづくことが課題でした。

そこで、日本語学級では児童それぞれの実態をとらえて、在籍学級の授業に参加できるように教科の先行学習を主として進めています。また限られた時間で効果的な日本語指導ができるように各学年の担任が児童の実態を踏まえ、教科横断型の日本語指導学習活動案を作成し、指導を行っています。

在籍学級での日本語指導

日本語学級での指導が在籍学級での指導に活かせるように、また在籍学級でも日本語支援ができるように、指導方法を研究しています。そしてより効果的に指導を行うために、2020年度からは本校の研究部の中に日本語指導について研究を進めるAG5委員会を立ち上げ、研究部全体で協力し、指導を進めています。また校内研修のテーマと関連させることで、全教職員で取り組む体制ができています。

対面授業とオンライン授業

2019年度は対面授業で指導を実施できましたが、2020年度は、コロナ禍の影響で学校が開校できず、年間を通してオンライン授業で進めることになりました。教職員と児童生徒の全員が学校専用のGoogleアカウントを取得し、Googleの各種アプリを利用して授業を行いました。初めは授業時数確保のため、日本語学級を開設することができませんでした。しかし校内のインターネット環境を整えるとともに1日の授業数も増え、7月からは午後の時間帯を利用して日本語学級を開設することができました。本校が主に利用してきたGoogleのアプリは、Google Classroom（課題の配布・提出）、Jamboard（オンライン上のホワイトボード）、Google Slides（オンライン上のプレゼンテーションツール）、Google Forms（オンライン上のアンケートツール）の4つです。さらに、Zoomのブレイクアウトセッションやチャットのメッセージ機能もほとんどの授業で利用しています。これらを効果的に使うことで、オンライン授業であっても児童が主体的に学習に取り組めるようになりました。

本冊子では、2019年度に実践した対面授業の学習活動と2020年度に実施したオンラインによる学習活動を紹介します。



対面授業

第1学年
日本語学級

じどう車くらべ

3時間

トピックの ねらい

- フィリピンのおもちゃの車（はたらく車）を操作しながら、それらの「しごと」や「つくり」について話すことができる。
- おもちゃの車を操作しながら、お話づくりをすることができる。

日本語の 目標

- ① 「○○は、～なしごとをしています。」「そのために」「～なつくりになっています。」の文型を用いて、気づいたことを伝えることができる。

関連

教科・ 単元

- 国語科：「じどう車くらべ」 **A**
- 算数科：「たしざん・ひきざん（もんだいづくり）」 **B**

くらし・ 行事

- ・ 身近にある乗り物（スクールバス・ジブニー・トライシクル） **C**

主な 学習活動

- ① おもちゃの車（はたらく車）を操作し、「しごと」や「つくり」を調べる。
- ② 「しごと」や「つくり」で気づいたことを発表する。
- ③ おもちゃの車を操作しながら、お話作りや問題作りをする。

教材・ 教具等

おもちゃの車、自動車の写真・カード

授業展開

時間	学習活動	指導のポイント	関連
		支援 ○日本語 ◇教科 * バイカルチャラルの視点	
	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の名前当てクイズをする。 	<ul style="list-style-type: none"> * フィリピンのおもちゃの車や日本の車の画像を提示し、様々な自動車があることに気づくようにする。 	C
	どんな「しごと」をするじどう車なんだろう。		
1	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃの車を手に取りながら、それぞれ「しごと」を話し合う。 自動車の「しごと」をカードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 教材文で紹介されている「しごと」を、カードで示す。 ○ 話し合いに参加できるように、「○○は、～なしごとをしています。」の文型を提示する。 * 働く車について、フィリピンや日本で見た経験も話すと良いことを伝える。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の名前と「しごと」のクイズをする。 教材文の初めの段落を読み、課題をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に作成したカードやおもちゃの画像を用いる。 ◇ 教材文に繰り返し出てくる同じ言葉「しごと」「つくり」「そのために」をカードで示す。 	
	じどう車の「しごと」と「つくり」をせつめいしよう。		
2	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の例を一つ選んで読む。 自分が説明したい自動車を選ぶ。 選んだ自動車の「しごと」と「つくり」を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長文でつまづかないように、教材文を自動車ごとに分けて短冊にしておく。 ○◇ 児童はそれぞれ短冊を一つ選んで読み、「しごと」と「つくり」にマーカーで印をつけるよう指示する。 ○ 「しごと」「そのために」「つくり」のカードを使って説明すると良いことを伝える。 * ジブニーやトライシクル（フィリピン例）など、その国特有の乗り物も扱う。 	A
	<p>例 しごと はしご車は、高いところにいる人を助け出します。「そのために」</p> <p>つくり ながいはしごや太いアームがあります。</p>		C
	じどう車のお話やもんだいを作ろう。		
3	<ul style="list-style-type: none"> 友達とおもちゃの車を操作しながら、お話の想像を膨らませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自動車を動かす人や利用する人などについても想像して会話ができるように、絵カードを提示する。 	C A

3

- お話に関連した問題づくりをする。
- 自分たちが作ったお話や問題を発表する。

◇ 場所や場面の画像をスクリーンに提示して、算数科をはじめとして他教科の学習に関連させることができるようにする。

◇ 会話の中から、「たしざんのことば」と「ひきざんのことば」を確かめ合う。

たしざんのことば

「もらうと」「くると」「かってきました」
「ぜんぶで」「あわせて」

ひきざんのことば

「あげると」「かえると」「つかいました」
「のこりは」「ちがいは」「どちらが」

○ **たしざんのことば** と **ひきざんのことば** をカードにして分類する。

B

成果



- おもちゃの車を使用しての授業はとても効果的であった。
→ 具体物に触れることで、より構造を理解することができ、「説明する」という活動がしやすくなった。また、車のしごとやつくりについて説明することができた。
- 具体物を使うことで、児童が意欲的に活動に参加することができた。



対面授業

第1学年
日本語学級

これは、 なんでし ょう

3時間

トピックの ねらい

- 身の回りの物や果物、動物などの特徴を短い文で表したり、数え棒で形を作ったりしながらクイズを考え出すことができる。
- ヒントをつなぎ合わせて考えることにより、クイズに答えることができる。

日本語の 目標

- ①「まるい」「学校にある」「いつもうごいている」など、クイズのヒントとなる特徴を見つけ出すことができる。
- ②特徴をヒントにして「〇〇です。これは何でしょう。」と、クイズを出したり、「それは、□□だと思います。」と、答えたりすることができる。

関 連

教科 ・ 単元

- 国語科：「これは、なんでしよう」 **A**
「にているかんじ」 **B**
算数科：「かたちづくり」 **C**

くらし ・ 行事

- ・節分 **D**
- ・フィリピンの生活(料理・季節・自然・行事) **E**

主な 学習活動

- ①クイズの作り方や進め方（ルール）を知る。
- ②クイズを作って、問題やヒントを出したり、答えたりする。
- ③漢字、平面図形を題材としてクイズを作る。

教材・ 教具等

画用紙、ペン、絵・言葉・漢字カード、iPad（画像）、ふりかえりカード、筆記用具

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支 〇日本語 ◇教科
援 *バイカルチュラルの視点

関連

- 連想ゲームをする。

- 3人1組で1人が解答者。ヒントを出す2人は、問題カードの中から答えを決め、ヒントを交互に出して、解答者に早く答えさせた方が勝ち。

A

- * 「メリエンダ」「すし」「サンパギータ」「まめまき」の問題カードを用意する。

D

クイズをつくらう。

- 「これは、なんでしょうクイズ」に取り組むことを知り、クイズの作り方を理解する。

- ◇ 「スイカ」を例として、クイズの作り方とルールを確かめた後、クイズ作りの練習のため、「バナナ」を提示する。

A

1

- ① 例題「スイカ」に答える。

【例題】「スイカ」

Q 「緑色です。これは、何でしょう。」

A 「それは、ピーマンだと思います。」

- ② 「バナナ」で問題作りをする。

【クイズの進め方と約束】

- 1つのヒントで3回まで答えられる。
- 解答者は、手を挙げて指名されてから話す。
- ヒントは3つまで。
- 3つのヒントで答えられなかったら質問コーナー。

Q 「それは、生き物ですか？」

A 「いいえ、それは、果物です。」

- ③ 「マニラのくだもの、なんでしょうクイズ」を出題し合う。

- * 他の知っている果物での作問にチャレンジする。フィリピンで見かける果物も選択に入れる。

2

- 「これはなんでしょうクイズ」に参加して、ルールを確かめる。

- ◇ 教師が出すクイズに答える活動を通して、ルールを確認する。

A

【クイズの進め方と約束】

- 1つのヒントで3回まで答えられる。
- 解答者は、手を挙げて指名されてから話す。
- ヒントは3つまで。
- 3つのヒントで答えられなかったら質問コーナー。

チャレンジ！クイズ大会（グループで クイズを出そう こたえよう）

- ペアでクイズを作り、ペアでクイズを出して、ペアでクイズに答えることを確かめる。

- 1年生日本語学級在籍児童 10名を5組のペアに分ける。

2

- ペアでお題を選び、クイズを作る。
 - 出題ペアがクイズを出し、その他のペアが答える。
 - 本時の学習を振り返り、発表する。
- それぞれがクイズのお題を選べるように言葉カードを用意する。
 - * 日本だけでなく、フィリピンのもものも取り入れる。
「富士山」「おやつ」「北海道」「いのしし」
「タール火山」「メリエンダ」「セブ」「カラバオ」等
 - ◇ クイズは、出題ペアの2人が交互に出す。その他のペアは、相談して解答するというルールで進める。
 - 時間があれば、学級対抗でも行う。
 - ふりかえりカードを配布する

E

「かんじクイズ・かたちクイズ」をたのしもう！

3

- 漢字クイズを出す。答える。
 - 形クイズを出す。答える。
 - 本時の学習を振り返り、発表する。
- ◇ 出題者は、一画ごとに「これは、何という漢字でしょうか。」と尋ね、解答者は、分かったら「それは、○という漢字だと思います。」と答える。(漢字の一部だけを見せるパターンも取り入れるとよい。)
 - ◇ 出題者は、色板や数え棒を並べたり、直線を描いたりしながら、「これは、なんの形になるでしょうか。」と尋ね、解答者は、分かったら、「それは、○の形だと思います。」と答える。
 - ふりかえりカードを配布する。

B

C





- ふりかえりカードの実用性と有効性を確かめることができた。
- 出題者と解答者、出題者と出題者という立場で、思考を深めながら言葉をやり取りすることができた。
- 学び合いを楽しむことができた。
- ものの特徴や縁のある言葉について扱うことができた。
- 新しい知識獲得の後の確かめとして、「これは、なんででしょう」は活用できるかもしれない。
- 「これはなんとという漢字でしょう。」では、漢字の「部分」の共通点に着目するとよいことに気づき、工夫して出題をすることができた。

成果



課題



- △ 通年の評価と月、トピックごとの評価など、何をどう積み重ねていくか、検討をして計画的に実施する必要がある。
- △ 学級別（3～4人）と学年全体（10人）とでは、学年全体で行う回数の方が少なかったため、発言の声が小さくなりがちだった。
- △ 知っているものの中からクイズを出すということが主となるが、知らなかった日本のもの、フィリピンのものを題材にして知識を広げることも検討してもよいかもしれない。



オンライン授業

第1学年
日本語学級

いきものブックをつくろう

2時間

トピックの ねらい

- 生き物について様子を調べたものを説明カードに表すことができる。
- 自分が作った説明カードを使って、生き物について友達に発表することができる。

日本語の 目標

- ① 生き物の特徴に気づき、「〇〇が～にかかれています。」「〇〇は、～することができます。」という文型を使って、説明文を書くことができる。
- ② 「名前」「場所」「体の特徴」「隠れ方」を説明の順序を意識しながら、文を書くことができる。
- ③ 事柄の順序に気をつけながら、友達に説明することができる。

関連

教科・ 単元

- 国語科：「うみのかくれんぼ」 **A**
- 生活科：「いきものとなかよし」 **B**

くらし・ 行事

- ・ フィリピンの自然・生き物 **C**

主な 学習活動

- ① 生き物の説明カードを作る。
- ② 「いきものブック」発表会を開く。文型を使って順番に気をつけて友達に説明することができる。

教材・ 教具等

フィリピンの生き物の写真、説明カード、質問・感想のモデル文、ワークシート

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチュラルの視点

関連

- 「うみのかくれんぼ」を音読する。
- 自分が知っている海の中の生き物を発表する。

いきものブックをつくろう

- 教科書に書かれている観点を確認する。
 - 名前
 - 場所
 - 体の特徴
 - 隠れ方
- 自分の調べたい生き物を選んで、生き物の説明カードを作る。

1

- ◇○教科書の写真を見て、海の中にいる生き物について確認する。
- * 児童の日本や海外での経験をもとにして、発表するとよいことを伝える。

A
B
C

- 教科書の観点を提示して、視覚的にも確認できるようにする。

A

- * フィリピンで見られる生き物の写真をいくつか提示し、なるべく自分が見たことのある生き物を調べるように指導する。

- ◇説明カードのモデルを提示し、カードに書くことを確認する。

- 文型を画面に提示して、カードに説明文を書くための参考にすることを伝える。

- ○○が△△にかくれています。
- ○○は、△△することができます。

いきものブックのはっぴょうかいをしよう

- 話すときに大切なことを確認する。
- 発表の練習をする。〈各グループで〉

2

- ◇○発表するときに大切なこと（声の大きさ、目線、話す速さ）を意識して、伝えたいことが相手に伝わるようにすることを確認する。

A

- ◇友達のいいところを見つけたら、真似して自分の発表練習にも取り入れるように伝える。

A

2

- 調べた生き物について、友達に説明する。
また、発表を聞いて感想を言う。

- どこでウミガメを見たのですか？
- フィリピンオオコウモリについてはじめてしました。
- はっきりとはっぴょうできていたのでわかりやすかったです。

- 学習の振り返りをする。

- 友達の発表を聞き、適切な質問・感想の発表ができるようにする。そのために、質問や感想の例を掲示する。

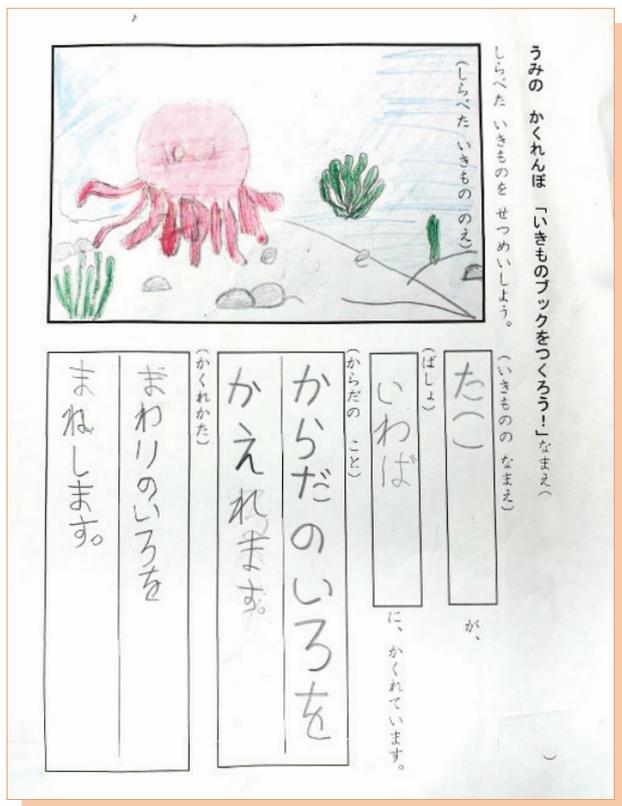
- どこで〇〇を見たのですか？
- 〇〇についてはじめてしました。
- 大きなこえで、はっぴょうできていたのでよくわかりました。

- 振り返りの視点を示したワークシートを使って振り返るようにする。

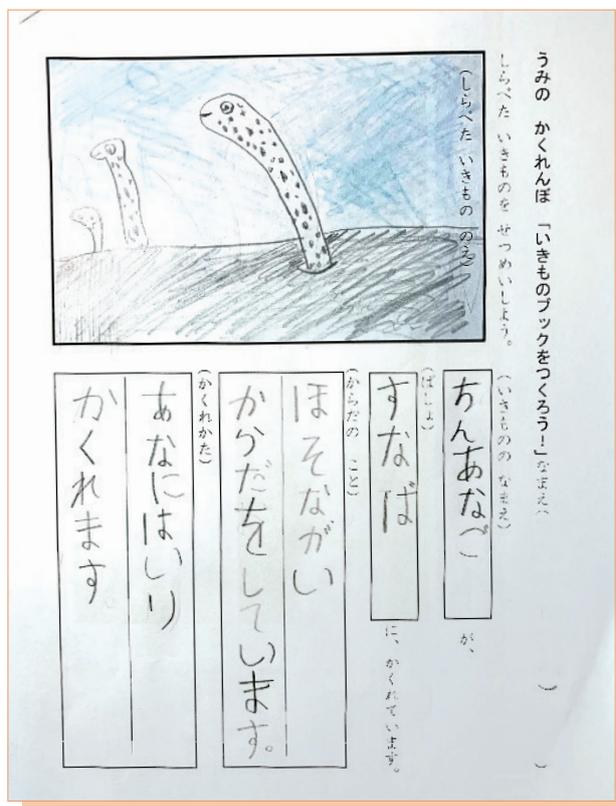
- 発表するときに気を付けたこと。
- 友達に伝えることができたか。

A
B
C

A



児童の説明カード(たこ)



児童の説明カード(ちんあなご)

児童の様子

《日本語学級での様子》

- ひとりひとりの発表をきちんと聞いて、友達のいいところを自分の言葉で発表できている児童がいた。
- 「発表の時に大切なこと」を意識して発表できていた。
- △ 書きたいものを決め、隠れ方を書く際に、隠れ方を説明するのが難しい児童がいた。
- △ 「です。」「ます。」が抜けている児童が多かった。こちらが指導すると、訂正して読むことができた。

《在籍学級での様子》

- 国語科「かくれんぼ」の先行学習として発表会のリハーサルをおこなったので、クラスでの発表の時に、自信をもってすらすらと文章を読むことができた。
- 伝え方がわかっていたので、画面をみながら、他の児童と同じスピードで授業に取り組むことができた。
- △ 隠れ方という言葉があまりわかっていない様子で、在籍学級の授業の中で同じ質問をした時もほとんどわからない様子だった。
 - ・ 隠れる → わかる
 - ・ 隠す → わからない児童が多い
 - ・ 変身する → ほとんどわからない

学習活動案・日本語支援について

1時間目

成果



- 隠れ方や、どんなところにいるのかまで説明することのできる児童もいた。
- 先行学習として、フィリピンで見られる生き物も含めて、いきもの図鑑づくりに取り組んだ。それにより在籍学級の授業では児童の興味・関心を高めることができたため、生き物はどんなところにいるのかまで日本語で詳しく説明することができた。

課題



- △ 「隠れ方」という言葉が分からないまま在籍学級の授業に参加することになった。
 - 児童の分からない言葉をしっかりと把握し、指導する必要がある。「隠れ方」については体験活動を取り入れて言葉の理解を深めていく。

2時間目

成果



- 日本語学級でのプレ発表会を設定したことにより、在籍学級の授業で自分の書いた文章を堂々と発表できるまで表現力を高めることができた。

課題



- △ 「です。」「ます。」が抜けている児童が多かったことから、発表する際の文型がまだ定着していないことが分かった。
 - 「です。」「ます。」を使って、相手を意識した話し方ができる活動を設定する。



オンライン授業

第1学年
日本語学級

かたかなをみつけよう

1時間

トピックの ねらい

- 身の周りにある片仮名を進んで探し、見つけることができる。
(オンライン授業の為、児童は各家庭から参加するので、家の中にある片仮名を探す。)

日本語の 目標

- ①身の回りにある片仮名をたくさん見つけることができる。
- ②提示された身の回りの片仮名を読み、それが示すものを、家の中で探し、正しく持ってくることができる。
- ③片仮名の語を正しく読んだり、書いたりすることができる。

関 連

教科・
単元

国語科：「かたかなをみつけよう」

A

くらし・
行事

・フィリピンの生活

B

主な 学習活動

- ①絵から片仮名で書く言葉を見つけて、読んだり書いたりする。
- ②家の中にある片仮名を探して、発表をする。

教材・ 教具等

国語教科書・片仮名一覧表

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチュラルの視点

関連

- ウォーミングアップ〈全体〉
 - 「かたかなをみつけよう」を音読する。
 - 教科書に出てきた片仮名を見つける。

- 絵の中から片仮名を見つける。
 - 片仮名の言葉を声に出して読む。

- 提示された片仮名を読み、それが示すものを、家の中から探す。

片仮名で書くことばをみつけよう。

〈各グループにわかれて〉

- 家の中にある片仮名を見つけにいき、画面の前に持ってくる。

- 見つけてきた片仮名をホワイトボード書いて発表する。
 - バナナ
 - ハーモニカ
 - ノート

- 発表の練習をする。

- 見つけてきた片仮名を発表する。〈全体〉

- まとめ

- ◇ 片仮名とはどういうものなのか再確認する。

- 絵から見つけた片仮名言語を教師が実際のホワイトボードにメモし、視覚的に情報をつかめるようにする。

- * フィリピンでよく知られているフルーツ（バナナやマンゴー）を例として提示し、どのようなものを探すのかイメージできるようにする。

- 児童が発言しやすいように、ブレイクアウトセッションで、少人数に分ける。

- ◇ 片仮名の文字の表記でつまずいている児童には、国語の教科書 P.126 の片仮名一覧表を見るように指示する。

- 「ぼく（わたし）は、〇〇をみつけました。」という文型を提示して、発表の仕方を理解した上で練習できるようにする。

- 発表するときに大切なこと（声の大きさ、目線、話す速さ）を意識して、相手に伝わるようにすることを確認する。

- * 発表の中でフィリピン生活に関わる片仮名があれば、取り上げて日本の言葉と比較し、双方の文化を全体で共有する。

1

《日本語学級での様子》

- 家の中のもの（片仮名）を探してくるという課題をとっても楽しんで取り組んでいた。これもかな、あれもかなと、どんどんものを持ってきて、片仮名を集めていた。片仮名かそうでないか判断できないものも、「これは、どうですか？」とこちらに質問し、意欲的に取り組む姿が見られた。
- モデル文を用いて、自分の見つけた片仮名を発表することができていた。
- 終始、全員が笑顔で取り組むことができた。普段の日本語学級でも苦戦していた児童も、この時間は主体的に活動することができていた。

《在籍学級での様子》

- 同じ単元を扱った授業では、積極的に発表する児童の姿が見られた。
- 身近なものの中に沢山の片仮名があることに気づくことができた。
- △ 片仮名の文字を忘れて教師にその文字を尋ねるなど、片仮名の習得が十分でない児童がいた。
- △ 英語の発音のまま片仮名にしてしまう児童がいた。

成果



- オンライン授業においても、家の中の片仮名探しをするとう活動を設定したことにより、児童が生き生きと主体的に活動する展開ができた。
- 家の中から片仮名を探す活動を取り入れることで、生活の中に、フィリピンのくらしならではのものがあることに気づくことができた。

1時間目

課題



- △ 片仮名文字を明確に認識することが難しかったり、片仮名と認識はできるが、正しく書くことができなかつたりする児童がいた。
 - ➔ 片仮名の表をいつでも確認できる位置に掲示することにより、不安な時にはすぐに確認できるようにする。
- △ 英語で聞いた音で書いてしまうので、「ドーナッツ」が「ドーナツ」になるなどの間違いがあった。
 - ➔ 英語の発音と、日本語の片仮名では違うときもあると理解できるように、導入のときに絵や写真と片仮名で書いた文字を対応させる活動も取り入れる。また、日本語の表記と英語の発音が異なる時にはその都度、ホワイトボードに書いて提示する。



オンライン授業

第1学年
日本語学級

しらせたいな見せたいな フィリピンのおやつメリエンダ

4時間

トピックの
ねらい

○自分の家のメリエンダを友達につたえることができる。

日本語の
目標

① つたえたいものをくわしく観察し、「それはどんな形なのか」「いろは何色なのか」「あじはどんな味なのか」などの特徴を話したり、書いたりすることができる。

② メモをもとに「〇〇は〇〇です。」という文を書くことができる。

関連

教科
・
単元

国語科：「しらせたいな 見せたいな」 **A**
道徳：「せかいのこどもたち」 **B**
生活科：「おおきくなった」 **C**
「フィリピンとなかよし」 **D**

くらし
・
行事

・ フィリピン・日本・世界の食文化について **E**

主な
学習活動

① 世界の人たちの食生活について考える。
② 自分の家のメリエンダを説明する文章を書く。
③ 自分の家のメリエンダを全体に向けて紹介する。

教材・
教具等

国旗カード、言葉カード、ワークシート

授業展開 (40分)

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチュラルの視点

関連

- 国旗クイズをする。
- 写真を見て、どこかの国の食べ物（世界のいろいろな食事）なのか考える。

- * 下記の国の国旗を提示する。
- * 世界の食事クイズ（冷たい食べ物）をする。

B
B

フィリピンと日本のおやつをくらべよう。

- フィリピンと日本の知っているおかしを挙げる。
- フィリピン（メリエンダ）、日本のおやつについて考え、気づいたことについて話す。

- ◇ フィリピンと日本のおかしの写真をいくつか提示する。
- 「似ているところ、違うところ」の2つを観点に比べるように伝える。
日本…和菓子、だんご、どらやき
フィリピン…ハロハロ、トゥロン

D
E

- 友達に知らせたいとおきのおやつを考える。

- ◇ 自分が友達にぜひ知らせたいと思えるような課題を設定できるように、なぜそれを知らせたいのかを明確にさせる。

A
D
E

1

各グループ

- これまで食べたことのあるメリエンダをホワイトボードに書き、どれを調べてくるのか決める。
- ワークシートに調べてくるものを記入する。

- いくつかの候補の中から、一つ調べてくるものを決める際に、理由も言えるように、なぜそれを選んだのかを言えるようにする。

全体

- 何を調べてくるのか発表する。

国際結婚家庭の児童

- フィリピン 4人（カナダハーフ）
- ベトナム 1人
- オーストラリア 1人
- タイ 1人

A

次回までの課題

- ➔ これまで食べたことのあるメリエンダについて1つ以上調べてくる。写真または絵を用意してもらう。

- 言葉カードを読む練習をする。
- 調べてきた自分の家のメリエンダについて発表する。
- みんなに知らせたいものを1つ決める。

- メリエンダの説明で使う言葉カード（様子を説明する言葉）を読む練習をする。

A
A
D
E

2

つたえたいことを
ことばでかこう。

- 絵や写真から見つけた特徴を短い言葉で書く。

2

- 「いろ」「あじ」「ざいりょう」を主語として使うことを提示する。 **A**
C
- ◇ 「おおきくなった」で勉強した観点を提示する。
- 絵や写真の特徴をワークシート内に、短い言葉で加えてよいことを伝える。
- 主語と述語となるように例を示す。

- 言葉カードを読む練習をする。
- 自分の家のメリエンダをまとめたワークシートをもとに文章を作る。

3

つたえたいことを
ぶんしょうにしよう。

- グループの中で、発表の練習をする。

- メリエンダの説明で使う言葉を単語カードを10枚～15枚用意して提示する。
- ◇ ワークシートをもとに文章を作るモデルを提示する。 **A**
- 「いろはきいろです。」のような「○○は○○です。」という枠を作ったワークシートに記入するとよいことを伝える。
- 短い言葉で書かれていることの主語が何かを明らかにしてから書くように助言する。
- 大きな声で、ゆっくりはっきり読む読み方を確認する。 **A**

- 発表会の練習をする。

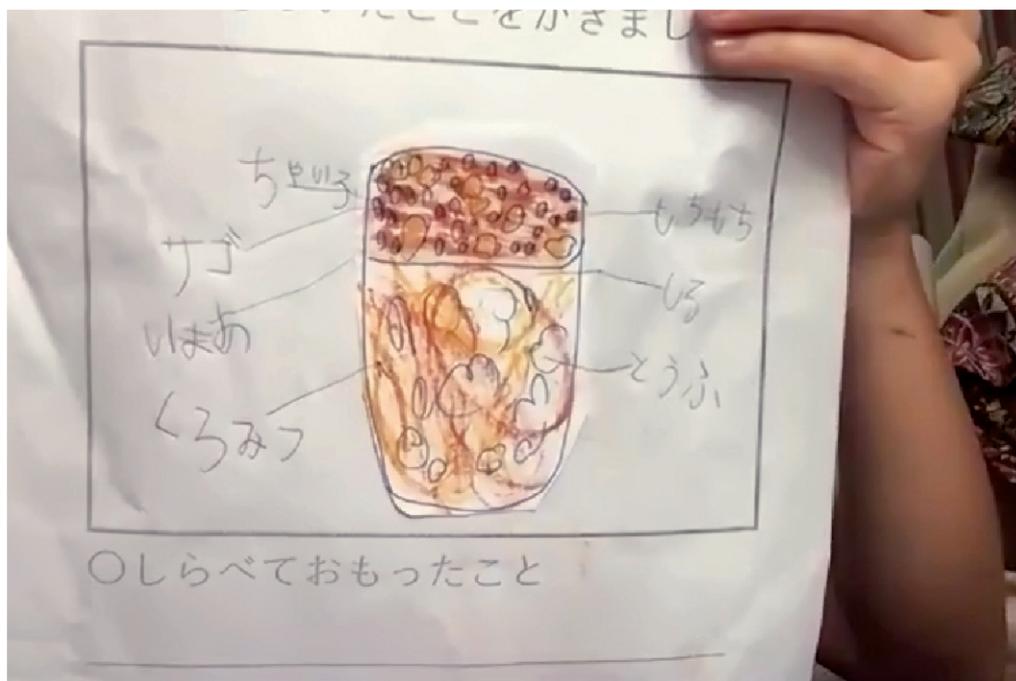
ともだちに、じぶんのいえの
とっておきのおやつを
しょうかいしよう。

- 自分の家のメリエンダ発表会をする。
- 自分の書いた文章をもとに、自分の家のメリエンダを紹介する。
- 発表を聞いて振り返りを行う。

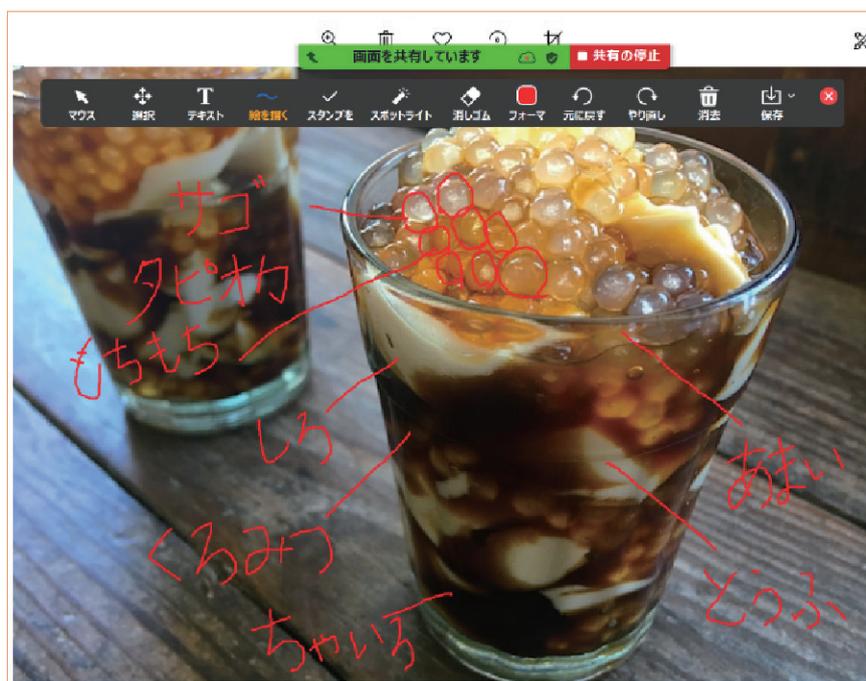
4

- 発表で気を付けることを確認し、グループに分かれて練習する。 **A**
B
- 「よいところ」だと抽象的になるので、「よくわかったところ」「詳しく書けているところ」などを意識しながら読むように、発表の前に確認をする。 **A**
D
E

※メリエンダ…フィリピンの食事と食事の間にとる日本のおやつのようなもの。



児童の書いたワークシートの写真



写真を見て児童の発言を書き足した画像



「しらせたいな 見せたいな ~ フィリピンの おやつ メリエンダ ~」の振り返り

児童の様子

《日本語学級での様子》

- 全体を通して、「自分の好きなおやつ」ということで興味関心が高まり、主体的に取り組むことができていた。
- 自分の両親のルーツ（ベトナムのおやつ）を題材に調べた児童がいた。
- 自分の好きなおやつをホワイトボードに沢山書くことができていた。
- 絵カードを見て、楽しそうに授業に参加していた。
- すでに、見つけたことを書いてきた児童もいたが、より詳しく書くことができた。
- どのようにして作るのかを順序立てて話す児童がいた。（①グループ）
- オノマトペを使って、見つけたことを書く児童もいた。
- 「しらせたいな 見せたいな」で一度やったことのある手順だったためスムーズに学習に取り組むことができた。
- △ 一部の児童は、絵から色については見つけることができたが、材料や食べた感じなど書くことが難しい様子が見られた。

《在籍学級での様子》

- 「フィリピンとなかよし」の先行学習として今回のトピックを扱ったので、クラスでの発表の時に、自信をもって発表する姿がみられた。
- 日本語学級の児童たちにとっては、一度やったことのある手順だった為、ほかの児童よりも早いスピードで課題に取り組み、決めたトピックについて詳しく書くことができた。
- 日本語があまり理解できず、いつも友達の発表を聞いてからしか挙手しない児童が、一番に手を挙げて発表した。

成果



- 児童の経験や知っていることをもとにすることで、フィリピンのおやつについて考えることにつなげることができた。

△ 「友達に知らせたいおやつ」の意味が分からず、こちらからいくつかのおやつを提示しなければ先に進めない児童がいた。

→ 「友達に紹介したいおもちゃ」などもっと児童に身近なトピックを設定して、紹介することの意味をしっかりと押さえてから課題に取り組めるようにする。

→ 「だいすきなおやつ」というもっと児童に身近なトピックを設定する。

△ おやつ絵の課題をだしたが、課題の紙をなくした児童がいた。

→ 準備物の連絡を理解できない児童もいるため、日本語学級用のファイルを用意し、プリントを整理するためのルールを決める。

学習活動案・日本語支援について

1時間目

課題



2時間目

成果



- ほとんどの児童が絵とオノマトペを結び付けることができていた。
- ⑤グループの児童には難しそうだった。
- 本時で学習したオノマトペを使って、見つけたことを書く児童もいた。
- 全員が「楽しかった」と達成感を持つことができた。

- △ ⑥グループの児童にはオノマトペを結び付けることが難しいことがわかった。(あつあつ、さくさくなど)
- 児童が日常的に使っている言葉をしっかりと把握して⑤グループでも分かる簡単な問題もいくつか設定する。(ふわふわなど)

課題



- △ 食べ物を説明する観点として「におい、味、食べた感じ」は①のグループの児童からしか意見が出ず、日本語学級内でも言語能力の差に対する手立てを考える必要がある。
- 少人数のグループに分かれ、それぞれの児童にとって必要な食べ物を説明するための語彙を確認する。その際、それぞれのレベルに応じた言葉を提示することで、活用できるようにする。

成果



- 色や味などを書くことには、ワークシートの活用が有効だった。
- 色や味、材料など、沢山の観点や、順番をカードで提示することによって、それらを考えて文章を書くことができた。

- △ 「材料」の意味が「味」と混同している児童がいた。「カップケーキ」を例に、本を使って説明したり、個別指導の時間を使って説明したりしても、十分ではなかった。

課題



- 区別が難しい「バナナ」などを例に、材料のバナナとバナナ味の違いを全体で確認し、材料と味の意味を区別させる。
- △ ワークシートを渡しても失くして作り直しに時間がかかる児童もいる。
- 準備物の連絡を理解できない児童もいるので、日本語学級用のファイルを用意し、プリントを整理するためのルールを決める。

成果



- 伝えたいことが相手に伝わるように、発表で気をつけることを確認して発表に臨ませることができた。それが児童の自信につながった。

- △ 友達の食感を表す表現の「もちもち」や「ぷちぷち」などのオノマトペを理解できていない児童がいた。

課題



- 他の授業でも繰り返し使用することで、活用に慣れるようにする。→ 対面であれば、オノマトペカードを掲示して常に目に触れられるようにしておくことで、気になるときは自分で確認できるようにしておく。

4時間目



オンライン授業

第1学年
日本語学級

しらせよ、うらせよ、せんせいのいっしょ

1時間

トピックの ねらい

- マニラ日本人学校の先生にインタビューをすることができる。
- インタビューしてわかった「せんせいのこと」を友達に伝えることができる。

日本語の 目標

- ① インタビューしたことをメモして、「△△先生のいちばんすきなことは、□□です。」の文型を用いて発表することができる。

関 連

教科
・
単元

- 国語科：「ともだちのこと、しらせよう」 **A**
- 生活科：「がっこうたんけん」 **B**

くらし
・
行事

- ・ 文集マニラ **C**

主な 学習活動

- ① 先生にインタビューをする。
- ② インタビューした内容をメモする。
- ③ メモをもとに発表をする。

教材・ 教具等

マニラ日本人学校の教職員の写真、ワークシート、付箋・メモ、児童用ホワイトボード

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチュラルの視点

関連

全体

- 「ともだちのこと、しらせよう」のめあてをつかむ。

せんせいにインタビューしよう。

- 先生方に聞いてみたいことを話し合う。

グループ

- 先生にインタビューする。(グループ)

全体

- インタビューで分かったこと、自分の感想を発表する。
 - △△先生の一番好きなことは、おかしをつくることです。私も先生のクッキーを食べたいです。
 - △△先生の一番好きなことは、泳ぐことです。私も泳ぐことが好きです。

- 学習の振り返りをする。

- 次に聞いてみたい人を考える。

- ◇ 教師のことを紹介するという目的が理解できるように、マニラ日本人学校の教師の写真を提示する。

- ◇ ともだちにインタビューをした時のトピックを振り返る。

- * マニラ日本人学校は、現地の教師やスタッフにも支えられていることに気づくように、特別教室や職員室・事務室などの写真を提示する。

- インタビューするときの文型をホワイトボードで示し、発言のための支援とする。

- どうして～ですか。
- いつから～やっていましたか。
- どうやって～しましたか。

- ◇ 全体での話し合いに活かせるように、対話の記録をホワイトボードにメモすることを伝える。

- 書くことが難しい児童については、教師と一緒にメモした内容をカードで提示し、その内容を画面に写して共有しながら進める。

- ◇ 発表するときに大切なこと（声の大きさ、目線、話す速さ）を意識して、相手に伝わるようにすることを確認する。

- 「△△先生のいちばん好きなことは、□□です。」というモデル文を活用して発表をする。

- ◇ 楽しかったところや難しかったところ、頑張ったことなど、観点を示したカードを提示する。

- * 親や教師以外の人にも目を向けられるように、メイドさんやドライバーさん、学校にいるスタッフの写真またはイラストを提示する。

1

《日本語学級での様子》

- インタビューをしてそれを発表する課題に取り組んだ。回数を重ねるごとに質問の仕方や発表の仕方が上手に行えるようになった。
- ホワイトボードにメモを取るということが増えた。自分が習得した漢字を積極的に使おうとする姿がみられた。
- 感想で「先生たちの好きなことをしれてよかった。」というような具体的な感想がでてきた。
- △ 一部の児童であったが、発表の時にとても声が小さい児童がいた。

《在籍学級での様子》

- 先行学習をしたことで、在籍学級の授業で自信をもってインタビュー活動に取り組むことができた。

成果



- インタビューしたことを友達に紹介するという目的を明確にしたために、意欲的に活動に取り組むことができた。
- モデル文の提示を明確にすることで主体的な学びを促すことができた。児童がスムーズに発言するための支援となった。
- 質問カードを用意することにより、児童が尋ねたいことを質問することができた。
- モデル文を画面共有で示したので、それに沿ってホワイトボードに書くことができた。以前に比べ早く書くことができるようになっていた。
- 児童が生活科や国語科の授業で取り組んだ題材を用いたため、多くの児童が発表することができた。
- 画像を用いたことで、視覚的にも興味を持って楽しむことができた。

- △ 教師の好きなものの情報をホワイトボードに書くことに時間がかかったり、わからない文字があったりして、つまり児童への支援が十分でなかった。

→ 教師が答える時には児童がメモをとるための参考となるように、教師の答えをホワイトボードに書いて見せながらインタビューに答える。

- △ 発表の時に声が小さくなってしまう児童への支援にはさらに工夫が必要だった。

→ グループ活動の際に発表練習の時間を長くとり、全体での発表の前に自信をもてるようにする。

課題



- △ 複数の写真を提示するときに、児童にとって知らない名前のものが多く、その知らないものを伝えることが難しくなり、時間がかかっていた。

→ それぞれ写真の横に数字をふっておくことにより、児童が自分の知らないものを伝える手立てとする。

- △ 感想で「たのしかった」と言った児童から、そう思った理由を聞き出すことができなかった。

→ 感想を聞く前に本時の活動の振り返りを行うことで、何が楽しかったのかイメージできるようにする。





対面授業

第2学年
日本語学級

分かりやすくせつめいしよう My おもちゃ

3時間

トピックの ねらい

- 身近なおもちゃをテーマにして、その特徴や作り方について知り、友達に分かりやすく説明することができる。
- おもちゃや遊びを題材にして掛け算の問題づくりをすることができる。

日本語の 目標

- ① 「～ています。」「～をせつめいします。」「～することができます。」を使って、おもちゃの作り方や遊び方を説明したり文を書いたりすることができる。

関連

教科・ 単元

- 国語科：「分かりやすくせつめいしよう おもちゃの作り方」 **A**
- 算数科：「九九をつくろう」 **B**
- 生活科：「げん地校こうりゅう」(人集めゲーム・自己紹介など)・「おもちゃランド」 **C**

くらし・ 行事

- マニラ：現地校との交流会・フィリピンの遊びやおもちゃ
- 日本：七五三・紅葉

主な 学習活動

- ① 作ったおもちゃをしょうかいしよう。
- ② 遊び方や作り方をせつめいしよう。
- ③ あったらしいなと思うおもちゃを伝えよう。

教材・ 教具等

おもちゃの写真・実物（児童の作品）・VTR、カード、付箋紙、短冊、ワークシート、かけざん九九の表、フィリピンのかけざんの説明

学習計画

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチュラルの視点

関連

ウォーミングアップ 「～ています。」

しょうかいしたいおもちゃを
きめよう

- 図画工作科や生活科で作ったおもちゃを見直す。
- 1年生の友達に紹介したいおもちゃを決める。
- おもちゃの写真を紹介カードにはる。
- おもちゃの材料や道具の名前を付箋に書く。
- おもちゃの名前・材料を紹介する。

- 5・2の段の九九を見直し構成を説明する。
- おもちゃを例にした問題文を提示する。
- おもちゃの写真や実物を並べて、イメージを明確にする。
- 1年生の友達に向けて紹介するという設定をして動機付けをする。
- * 日本のおもちゃ、フィリピンのおもちゃ（シーパ・サガイポ・バロール等）の写真をしながらやりとりをしてイメージを膨らめるようにする。
- 前単元で作成した仕掛けカードに写真や付箋を貼っても良い。
- モデル文を使って材料を説明する。

B

A

C

1

ウォーミングアップ 「～をせつめいします。」

おもちゃのつくり方やあそび方を
せつめいしよう

- 分かりやすい説明の仕方を確認する。
- まとまりごとに区切る。「まず」「それから」などの言葉を使って、順序よく説明する。文章に合う、絵や写真を使う。
- 分かりやすい説明を文に書く。
- 書いた文を発表する。

- 3・4の段の九九を見直し構成を説明する。
- 遊び方に関連させた問題文を提示する。
- 前時に書いた付箋を並べる。
- 「まず」「それから」の使い方を提示する。
- 前単元「しかけカードの作り方」の「たいせつ」を提示する。
- ワークシートにキーワードを示しておく。
- ワークシートに付箋を並べて文づくりができるようにする。

B

C

2

ウォーミングアップ 「～することができま
す。」

あったらいいなと思うものを
つたえよう

- あったらいいと思うわけを話す。

- 6・7の段の九九を見直し構成を説明する。
- * 指を使ったフィリピンの九九を練習する。
- 「あったらいいなと思うもの」を絵に描く。
- 短冊に書いたキーワード（できること・形・大きさなど）を提示する。

B

3

3

- できることを伝える。
- 形やいろ、大きさなどを説明する。
- 説明している様子を動画に撮る。
- 動画を見て振り返る。

- 「できること」「形」「色」「大きさ」を説明できるようにワークシートに書く。
- 児童同士で動画を撮り合い、振り返りをする。

C

バリエーション

- おもちゃランドでしかけカードの招待状を送ったり、おもちゃの作り方を説明したポスターを掲示する。
- 他の日本人学校の友達に自分たちが作ったおもちゃをカードや動画で紹介する。

参考文献：『国際理解ハンドブック フィリピンと出会おう』国土社 2004

成果



- 授業のウォーミングアップの九九練習がとても効果的であった。普段、教室では言えない児童も日本語学級では言いやすいようだった。
- 日本語学級の授業で、「あったらいいな」と思うおもちゃを紹介し合うという活動を学級単位ではなく、学年で行った。他クラスとの児童と交流ができ、良い刺激が得られたようだ。
- 児童が発表しやすいように、「あったらいいな」と思うおもちゃを絵に描いたあと、その絵を紹介する文をワークシートに沿って書く活動も行った。そうすることで、発表の際にもきちんと発表することができた。



対面授業

第2学年
日本語学級

遊び方を工夫して楽しもう

3時間

トピックの ねらい

- 身近な遊びについて、自分の経験したことを友達に伝えることができる。
- 身近な遊びに関する文章を読んで考えたことを発表できる。
- 楽しく遊ぶ工夫を考えて、友達に伝えることができる。

日本語の 目標

- ①「～するあそび方があります。～なります。～ができます。」を使って、遊びの経験やおもしろさを伝えることができる。
- ②「ほかに～。また～。～もできます。」を使って自分が考えた工夫を発表することができる。

関連

教科 単元

- 国語科：「おにごっこ」 **A**
- 算数科：「おにあそび」 **B**
- 生活科：「げん地校とこうりゅうしょう」 **C**
- 音楽科：「わらべ歌」 **D**

くらし 行事

- ・現地校交流会 **E**
- ・日本やフィリピンのおにごっこ・遊び・歌 **F**

主な 学習活動

- ①知っているおにごっこや遊びについて伝え合う。
- ②教材文「おにごっこ」を読んで考えたことを話し合う。
- ③もっと楽しく遊ぶ工夫を考える。
- ④自分が考えた楽しい遊び方を友達に伝える。

教材・ 教具等

VTR（おにごっこで遊んでいる実際の場面を撮影）、遊びの絵や写真、人の動きを表す絵カード（デジタル教科書の挿絵を利用して作成）、言葉カード、モデル文を示した短冊、ワークシート

学習計画

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチャラルの視点

関連

1

- 遊びに関するフラッシュカードで練習する。
- おにごっこをしている場面のVTRや写真を見て自分の経験を思い出す。

どんなあそび方があるだろう。

- 自分が知っているおにごっこや身近な遊びについて話し合う。
「おにあそび」「たからおに」「こおりおに」
フィリピンの「ブワン・ブワン」
中国の「めんどりところり」など
- 自分が紹介したい遊びを絵と文で表す。

2

- 遊びに関するフラッシュカードで練習をする。

「おにごっこ」のあそび方やおもしろさを見つけよう。

- 教材文のコピーを段落ごとに切り画用紙に貼る。
- 段落ごとに読んで分かったことを話し合う。
- 前時のモデル文を参考にしながら、分かったことを発表する。
「～するあそび方があります。～なります。～ができます。」
- もっと楽しくおにごっこをする工夫を話し合う。

- 「にげる・つかまる・交代する・おいかける」など人の動きを表す言葉の絵カードをフラッシュカードとし、ウォーミングアップをする。
- 絵カードは掲示しておき、自分の経験を話すヒントとして活用できるようにする。
- * 日本だけでなく、フィリピンや他国での経験も話すと良いことを助言する。
- 「～するあそび方があります。～なります。～ができます。」のモデル文を示す。
- ◇ 絵が苦手な児童には、写真や絵カードを使って良いことを伝える。

- 前時の絵カードに加え、「かんたん・にがて・たいへん・きまり・つけ足す」など、工夫を考えるために必要なカードも使って練習する。
- 段落ごとに分けて読むことで、長文に対する負担感を減らせるようにする。
- ◇ 「あそび方」は赤、「おもしろさ」は青でマーキングして、情報を整理しやすくする。
- 既習の文型を活用することで定着を図る。
- * 前時に作成したフィリピンや他国の遊び方の絵や文も参考にするように声掛けをする。

A

B

A

F

A

A

A

A

A

F

楽しいあそび方をしようかいしよ

- 現地校交流会で紹介するあそびを確認する。

「おにごっこ」「わらべ歌」

- 紹介する遊びをもっと楽しくする工夫をペアで話し合う。
- 話し合ったことを発表する。
- 現地交流会に向けて、楽しい遊び方を紹介する練習をする。

- ◇ 自分の役割や、交流会の内容を確認する。
- ◇ 音楽科で学習した「わらべ歌」を皆で歌い、既習事項を確認する。
- ◇ ペアで話し合うことで、ブレインストーミングをする。
- 「ほかに～。また～。～もできます。」の文型を提示する。

C
E
D
A
A
C
E

バリエーション

- 日本国内の小学校とTV会議システムを使って発表会をする。
- 遊び方をPPTやタブレットで表現する学習活動を取り入れる。

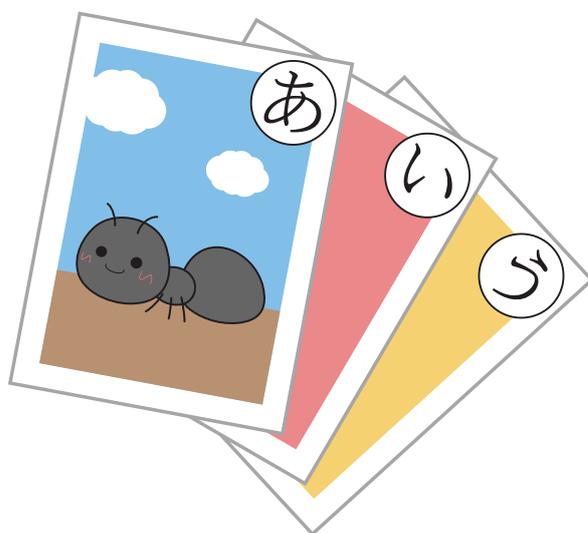
参考文献：『国際理解ハンドブック フィリピンと出会おう』国土社 2004

『遊び図鑑』

『みんなであそぼう』

『そろった わになったの あそび』

『世界の外あそび (大人と子どものあそびの教科書)』





対面授業

第2学年
日本語学級

2年生の思い出づくり

3時間

トピックの ねらい

- 2年生の思い出を振り返り、すごろくを作ることができる。
- すごろく遊びを通して、自分が頑張ったことや楽しかったことを友達に伝えることができる。
- 2年生で学習したことを活用して、すごろく遊びを工夫することができる。

日本語の 目標

- ① 「ぼくが～で頑張ったことは、～です。」
「私が～で楽しかったことは、～です。」
を使って、2年生の行事や思い出の経験を話すことができる。
- ② すごろくのマス目に入りたいミッションを考え、発表することができる。

関 連

教科 ・ 単元

- 国語科：「たのしかったよ、2年生」 **A**
- 生活科：「あしたへジャンプ」 **B**
- 算数科：「かけざん」 **C**
- 図画工作科：「思い出すごろく」 **D**

くらし ・ 行事

- ・ 水泳大会 **E**
- ・ エベレスト校交流会 **F**

主な 学習活動

- ① 2年生の思い出クイズをする。
- ② すごろくのルールを話し合う。
- ③ コマが行事などのマスで止まった出来事の思い出を伝え合う。
- ④ もっと楽しくなる工夫を考える。
- ⑤ 友達が工夫したすごろくで遊び、お互いの工夫のよさを伝え合う。

教材・ 教具等

フラッシュカード（季節や行事の言葉等）、行事の写真（電子黒板）、模造紙（すごろく）、画用紙、ペン、ルールを書いた短冊、モデル文の短冊、ふりかえりカード

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチャラルの視点

関連

- 季節に関する言葉をフラッシュカードで練習する。

- 春は「さくら」「入学式」「チューリップ」など季節の言葉を想起しながら練習する。

A

2年生の思い出いっぱいすごろくをつくろう。

- 2年生の思い出クイズをする。
- 並べたカードをつなげて「2年生の思い出すごろく」を作ることと知らせ、すごろくのルールを話し合う。

- ◇ 「2年生の思い出いっぱいすごろく」を提示し、空欄に入る行事は何かを当てていく。

B

- ◇ 図画工作科でも「思い出すごろく」を作っていることと関連して、「2年生思い出いっぱいすごろく」を作ることと知らせ、活動のイメージをもたせるようにする。

D

- 行事の写真を電子黒板で映してヒントに使う。

E

- * クリスマスなど、フィリピンの行事も取り入れるようにする。

F

- すごろくで遊ぶ。
「ぼくが～で頑張ったことは、～です。」
「私が～で楽しかったことは、～です。」

- すごろくのルールを示した短冊を掲示する。
- 止まったマス目で頑張ったことなどを話すことをミッションと呼ぶことを伝える。始めは教師がモデルを示すようにする。

A

- モデル文を黒板に掲示する。

- 振り返りをする。

- 今日の学習の振り返りをカードに書く。

A

- 前回の「思い出すごろく」を振り返り、どのような行事があったかをフラッシュカードで練習する。

- 前時で難しかった言葉を取り上げて、行事に関する言葉をフラッシュカードでウォーミングアップをする。

A

すごろく遊びが楽しくなるミッションを考えよう。

- すごろくが、もっと楽しくなる新しいミッションを考えて書き加える。

- ◇ 図画工作科ですごろくを作っていることを想起して、新しいミッションを考えて加えることを知る。

D

- 新しいミッションは、○○をする、□□を話す、△コマすすむ(もどる)、◇◇で1回休み、などを考えて書き加える。

A

B

- ◇ 教師がミッションのモデル文を提示する。

C

D

1

2

2

- 新しいミッションを加えたすごろくで遊ぶ。
- 振り返りをする。

- ◇ 行事の間のマス目に新しいミッションカードを貼る。
- モデル文を黒板に掲示する。
「私は、～（教科など）で、～ができるようになりました。」
「ぼくが、頑張ったことは、～です。」
- 教科の単元名はヒントとして電子黒板で映す。
- 発表が難しい時は、前回と同じように行事の思い出を話しても良いこととし、負担感を減らす。
- 今日の学習の振り返りをカードに書く。

- E
- F
- A
- B
- C
- D
- E
- F

- 必要に応じてフラッシュカードで練習する。

- A

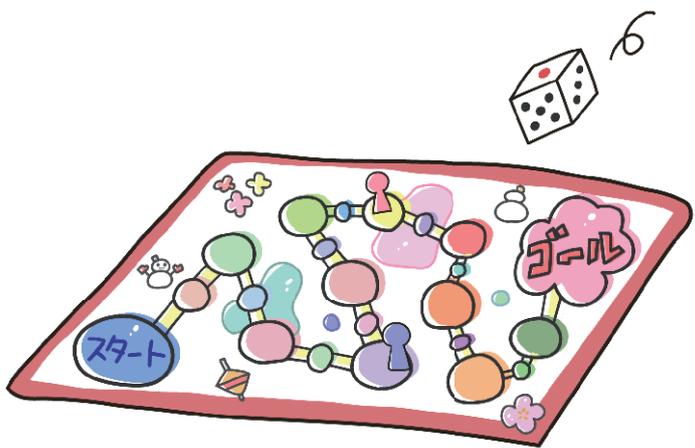
友達が作ったすごろくを楽しもう。

3

- 他のクラスの「思い出すごろく」をすることを知らせ、自分たちのすごろくのルールを確認する。
- 他のクラスのすごろくで遊ぶ。
「ぼくが～で頑張ったことは、～です。」
「私は、～（教科）で、～ができるようになりました。」
- お互いのすごろくの面白さを見つけ、伝え合う。

- ◇ 他のクラスの友達でもできるかどうかを見直し、ルール説明の準備をする。（短冊作り）
- すごろくのルールを説明する。
- 2年生の思い出を話すことに慣れ、他のクラスのすごろくの工夫に気づくようにする。
- 今日の学習の振り返りと、他のクラスの友達が作ったすごろくの良かったところをカードに書いて、発表する。

- A
- B
- C
- D
- E
- F
- A



成果



- 図工科や生活科などと教科横断的に取り扱ったことで、児童が思い出すごろくの学習に対するイメージをもちやすかった。
- 学校行事をブレインストーミング形式で出し合い、用意したカードを提示していくことで、短時間で多くの行事を発表することができた。
- 行事のカードや写真を児童と順番に並べる場面では、一緒に作り上げる楽しさを味わうことができた。
- すごろくのコマが止まったところで話すこと（ミッション）を、短冊に書いたモデル文を示したことで、安心して話すことができた。回数を重ねて発表することで、モデル文を見ないで話すことができるようになっていった。
- 児童にとって、学校行事は共通体験しているもので、あったことを思い出す際には助け合うことができ、協力し合う姿が見られた。また、写真も思い出す手立てとなった。
- すごろくを工夫する活動では、新しいミッションを友達と話し合いながらカードに書いて作ることができた。

課題



- △行事の思い出を話す場面では、すごろくをしながら立ったままの姿勢でしていたので、落ち着いて聞くことができなかった。体を話す人の方に向けるなど、聞き方のルールも指導するべきだった。
- △児童によって日本語のスキルにおいて、できること、できないことが個々で違うため、適切に指導していくための評価について研修していく必要がある。



オンライン授業

第2学年
日本語学級

Jamboardを使いこなそう

1時間

トピックの ねらい

○ マウス操作やタッチ操作をマスターし、Jamboardを使った発表やコミュニケーションに慣れる。

日本語の 目標

① Jamboardの画面上で、乗り物や色、果物などの仲間の言葉を正しく分類することができる。

関連

教科・ 単元

国語科：「なかまのことばとかん字」 **A**
学 活：「パソコンでお絵かきをしよう」 **B**

くらし・ 行事

・ 友達関係づくり **C**

主な 学習活動

- ① マウスの操作、タッチ操作の仕方を知る。
- ② ウィンドウの切り替え方を学ぶ。
- ③ Jamboardで提示された課題に取り組む。

教材・ 教具等

各自の情報端末

授業展開 (1/1)

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
*バイカルチュラルの視点

関連

- 自分の端末での操作（クリック・ドラッグ・タップ）を確認する。
- 自分の端末でのウィンドウの切り替え方を確認する。（Zoom ⇄ ブラウザ、Zoom ⇄ Jamboard アプリ）

- ◇ Zoom のホワイトボード機能でお絵かきをして、マウス操作やタップ操作に慣れる。
- 必要な操作方法を説明するための動画を作り、児童に提示する。本時ではここで用いた語句を統一して使用するよう心がけ、戸惑うことがないようにする。

B

B

Jamboard をつかいこなそう

- Jamboard 上の課題に取り組む。友達の様子を表すカードと、その様子にあった友達への声のかけ方が書かれたカードを選び、線をつなぐ。
- Jamboard に貼られた乗り物や色、果物などの仲間の言葉の書かれた付箋を正しく分類する。
- 付箋の分類について振り返りをする。
- 付箋にはなかった言葉で、同じ仲間の言葉はないか、みんなで考える。

- 児童が困っている際には、カードの言葉を教師と一緒に声に出して読むことで、声かけについて考える手がかりとなるようにする。
- * フィリピンの果物や有名なスポーツなどの身近にあるものも取り上げ、分類の手がかりとなるようにする。
- ◇ 児童が編集した Jamboard を提示して、それぞれがどのように分類したのか振り返る。

B

C

A

B

A

A

1



児童の作成物

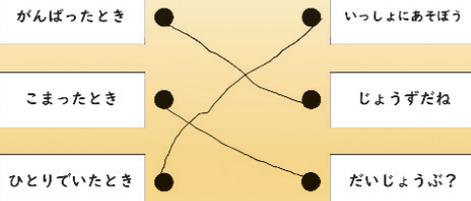


お絵描きの活動を通して基本操作を学ぶ



なかまのことばを集める

せんでつなごう
どんなときにどんなことばを言ってほしいですか。



場面にあった声かけを選ぶ (SST)

児童の様子

《日本語学級での様子》

- 日本語学級在籍児童8名中、6名は Jamboard に入って活動することができた。
- 4名は Jamboard を活用して言葉の分類をしたり、正しく言葉を線をつないだりすることができた。

《在籍学級での様子》

- Jamboard を活用した授業に積極的に参加していた。
- 自分の考えを表すための操作をスムーズに行っていた。
- 親のサポートを受けることなく、自分で操作をすることができていた。
- タブレットに Jamboard のアプリが入っていないという事態が起きることなく、スムーズに操作を開始することができていた。(日本人保護者がそばにいる場合はその場で対応してくれることも多いが、国際結婚家庭ではそのような対応が難しい場合が多い。)

学習活動案・日本語支援について



成果

- Jamboard の操作を事前に少人数で確認することで、在籍学級における授業でスムーズに Jamboard を操作し、活用することができた。
- 日本語学級在籍者に限らず、小学部2年生にとっては難しい操作である。通常学級において1人の教師が対応できる児童数は限られてしまうため、少人数での丁寧な事前指導は効果的であった。

1時間目



課題

- △ 児童の PC 端末、タブレット端末の中には、デフォルトの言語が英語になっている場合が多く、こちらの説明が理解できないことがあった。
- ➔ オンライン授業を行う際には、教師の端末で見えている画面と児童の画面が違うということに加えて、言語環境の違いについても意識をして授業をする必要がある。そのため英語の端末で Zoom に入り、常に英語端末での表示を確認しながら指導する。
- ➔ オンライン授業において新たなツールを使用する際には、事前に教科や言語に関連するつまずき箇所だけでなく、端末やアプリにおけるつまずきも想定しながら指導の計画を立てる。



オンライン授業

第2学年
日本語学級

1年生にしらせよう

1時間

トピックの ねらい

○ マニラ日本人学校について1年生に紹介したいことを絵や文で表すことができる。

日本語の 目標

① 1年生を迎える会を終えて、1年生に学校のどんなことを紹介したいか「～は(が)、～をしています。～をします。～をしてくれます。」などの文型を使って、学校の様子を紹介する文をつくることができる。

関 連

教科 単元

国語科：「かん字のひろば3」

A

生活科：「やさいをそだてよう」

B

くらし 行事

・ 学校生活

C

・ 1年生との交流会

D

主な 学習活動

① 挿絵と写真を見て漢字の読み方を確認し、学校の様子を想像する。

② 学校の様子について紹介文を書く。

③ 書いた紹介文を友達と紹介しあう。

教材・ 教具 等

児童用ホワイトボード、国語のノート、国語の教科書、校内の写真

授業展開

時間

学習活動

- ブレイクアウトセッションに分かれて主語述語ゲームを行い、文を作る練習をする。
Aさん：8月に（いつ）
Cさん：学校で（どこで）
Dさん：ジョリビーが（だれが）
Dさん：ジブニーをうんてんした（何をした）

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチュラルの視点

関連

- 文の構成を意識させるために、「いつ」「どこで」「誰が」「何をした」の担当を決め、児童は手元のホワイトボードに書く。それを一斉に画面に映して、みんなで1つの文を作る。
- ブレイクアウトセッションは児童4人と教師1人が1つのルームに入る。
- * ジブニーなどを例として提示して、フィリピン生活を意識できるようにする。

A

1年生にマニラ日本人学校をしょうかいする文を作ろう

- 教科書の挿絵と校内の写真を見て、マニラ日本人学校ではどんな場所なのか話し合う。
 - ほげん室には体おん計がある。
 - かんきょう池にはコイとカメがいる。
 - 2年生の花だんにはやさいがある。
- 1 紹介したい挿絵・写真を決め、文をつくる。
 - わたしは、中庭をしょうかいします。
 - 花だんでは、オクラをそだてています。
 - ピロティでは、なわとびをします。
- 友達の紹介文を聞いての感想を伝え合う。
 - わたしも、○○さんのしょうかいをきいて、ピロティへ行きたくなりました。
 - わたしも学校がはじまったら1年生にかんきょう池をしょうかいしたいです。
- 振り返りをする。

- ◇ 絵の中から漢字で表すことができる言葉を提示して、これまで習った漢字を使うことができるようにする。
- ◇ 2年生に関わる校内の写真を提示して、生活科の学習も振り返るようにする。
- * マニラ日本人学校で自分が経験したことを基にして話し合うとよいことを伝える。
- * 教科書の挿絵にないマニラ日本人学校ならではの部屋や場所は、写真を提示する。
- モデル文を画面に提示し、紹介する文を作るための参考にできるようにする。
 - わたしは、○○をしょうかいします。
 - ○○は、△△をする場しょです。
 - ○○は、△△をしています。
 - ○○では、△△をそだてています。
- ◇ 助詞を上手く使えているか自分で確認できるように、自分で作った文の「は」「が」「を」に印をつけるように伝える。
- 文型を画面に提示しておき、言い方に困ったときは参考にしようことを伝える。
 - わたしも、○○さんのしょうかいをきいて、△△へ行きたくなりました。
 - わたしも学校がはじまったら、1年生に△△をしょうかいしたいです。
- 自分が1年生に伝えたい事や言葉を、文の中で使うことができたかを振り返る。

A

B

C

A

B

C

D

A

C

D

D

資料



2-1の教室



フィリピンの伝統的な家



生活の授業で育てたオクラ



オクラの花



環境池のお魚



中庭の遊具



去年植えたバナナの木

《日本語学級での様子》

- 主語述語ゲームでは、教師4人で例を提示したのでゲームの見通しを立てることができた。
- 活動2では、マニラ日本人学校のことを思い出すことができ、友達が出した部屋や場所の様子をうれしそうにうなずく様子がよく見られ、紹介文に書く内容につなげることができた。
- 児童Aはモデル文を用いることで、体育館でできる活動について漢字を使って紹介文を書くことができた。また、学校に登校したら一緒に遊ぼうという内容を書くことができた。
- △ 主語述語ゲームのときに、児童Bはどんな言葉が入るのか思いつかず苦しそうだった。

《在籍学級での様子》

- 教科書の挿絵を見て、漢字で書ける言葉を見つけ発表することができた。(教室の挿絵では、時計・黒ばん・教か書・話すなど。保健室の挿絵では、耳、口など。校門の挿絵では、小鳥・姉妹・虫・羽など)
- 同じ内容の授業の際、児童Cが本校の環境池のことを書いてもいいか尋ねるなど、意欲的に取り組む様子が見られた。また、モデル文を参考にして紹介文を書くことができた。

成果



- まだ登校したことのない1年生にむけて、学校のどんなところを紹介したいか、その場所は何ができる場所なのかを全体で共有した。この活動によって挿絵の単語だけで終わらない児童自身が考えたオリジナルの文を作ることができた。
- モデル文を提示した場面では、「は」「が」や「を」にしるしをつけてアピールしたことで、「～は、～をするところです。」「～が、～をしています。」という文を作る事ができた。

1時間目

課題



- △ 導入時に文の構成を意識するため、主語述語ゲームを行ったが何をしたらいいのか分からない状態の児童がいた。
 - 誰がどこの担当するのかが分かるように、担当を絵やカードに書いてそれぞれの役割を視覚化する。
- △ 「なにをした」を担当する児童は、迷ってしまい何も言えなくなることがあった。
 - どんな言葉が入るのか全体で考えて共有する時間を設けることで、困っている児童の不安感を取り除く。



オンライン授業

第2学年
日本語学級

オンライン音読劇をやるう

4時間

トピックの ねらい

- 音読劇をとおして、1つの作品をみんな
でつくりあげる達成感を実感する。
- MJS フェスティバルに向けて、音読劇
で表現することの意欲を高める。

日本語の 目標

- ① 語のまとまり（主語と述語、文節）や言
葉の響き（日本語の発音、イントネーショ
ン）に気を付けて音読することができる。
- ② 登場人物の会話文に注目して、登場人物
の心情や気持ちを考え、それらを音読劇
で表現することができる。

関 連

教科 ・ 単元

国語科：「お手紙」

A

体育科：「表現」

B

くらし ・ 行事

・ 小学部フェスティバル

C

主な 学習活動

- ① オンライン音読劇にむけた学習計画を立て
る。
- ② 物語の内容の読み取りと役割分担をする。
- ③ 音読劇の練習と中間発表会をする。
- ④ 音読劇の発表会（撮影会）をする。

教材・ 教具等

Zoom、国語教科書『お手紙』（ルビ 分かち書き
場面の挿絵）、YouTubeの動画サイト [https://www.
youtube.com/watch?v=7dRnD6a4db4](https://www.youtube.com/watch?v=7dRnD6a4db4)

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチュラルの視点

関連

- 学習の目的を知る。
- オンライン音読劇について知る。

- 家の人に日本語学級での学習成果を見せるために音読劇をすることを伝え、動機付けをする。
- 学級の友達にも音読劇の動画を見せることを伝える。
- ◇ 音読劇とは、声とかんたんな体の動きでお話を表すものであることを、動画を見せて伝える。
- ◇ 体育の表現遊びのように、ジェスチャーや体全体を使って表現するとよいことを伝える。
- 児童がやってみたいと思えるような導入をする。

C

A

B

C

オンラインおんどくげきにむけた けいかくを立てよう

1

- 学習計画を立てる。
- 物語の内容を挿絵から読み取る。
- 範読を聞く。
- 振り返りをする。

- * 「お手紙」は、日本の話ではなくて、アメリカの作家が描いた世界的な絵本であることを伝える。また、実際に英語で書かれてある「お手紙」の画像を見せる。
- ◇ 挿絵を提示して、登場人物の気持ちを想像できるようにする。
- 物語のあらすじをつかむことができるように、Jamboard を使って、挿絵を並びかえる活動をいれる。
- 「一日」や「四日」などという言葉に注目させ、物語の中の時間の流れに気づかせたい。
- 振り返りのモデル文を決めておき、4 時間分は、そのモデル文を使った振り返りをするようにする。
- 教師が事前に作成した動画を見せる。

A

A

A

A

C

オンラインおんどくげきにむけた じゅんぴをしよう

2

- 物語の内容の概要を知る。
- 役割分担を決める。
- 4 つのグループに分かれ、練習をする。
- 学習の振り返りをする。

- 範読を聞きながら、配布された台本の会話文にマーカーで印をつける。
- ◇ 声の大きさ、読む速さ、読む表情、かんたんな動きを意識できるように、声掛けをする。
- 全身が画面に写せるようなら、表情だけでなく、全身を写して、大きな動きで表現できると効果的であることを伝える。

A

C

A

B

A

3

- 本時の学習を確認する。

C

ブレイクアウトセッションでおんどくげきのれんしゅうをしよう

- ブレイクアウトセッションで練習する。

◇ 声の大きさ、読む速さ、読む表情、かんたんな動きを意識できるように、前時に見せたパワーポイントを再掲示する。

A

○ 登場人物の気持ちを考えて、セリフの内容を変更したり付け加えたりしても良いことを伝え、表現することの楽しさを味わえるようにする。

- 中間発表会をして、各グループの音読劇の参考にする。

- 中間発表をし、自分たちの音読劇と比べてみることで、より良い表現に向けて練習に取り組めるようにする。

C

- 自分の出番までは画面オフにする練習をする。

- オンライン上の児童の名を「かえるくん」、「がまくん」、「ナレーター」、「かたつむり」、「かんとく」、「さしえ」に変更する。

- 再度ブレイクアウトセッションにし、各グループで練習をする。

- 振り返りをする。

○ 「わかったこと、かんがえたこと、つぎのじかんのめあて」の頭文字を当てたモデル文（わかめ）に沿った振り返りをする。

A

4

- 本時の学習を確認する。

C

おんどくげきのはっぴょうかいをしよう

- ブレイクアウトセッションで一度練習をする。

- 先週までの学習を確認し、各児童の本時の目標を明確にした上でグループ学習に臨むようにする。

A

- 最終確認をする。

- 保護者や学級の友達に見せるという学習の目的を再度確認してから、本番収録に取り組む。

C

- 本番の音読劇動画を収録する。

○ モデル文を提示して、感想を発表したりワークシートに書いたりできるようにする。

A

- 学習の振り返りをする。

支援と手だての詳細

① 4グループに編成のブレイクアウトセッションを使用した個に応じた指導

3つの場面で区切る方法も考えられるが、音読量に差が出てしまうので、ページごとで分担するようにする。教師が4人いるので、うまく分担しながら進めていきたい。欠席等で足りないところは、教師が入るようにする。なお、「かたつむり」と「ナレーター」の役は、教師が行う。

	6・7・8	9・10・11	12・13・14	15・16・17
担当教師				
ナレーター				
がまくん				
かえるくん				
かたつむり				

※日本語学級在籍者（男子4人 女子4人＝計8名）

② モデル文を示した形での、毎時間の振り返り

毎時間の振り返りの際は、モデル文を提示し、モデル文にそって学習の振り返りをするようにする。モデル文を提示することによって、相手に自分の気持ちを正しく伝えることができることを理解し、在籍学級でも、その技能をいかせるようにしたい。振り返りのモデル文は、「今日のわかめ」とし、「①わかったこと②かんがえたこと③つぎの時間のめあて」をホワイトボードに書いて、発表させることにした。

③ 教科書の配布

教科書は、デジタル教科書の中の「分かち書き」の教材を使用し、ふりがなをふった状態で配布する。また、本当であれば児童と一緒に授業の中で、教科書に登場人物を書き入れたいが、時間的に難しいので、登場人物を記入した状態のものを渡す。2学期教材配布とともにわたす予定である。なお、日本語学級の中で、会話文に印をつけたり、色を塗ったりする活動を取り入れていくようにした。

④ 4人の担任によるチームティーチング

4人の教師で役割分担をし、チームティーチングを行う。時には全体で、時にはグループで学習を進めていきたい。撮影会の際も分担してスムーズに撮影できるように計画したい。

A 教諭：全体指導
B 教諭：挿絵の表示&画面録画
C 教諭：ナレーター
D 教諭：かたつむり役 サポート

⑤ 教師による音読劇の見本を提示

オンラインでの音読劇がイメージをもちにくいため、教師により見本を提示する。それによって、学習の見通しをもたせ、活動に意欲的に参加することになると思われる。

⑥ 会話文だけに注目した音読劇

地の文は教師が読むことで、児童には会話文に着目することを促し、そこから読み取れる登場人物の気持ちや心情の変化に注目できるようにしていきたい。そして、短い言葉の中にもどのような動きや表情が適切なのかを焦点化して考えさせたい。

「オンライン音読劇をやるう」の振り返り

《日本語学級での様子》

- オンライン音読劇を成功させるために、苦手な音読にも、進んで練習に取り組んだり、友達や教師と相談したりして、一生懸命練習に取り組んでいた。
- どの児童も、ねむそうなジャスチャーをしたり、かなしそうに音読をしたりするなど、登場人物の役になりきって、音読することができていた。
- △ Jamboard の操作に苦戦して、操作することに時間がとられてしまった。
- △ 音読劇の練習のときに、登場人物の表情を想像することが難しかった。

《在籍学級での様子》

- 通常の授業でも、日本語学級で学習したことを十分に生かして、音読することができた。
- MJS フェスティバルで、学級全体で音読劇に取り組んだ際は、自信をもって参加していた。また、通常級の児童の見本になるような音読をすることもできた。
- 日本語学級終了後の国語の音読の学習では、今まで以上に自信をもって取り組む児童が多かった。保護者から「音読が好きになった」という感想もあった。

1時間目

成果



- 導入でオンライン音読劇を家の人に見せるという動機付けによって、児童の学習意欲が高まった。
- 挿絵の表情に注目させることで、登場人物の心情に気づかせることができた。
- 振り返りの際に、モデル文を提示したことによって、本時の学習で何を学び、次の時間に何を頑張るのかという「めあて」を明確にもつことができた。

課題



- △ Jamboard を使って、挿絵を並び替える学習をしたが、操作に時間がかかってしまい、思ったような活動ができなかった。
→ 児童の学力や本を読む力の差が大きいので、日本語学級でも能力別のグループを作るなどの方法でさらに個に応じた指導の必要性を強く感じた。

2時間目

成果



- 教師が作成した音読劇の動画を見本として見せたことで、児童は自分たちの課題を明確につかむことができた。
- 教師が簡単なジャスチャーや顔の表情を見本として見せたことも、児童が表現を想像する支援につながった。
- 振り返りの際は、オリジナルに作成した「ふりかえりのわかめ」（わかったこと・かんがえたこと・次のめあて）という言葉を提示し、学習の振り返りと次のめあての確認ができた。

課題



- △ 文章の内容を読み深める時間が少なかったため、表情を想像することが難しかった。
→ ブレイクアウトセッションを活用して、小グループで考える時間をもう少し長く作って、オリジナルのセリフや読み方などをみんなで考える時間が必要だった。

指導案・日本語支援について

3時間目



成果

- 4つのブレイクアウトセッションを作成したことによって、個に応じた指導や手立てをすることができ、自信をもって音読劇に取り組むことができた。
- 簡単な動きを入れたり、オリジナルのセリフを考えたりすることもできた。これらの支援により、日本語学級の児童が、在籍学級で活躍できたことが、一番の成果である。

課題

- △ リハーサルや説明をするために、練習時間が短くなってしまった。児童は、もっと練習する時間がほしいと思った。
 - ➔ 児童が自信をもって本番撮影に取り組むための練習時間を確保するため、次の学習計画を見直す。

4時間目



成果

- 本番前に、ブレイクアウトセッションを活用して練習することができたので、撮影本番では、みんなが自信をもって、音読劇演じることができた。4時間という短い単元であったが、1人1人が授業内や家庭でちゃんと練習を積み重ねた結果である。
- 撮影が無事に終わったときは、みんなが大きな達成感を感じていた。最後の感想発表では、音読が苦手な児童が「これからも音読をがんばりたい」という感想をもつことができた。

課題

- △ 児童は最後まで頑張ったが、通信環境の影響により撮影がスムーズにできなかった。
 - ➔ 通信環境を整え、安心して学習できるようにする。
- △ 一人一人が個々の目標に向かって学習に参加できたのは良かったが、音読する力に差があったり、文章を読み取ったりする力の差が見られた。
 - ➔ 在籍学級とは別に音読カードを作成し、それぞれが家庭で音読に取り組めるようにすることによって一人ひとりの音読する力を高める。
 - また、音読カードは、「目指せ！音読名人」のように大きな目標とそれに向けたいくつかの小さなステップを設定し、児童の励みとなるようにしたい。

日本語学級
ふりかえりのしかた

わかったこと
かんがえた
できた

① きょうの べんきょうで ○○こと

② つぎの べんきょうでは ○○こと

かんがえたい
やりだしたい
たのしみしている

振り返りのしかた

ふりかえりの わかめ

わ わかったこと

か かんがえたこと

め つぎのがくしゅうのめあて

ふりかえりのわかめ

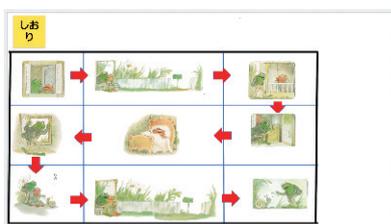
【わかったこと・がんばったこと】

きょう ほくが かんばったこと
は あおきなこえで よむことで
す。

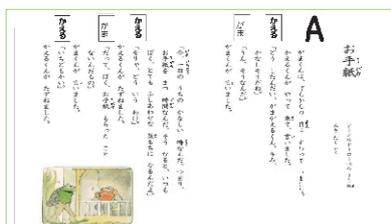
【めあて】

つぎの がくしゅうでは うごき
を かんがえたいです。

振り返りのモデル文



1時間目に使用した
Jamboardの画像



配布した教科書教材
(分かち書き ルビ付き)



教師による音読劇の見本



オンライン授業

第2学年
日本語学級

お話のさくしゃになろう

2時間

トピックの ねらい

- 絵を見て、人物像や場面、出来事を想像することができる。
- 事柄の順序を考え、物語をつくることができる。

日本語の 目標

- ① 登場人物がしたこと、話したことを文章に書くことができる。
- ② 「～さんの～がよかったです。」 「～がおもしろいと思いました。」などの文型を使って、感想を伝え合うことができる。

関 連

教科 ・ 単元

- 国語科：「お話のさくしゃになろう」 **A**
 体育科：「図書しつたんけん」 **B**

くらし ・ 行事

- ・ 朝読書（朝の読書時間は週に2回程度） **C**

主な 学習活動

- ③ 「さくしゃ」について学習し、お話づくりの見通しをもつ。
- ④ 絵を見て、人物像や場面、出来事を考える。
- ⑤ オリジナルのお話を考えて、ノートに書く。

教材・ 教具等

デジタル教科書1年上・下、2年上・下、絵本、お話のもとになる挿絵

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチャーの視点

関連

- 国語科で学習した物語や朝読書の時間に読んだ物語を思い出すためのクイズをする。
 - お手紙
 - スイミー
 - くじらぐも など
- 「さくしゃ」について学習する。
 - アーノルド＝ローベル
 - レオ＝レオニ
 - なかがわ りえこ

◇ 物語の冒頭部分をデジタル教科書で読み上げ、タイトルを手元のホワイトボードに書かせる。

B
C

* 『お手紙』『スイミー』など、日本人以外の作者もいたこと確認する。

A

* これらの絵本はフィリピンの子どもたちにも親しまれていたことを確認する。

絵を見て、お話を考えよう。

1

- 2人組で絵を見て登場人物や動物、またその名前や性別、性格などについて話し合う。
- 出来事を話し合う。
 - 何かを見つける。
 - どこかへ出かける。
 - だれかと出会う。
 - こまったことがおこる。
- 話し合いのメモをまとめたホワイトボードを映しながら話し合ったことを発表する。
- 考えた物語について、感想を伝え合う。

* 国語の教科書の挿絵のほか、日本やフィリピンの田舎のイラストなどの数パターンを提示し、映っている動物やその様子、周りの風景を、物語作成の参考にできるようにする。

B
C

○ モデル文を提示して、児童が考えた出来事を伝えることができるようにする。

A
B

- ○○がありました。
- ○○に出会いました。
- ○○へ出かけました。
- ○○がおこりました。

◇ 本時の活動を活かして、在籍学級ではオリジナルの物語を作成することを伝える。

A

○ 感想を伝えるためのモデル文を提示して、表現するための支援とする。

A

- ○○さんの△△がよかったです。
- ○○さんの△△が面白いと思いました。

2

- 在籍学級での学習を確認する。
 - 人物像や出来事を考えた。
 - お話の大まかな構成を考えた。

◇ 在籍学級で、オリジナルの物語のはじめ・中・おわりの大まかな構成をすでに考えていることを確認し、本時の課題を明確にする。

A

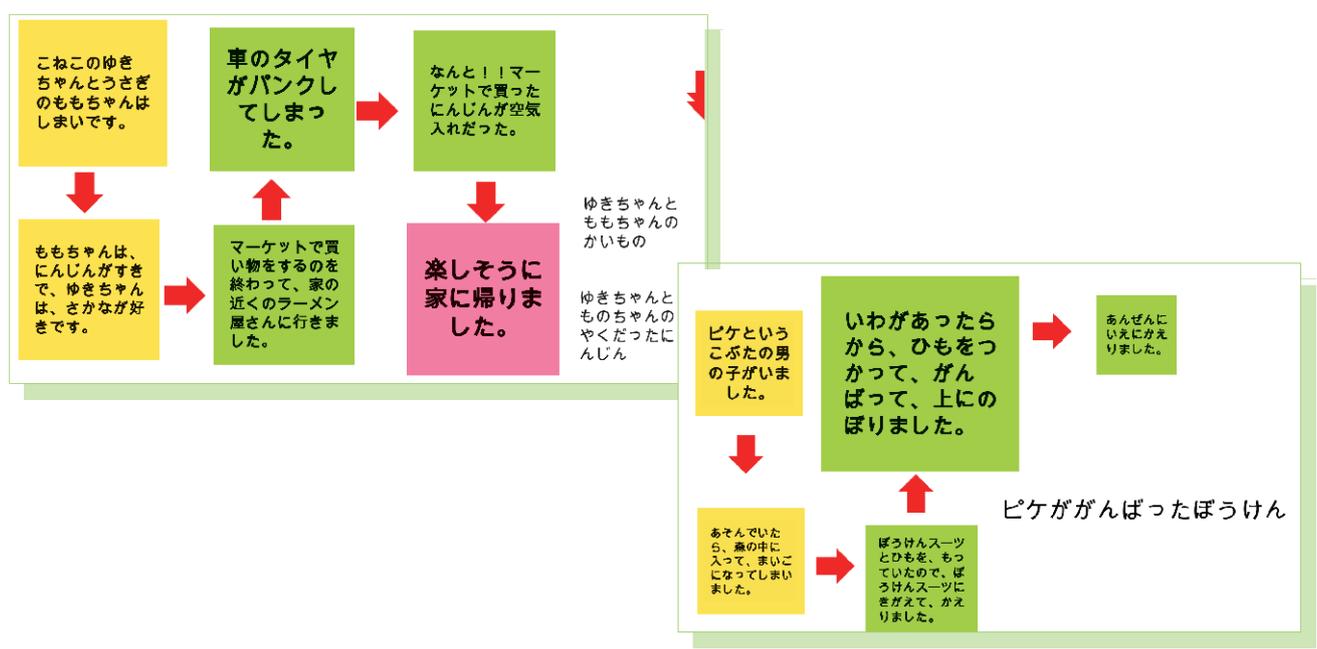
お話のかりのタイトルをきめよう。

2

- 今までに学習した物語のタイトルを思い出し、意見を交流する。
 - さまざまなタイトルがあった。
 - タイトルはとても重要だと思う。
 - お話の内容に関係のあるものだと思う。
- 2人組で自分の物語のあらすじを伝え合い、よりよいものにするにはどうしたらよいか話し合う。
- かりのタイトルをつける。
 - 一番伝えたいところはどこか。
 - 振り返りをする。

- 様々な本のタイトルを提示し、タイトルがどのようなものか考えられるようにする。 B
C
- ◇ 教師はあらすじを聞きながら Jamboard の付箋に、物語をいくつかに分けて記録する。その付箋を並び替えたり、メモを付け足したりしながら話し合いをすすめるよう伝える。 A
- 何を話し合うか理解できるように、必要に応じてヒントカードを提示する。
 - くわしくするところ
 - かんたんに伝えるところ
 - 会話文をつけたすところ
- ◇ Jamboard の付箋に書かれた文を基にしてタイトルを決めると良いことを伝える。 A
- 授業後に本時で作成した Jamboard を PDF 形式で児童へ送信することを伝える。家庭で印刷するなどして、在籍学級での物語の作成の活動に活かすことができるようにする。 A

児童の作った物語のあらすじ



《日本語学級での様子》

- 今まで学習した物語を、クイズ形式で楽しみながら思い出すことができた。
- 絵を見て、そこから登場人物の名前や性格やできごとを考えることができた。
- 自分の考えたお話のあらすじを説明し、一番伝えたいところをもとに仮のタイトルをつけることができた。

《在籍学級での様子》

- 登場人物の性格やお話のできごとが思い浮かばないときに、日本語学級で設定した内容を一部使用するなど、活用していた。また、お話を書く際には日本語学級で作成したJamboardを印刷し、それを確認しながら進めることができた。
- △ 日本語学級で取り上げた挿絵が忘れられず、在籍学級で求めている「オリジナル」の部分が十分に達成できたとは言えない児童もいた。

成果



- 今までの学習や朝読書で読んだ物語を想起してから本時の活動に入ることで、登場人物の名前や性格を決める際の参考にすることができた。
- モデル文を提示することで、物語の出来事をより詳しく考え、表現することができた。また、そのことで感想を伝え合う活動では、友達の考えたお話を興味深く聞き、次回の活動の参考にすることができた。

1時間目

課題



- △ 話し合いの人数を2人に設定していたため、意見が途切れた際に黙り込んでしまう時間ができてしまった。
→ アイディアがたくさん出た方が深まる活動であったので、3、4人グループで設定し、話し合いが活発になるようにする。

成果



- 物語の構成を教師が聞き取り、Jamboardの付箋に書き込んで矢印でつなげて視覚化したことで、グループのほかのメンバーも簡単にほかの児童の考えたお話のストーリーを理解することができた。
- Jamboardにまとめたものの中でメインのシーンを選び、それをもとにタイトルを考えることで、ぶれずにタイトルをつけることができた。
- Jamboardをまとめて後日、そのデータを児童に配付することで、在籍級でお話を書いていく本番において、そのデータを参考資料にすることができた。

2時間目

課題



- △ Jamboardに書き込む作業での教師の負担が大きく、全員分をやるのには時間がかかってしまう。
→ 物語のあらすじは事前に提出してもらい、授業の前に付箋へ書き込んでおき、加えたいことをその場で追加するようにする。それにより、児童へ助言する時間を確保する。



対面授業

第3学年
日本語学級

しりょうから分かる、小学生のしりょう

3時間

トピックの ねらい

- 資料をもとに、整理をしたり、棒グラフに表したりすることができる。
- 資料や棒グラフをもとに分かることを発表することができる。

日本語の 目標

- ① 「表」「正の字」「合計」「棒グラフ」「1めもり」「表題」「横じく」「たてじく」等の学習用語を理解することができる。
- ② 表や棒グラフから気がついたことを、「はじめ」「しりょうについて」「しりょうから分かったこと」「しりょうから考えたこと」「終わり（結び）」に基づいて伝えることができる。

教科・ 単元

- 算数科：「ぼうグラフと表」 **A**
国語科：「しりょうから、分かること」 **B**

関連

くらし・ 行事

- 日本の冬の「食べもの」「あそび」 **C**
- フィリピンの「食べ物」「あそび」 **D**
- フィリピンの数の数え方 **E**

主な 学習活動

- ① 表と棒グラフについて知る。
- ② 棒グラフをつくり、分かったことをメモする。
- ③ 資料から分かることを考える。

教材・ 教具等

冬の遊び・食べものアンケート

授業展開

時間	学習活動	指導のポイント	支援	教科	関連
			○日本語 *バイカルチュラルの視点	◇教科	
	<ul style="list-style-type: none"> 事前課題「冬の遊び・食べものアンケート」結果から表づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> *日本とフィリピンの小学生の暮らしについて関心を高めるようにする。 			B D
1	<p>表をもとに日本の小学生の冬の「遊び」or「食べ物」についてフィリピンと比べながら考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表をより視覚化した「棒グラフ」について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇棒グラフに関する学習用語（「1めもり」「表題」「横じく」「たてじく」等）を伝える。 			A C D
	<p>アンケートをまとめた表から棒グラフをつくらう。</p>				
2	<ul style="list-style-type: none"> 前時に整理した表をもとに棒グラフをつくる。 できあがった棒グラフをもとに気づいたことをメモする。 <ul style="list-style-type: none"> 一番多い遊び（食べもの） 自分の好きな遊び（食べもの） 	<ul style="list-style-type: none"> ◇グラフの枠は発表を意識して B4 サイズ程度のプリントで事前に用意しておく ◇1めもりを確かめながら作成していく。 ◇◇フィリピンと比較するとよいことを助言する。 			A B C D
	<ul style="list-style-type: none"> 前時に作成したメモをてがかりに振り返る。 				A
	<p>資料から分かることについてまとめよう。</p>				
3	<ul style="list-style-type: none"> 資料からわかることについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 「はじめ」 「しりょうについて」 「しりょうから分かったこと」 「しりょうから考えたこと」 「終わり（結び）」 	<ul style="list-style-type: none"> ◇国語科「しりょうから、分かること」の組み立てを提示する。 ○より分かりやすく伝えるためには、分かったことと思ったことと考えたことを明らかにして話すことを伝えると共に、キーワードを示す。 			B C





対面授業

第3学年
日本語学級

ことわざについて調べよう

3時間

トピックの ねらい

○ ことわざの意味を理解し、使うことができる。日本以外のことわざを知り、共通点を見つけることができる。

日本語の 目標

① 「～～～の意味は○○○だと思います。理由は△△△だからです。」を使って、自分が考えたことわざの意味を理由もつけて表現することができる。

② 「ぼくの作ったことわざは○○○です。意味は△△△です。」を使って、自分で考えたことわざとその意味を紹介することができる。

関連

教科・ 単元

国語科：「ことわざについて調べよう」 **A**
社会科：「のこしたいもの、つたえたいもの」 **B**
総合：「ドキドキフィリピン探検隊」 **C**

くらし・ 行事

・ことわざ **D**
・かるた **E**

主な 学習活動

① 「犬棒かるた」で遊び、その特徴について知る。
② ことわざクイズに取り組み、ことわざの意味を考える。
③ 似た意味のことわざをまとめる。
④ フィリピンと日本のことわざを比べ、似ている意味のものを探す。

教材・ 教具等

犬棒かるた (株奥野かるた店)

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
*バイカルチュラルの視点

関連

- 「犬棒かるた」で遊ぶ。読み手は教師が行う。

- 知っているようなことわざを選んで行う。

D
E

ことわざと意味を結びつけよう

- ことわざについて知る。
 - おびに短したすきに長し
 - 所かわれば品かわる
 - かっぱの川流れ
 - 一難さってまた一難
 - 二階から目薬
 - ねこに小判
- 黒板のことわざについて分類する。
- 前回考えたことわざを取り上げ、どんな特徴があったか確認する。

- ◇ かるたにかかっているものが「ことわざ」であることを伝える。
- 教師からことわざには昔からの知恵や教訓などがあることを伝える。
- ◇ 簡単なことわざをさらに提示する。
- ことわざのカードをもとにことわざの特徴を確かめる。
 - 反対言葉が使われている。
 - 言葉が繰り返されている。
 - 動物のことばがある。
 - 昔からある良い考え方
- 黒板に貼られたことわざを特徴ごとに分類していく。
- ことわざの特徴を思い出すことで、意味には知恵や教訓があることもつなげて思い出せるようにする。

C
A
B
A
B
A
D
A
D

ことわざと意味を結び付けよう

- ことわざクイズ①をする。
- ことわざクイズ②をする。
「～～～の意味は○○○だと思います。理由は△△△だからです。」

- ことわざカードを黒板に掲示し、二つをつなげてことわざを完成させる。
- ◇ 前回のことわざの特徴で続く言葉を考えられるようにする。
- ◇ ことわざへの関心を高めるようにする。
- ことわざクイズ①でできたことわざの意味を考える。
- モデル文を黒板に掲示し、話すときに不安であれば見られるようにする。

A
D
A
D

- ことわざクイズ②をする。

- ことわざの意味を復習し、前回の確認をする。

A
D

似た意味のことわざについて考えよう

1

2

3

3

- 自分の知っていることわざを共有する。
- 日本やフィリピンのことわざを意味で分類分けをする。
- 似た意味のことわざを紹介し合う。
「ぼくの作ったことわざは〇〇です。意味は△△△です。」
- 本時の振り返りをする。

- * 日本のことわざの他に知っていることわざがあれば紹介する。
- * 教師がフィリピンにあることわざを提示する。日本のことわざにも同じ意味があるようなものを選ぶ。
- 黒板にはったことわざカードを移動させ、視覚的にも分類分けをイメージさせる。
- ◇ 「猫に小判」などの簡単なことわざを取り上げ、似た意味のことわざを自分で作ってみる。
- モデル文を黒板に提示し、話すときに不安であれば見られるようにする。

A
C
D
C
D
D





オンライン授業

第3学年
日本語学級

○のひみつ
おしえます

4時間

トピックの
ねらい

○ 説明文の構成や展開を理解して、形が変わるものについて説明することができる。

日本語の
目標

- ① 大豆からできる食品名や調理用語を知る。
- ② 「まず」「次に」「また」「さらに」「ほかに」「このように」などのつなぎ言葉を用いて説明をすることができる。

関連

教科・
単元

国語科：「すがたをかえる大豆」 **A**
「食べ物のひみつを教えます」 **B**
図工科：「ねん土マイタウン」 **C**

くらし・
行事

・日常生活 **D**

主な
学習活動

- ① 大豆からできる食品名や調理用語を確認する。
- ② つなぎ言葉や調理用語に慣れる。
- ③ つなぎ言葉や調理用語を使って、「すがたをかえる○○」クイズを作る。
- ④ つなぎ言葉を使って、図工「ねん土マイタウン」の作品を紹介する。

教材・
教具等

食材の資料『身近な食べもののひみつ1～7』（学研）、Jamboard、ワークシート、調理方法の動画・イラスト、図工「ねん土マイタウン」の作品

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチュラルの視点

関連

- 「もとのすがたは何でしょう」クイズをする。 (大豆)

- * フィリピンのカラマンシージュースはカラマンシーから作られていることを例に出す。
- しょうゆの写真→豆腐の写真→入り豆の写真的スリーヒントクイズを出して動機付けをする。

A
D

大豆から作られる食品や調理方法を知ろう。

- 大豆から作られた食品を確認する。 (グループ→全体)
 - きなこ、みそ、しょうゆ、納豆等
- どのように調理したら様々な大豆食品に変身するのか考える。 (グループ→全体)
- 学習を振り返る。

- 食品の写真を示したり、においや味について知っている情報を児童に尋ねたりしながら、大豆食品への理解を深めていくようにする。
- * これまでに日本やフィリピンで食べたことのある大豆食品について情報を共有する。(フィリピンのタホ等)
- 調理用語「煎る」「蒸す」「茹でる」などが理解できるよう、調理方法の動画やイラストを用いる。
- 大豆食品の写真と調理方法が書かれたカードが一致するように考えながら置いていくことを伝える。
- 今日学習した調理用語が分かったか、実際に動作で表しながら確かめるようにする。
- 「炒る」「煮る」「茹でる」「蒸す」の言葉を理解するときに、お湯を捨てるか捨てないか、お湯に入れるか入れないかに注目させて、違いを理解できるようにする。
- 生活の中で見る調理する人の動きと関連させて捉えることができるように、動作化する。

A
D

A

A

A
D

つなぎ言葉を使って、調理方法を説明する文を完成させよう。

- つなぎ言葉を確認する。 (グループ&ワークシート)

「まず」「次に」「その次に」「さらに」「最後に」「このように」
- 大豆の変化の仕方について説明する。(グループ&ワークシート)
- 学習を振り返る。

- ◇ つなぎ言葉のカードを Jamboard 上で並び替えることで、言葉と順序を視覚的に捉えさせ、それぞれのつなぎ言葉の意味や使う順番に気づくようにする。
- 調理の順に写真を見せて、その順番に合うつなぎ言葉を考えるように助言する。
- ◇ 適切なつなぎ言葉を自分で考えて入れる活動を通して、物事を説明するときのつなぎ言葉の役割に気づくようにする。
- * フィリピンの食べ物にも変化する物があるか、実生活と関連させて考えると良いことを伝える。

A

B

D

1

2

- 今日は違う食材でクイズを作ることを知る。

- 順序を表す言葉を用いてクイズを出す練習ができるよう、第1時で扱ったクイズを提示する。

B

「すがたをかえる〇〇」クイズを作ろう。

- 「すがたをかえる〇〇」クイズを作る。

- 話の組み立てを考えて話すことができるようにモデル文を提示する。

B

① 食材をグループごとに設定する。

例 「まず(調理方法)すると、(食品名)になります。」
「次に、(調理方法)すると、(食品名)になります。」

② その食材の調理方法とできた食品を確認する。

「最後に、(調理方法)すると、(食品名)になります。」

③ つなぎことばを使って、順番に調理方法と食品名を説明する。

「もとのすがたは何でしょう。」

→ 「正解は、(食材)です。」

- 「すがたをかえる〇〇」クイズを他のグループに出す。

- * 多様な食文化に興味を持つことができるように、フィリピンや他国の食べ物についてもクイズを出すと良いことを伝える。

D

- 感想を発表する。

- 調理方法やつなぎ言葉を適切に使うことができた場面を称賛し、次も使っていこうという意欲をもたせる。

B

- ねん土マイタウンのモデルの紹介をする。

- 「〇〇のひみつおしえます」のチャレンジ編であることを伝えて、学習意欲を高める。

C

ねん土マイタウンの作り方を説明しよう。

- ねん土でつくるときに使う言葉を考える。

- ◇ 「丸める」「つなげる」「分ける」などの言葉の意味を確認する。

C

- 説明するものを決め、説明文を書くための準備をする。(グループ)

- 確かな理解となるように、体を使って動作化するように指示する。

D

- 説明文を書く。(グループ)

- ◇ 「丸める」「つなげる」「分ける」などの言葉やつなぎ言葉、「正方形」「長方形」などの形を表す言葉を用いて、作り方を考えることができるように、言葉カードを提示する。

C

- 発表する。

- つなぎ言葉や動きを表す言葉などを適切に使うことができるよう、助言しながら進める。

C

- 前の時間での学習を生かして書くことができたことを称賛し、自信をもたせる。

B

《日本語学級での様子》

【1時間目】

- 自分の生活の中で、大豆から作られているものをさがし、積極的に答える児童がいた。
- 動画を見ながら、体で調理の仕方を真似て調理方法を覚えていた児童がいた。
- 大豆から作られた豆腐や納豆などの写真を見て、「この食べ物見たことあるよ！」「食べたことないけど、知っている！」など、生活経験を語る様子が見られた。
- 日本語理解のスピードが個々によって異なる。しかし、小グループで活動することで、お互いに教え合ったり、学び合ったりする姿が見られた。

【2時間目】

- それぞれのつなぎ言葉の役割を考えながら、積極的に並べ替えをしていた。
- 「このように」という言葉に対して、「最後、言ったことをまとめて言うときに使う言葉だよ。」という児童のつづやきが見られた。
- △ 前回学んだ調理方法が区別できていない児童がいた。料理名や食品名はすぐ出てくるが、調理方法は身につけていない様子だった。

【3時間目】

- トウモロコシを粉にひいて作る食べ物など、提示されたもの以外になにかがあるか、意欲的に探していた。
- 調理方法で迷った際には、これまでの学習や体験を振り返ったり、選択肢の中から消去法で見つけたりするなど、工夫して答えを求めようと努めていた。
- フィリピンの食べ物の調理方法を考えることで、学んだ調理方法を活かす姿が見られた。
- 「(つなぎ言葉)、(調理方法)と、(食品名)になります。」という枠に適した言葉を入れ、文章を作っていた。

【4時間目】

- 自分で作った図工の作品を友達に紹介するという活動であったため、主体的に活動に参加することができていた。
- お互いの作品のよい所をほめ合い、どうやって作ったのか尋ね合っていた。友達の説明を受け、同じ作り方の作品を探したり、自分の作品の作り方と比べたりしていた。
- つなぎ言葉を使った発表内容をワークシートに書かせ、小グループで確認をしながら進めたことで、堂々と発表することができた。

《在籍学級での様子》

- 国語科の「すがたをかえる大豆」の先行学習として行ったため、授業中、意欲的に手をあげながら大豆からできたものを発表する姿が見られた。
- 国語科「食べ物のひみつを教えます」では、自分が決めた食品について、学習した調理方法を活かしながら適切なつなぎ言葉を使い、書くことができていた。
- 社会科の「工場の仕事」の学習で「原料」という言葉が出てきた際に「豆腐の原料は？」と問うと、「大豆！」と答え、学んだことを結びつけながら学習に臨むことができていた。
- 算数科の計算の仕方や社会のお菓子作りの工程などを説明する際、つなぎ言葉を使いながら説明する姿が見られた。

1時間目



成果

- 「炒る」「蒸す」などの調理方法を動画で見せたことで、視覚的にも理解を促すことができた。また、動作も取り入れることで、児童が知っている料理の調理方法と結びつけながら意味理解を促すことができた。

課題



- △ 大豆から作られる食品名を知らない、食べたことがないという児童が多いことが分かった。
 - ➔ 実物を見せたり、現地の食べ物で似たものを挙げたりしながら、食品についての関心を高める活動を取り入れる。
- △ インターネットが不安定で、動画が見られない班もあった。
 - ➔ 絵を描いたり、授業者が生活経験を引き出ししたりしながら意味理解に努めた。

2時間目



成果

- イラストを使って、調理方法を確認した。短時間で効率よく復習できた。
- 特に「蒸す」については、食品を水の中に入れるのか、水にふれないようにするのか、肉まんのイラストを使い、生活体験を想起させながら学習できた。
- つなぎ言葉を、かけっこのイラストと関連付けたことで、ことばのもつ役割がイメージしやすかった。

課題



- △ 児童が調理方法の言葉をどこまで理解しているか、十分見取ることができなかった。
 - ➔ 実際に理解できているか、言葉の動作化をさせる時間を設定したい。

3時間目



成果

- つなぎ言葉については、回を重ねるたびに全体的に理解が進んでおり、口頭でも文の中でも使うことができた。
- モデル文や言葉カードを示すことで、適切なつなぎ言葉と調理方法を選び、食べ物の紹介文を作成するまでの流れがスムーズだった。

課題



- △ 文章で書くところまでは時間がなかった。
 - ➔ 書かせたいことをしぼるなど、ワークシートを工夫して作成する必要がある。
- △ 活動に参加できていないように見える児童もいる。
 - ➔ 個別に声かけをしたり、グループの分け方を配慮したりし、参加しやすい環境づくりに努める。

4時間目



成果

- 自分で作った図工の作品を友達に紹介するという活動は、日常生活の中で使う建物やものの名前を使いながら、自分の作品を説明する活動のため、児童の学習意欲を引き出すことができた。
- 食べ物の調理方法の説明と同じようなモデル文や言葉カードを提示したことによって、発表の仕方に見通しをもたせることができ、児童が発表しやすい環境をつくることができた。

課題



- △ 書くことに時間を要する児童は、書くことに必死で、発表を楽しむという段階まで来ていなかったように見えた。
 - ➔ 活動内容（書く量）の調整や時間設定を考える必要がある。
- △ 文の中での言葉のつながりを意識した書き方は、まだ難しい様子だった。
 - ➔ 日本語としての違和感に気づかせ、適宜訂正を加えていくことで、言葉のつながりを意識させていく。



オンライン授業

第3学年
日本語学級

ことばであそぼう①

1時間

トピックの ねらい

○ 体験したことや想像したことをもとにしてお話をつくることができる。

日本語の 目標

① 文型「○○は△△だ。」を活用し、文末表現（～です・ます）に気を付けて文章を書くことができる。

② 2年生で習った漢字を使って文を書くことができる。

関連

教科・ 単元

国語科：「漢字の広場」

A

理科：「しぜんのかんさつ」

B

くらし・ 行事

・ 季節の行事

C

主な 学習活動

① みんなで遠足に行ったことを想像する。

② 2年生で習った漢字を使って、かんたなお話を作る。

教材・ 教具等

国語の教科書、フラワーフェスティバルの写真、カード、植物の写真

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチュラルの視点

関連

- ことばあつめゲームをする。
『○○の季節』と言ったら

- * 「春」に関する言葉を集め、日本のお花見やフィリピンのフラワーフェスティバル等を取り上げながら、両国の文化的行事で似ている部分があることに気づかせる。

B
C

みんなで遠足に行ったことを想像しながら、お話を作ろう。

- 漢字の読みを確かめる。
- 言葉をくわしく説明する。(グループ)
- 絵の中の自分を登場させて、お話を作る。(グループ)

- ◇ 2年生の漢字の読みを正しく読めるか確認し、読めたことや、読めるようになったことを称賛し、自信を持たせる。

A

- ◇ 「鳥」「花」の漢字カードや絵カードを提示して、どんな様子なのか、色や形、大きさなどについて、グループで考えを出し合うことができるようにする。

A

- 個人差があるので、「どんな『鳥』がどうした」「どんな『花』がどうだ」「友達は何をした」「わたしは何をした」等、文型を準備し、それを活用して書いてよいことを伝える。

A

B

C

- 書く力が高い児童は、モデル文にとらわれることなく書き進めてもよいことを伝える。ただし、文末表現に気を付けさせる。

- * 3月～5月頃（日本の春にあたる時期）にフィリピンで見られる植物の写真を提示して、お話づくりの参考となるようにする。

- お話を発表する。(全体)

- 互いによかったところを発表し合うことで、達成感が持てるようにするとともに、書く意欲を高める。

A



《日本語学級での様子》

- モデルの文型を参考にしながら、一つの文を詳しく書くことができた。
- △ お話づくりであったが、文を羅列している児童が多かった。また一文が長すぎたり、主述が整っていない文を書いたりしている児童もいた。

《在籍学級での様子》

- 漢字はよく読めていた。また、物語づくりには意欲的に取り組んでいた。
- △ 一文が長かったり、文末表現が適切でなかったりという状況が見られた。

成果



- モデル文を示したことで、意欲的に物語を書くことができた。
- 友達と話し合う場を設定したことで、自分の考え以外の形容詞が出てきて、文を詳しくすることができた。

- △ 文末表現を整えるという意識が薄い。
 - ➔ 日々の授業の中でも、文末が整っているか、確認していく必要がある。

- △ 一文が長い児童がいる。
 - ➔ 一文が長い場合は、つなぎ言葉等も使って表す等、再度確認が必要である。

- △ 思いついた順に文を書き、それを繋げて読んだため、整理されないままの物語になっている児童もいた。
 - ➔ 書いた文をただ繋げるのではなく、一度書いたものを読み返して、主語が同じものはまとめたり、話の流れに沿って書く順番を考えさせたりする必要がある。短冊に書かせたら、書く順番を簡単に入れ換えられ、文を再構成できたのではないかと考える。

1時間目

課題





オンライン授業

第3学年
日本語学級

ことわざであそぼう②

1時間

トピックの ねらい

○ ことわざについて知り、積極的に使って
いこうという意欲を高める。

日本語の 目標

① ことわざに関心を持ち、カードに書かれ
ていることわざを唱えることができる。

関 連

教科 ・ 単元

国語科：「ことわざ・故事成語」 **A**
総 合：「ドキドキフィリピン探検隊」 **B**

くらし ・ 行事

・ かるたあそび **C**

主な 学習活動

① 日本にもフィリピンにもことわざがあ
り、似ているものもあることを知る。
② ことわざを声に出して唱えることができ
る。

教材・ 教具等

国語の教科書、Jamboard、イラスト付きのことわざ
カード、意味が書かれたカード、ふりかえりカード

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

 支援 ○日本語 ◇教科
 ＊バイカルチュラルの視点

関連

- ことわざについて、想起する。

- ◇ これまでの生活経験から、ことわざについて知っている情報を共有したり、教科書から、ことわざについて確認したりする。

 A
 B
 C

ことわざで あそぼう。

- イラスト付きのことわざカードと、意味が書かれたカードをつなげる活動を行う。(グループ)

- ◇ イラストから分かることや、ことわざカードに書かれている言葉を取り上げて話し合うことで、ことわざの意味をつかむことができるようにする。

A

- フィリピンのことわざについて知り、気づいたことを交流する。

- * 似た意味のことわざがあることに気づかせる。

A

- ことわざを声に出して読む。

- 難しい言葉の負荷を減らして楽しめるように、教師が上の句を唱え、児童が下の句を考えるようにする。

A

- 活動を振り返る。

- ◇ 8カードを活用して、児童自身が活動を振り返り、生活に活かせるようにする。

A

1

 【参考】
 フィリピンの
 ことわざ

 タガログ語 Ang kalusugan ay kayamanan.
 (Health is wealth.)

 「健康が何よりも大切」
 (日本：健康は富に勝る)

 タガログ語 Pagkahaba-haba man daw ng prusisyon, sa simbahan din ang tuloy.
 (Even though the procession is long, it will still end up in church.)

 「どれだけ長くかかろうとも、辛抱強く続ければ、必ず教会(目的地)に着く」
 (日本：継続は力なり、努力は報われる)

※フィリピンでは、教会がいかに生活に根付いているかが、このことわざから分かるのも興味深い。

「ことばであそぼう②」の振り返り

児童の様子

《日本語学級での様子》

- 日本にもフィリピンにもことわざがあり、また似ているものがあることに気づくことができた。
- 教師が上の句を読むと、教科書で下の句を積極的に探し、元気よく答える姿が見られた。
- △ 全体的に楽しく取り組んでいたものの、教師が上の句を読んでも、なかなか反応を返せない児童もいた。

《在籍学級での様子》

- ことわざへの関心が高く、教科書以外のことわざを積極的に調べて友達に発表していた。
- 『さるも木から落ちる』と『かっぱの川流れ』は似ている』など、日本のことわざの中には、似ているものがあるということに気づくことができた。

学習活動案・日本語支援について

1時間目

成果



- フィリピンのことわざを紹介し、似ていることわざがあることに気づかせることができた。さらに、これまでに住んだことのある場所では、どんなことわざがあるのか、自分でも調べたいという意欲を高めることができた。

課題



- △ なかなか反応を返せない児童もいた。
→ 今回はことわざに親しむ時間ということで、全員で学習を進めてきたが、小グループで進めた方が、より個々の状況を把握して、学習を進めることができたのではないかと感じた。



オンライン授業

第3学年
日本語学級

感想を伝え合おう

ありの行列

2時間

トピックの ねらい

○ 説明文の構成を理解し、おおまかな内容をとらえて、感想をもつことができる。

日本語の 目標

- ① 絵カードと言葉カードを合わせる活動をととして、語彙力を高める。
- ② 感想の書き方（構成・内容）のモデル文を参考に、感想を書くことができる。

関連

教科・ 単元

国語科：「ありの行列」

A

理科：「動物のすみか」

B

くらし・ 行事

・ 科学読み物

C

主な 学習活動

- ① 「ありの行列」を読み、語と語の区切り方や言葉の意味を理解する。
- ② 感想を書き、友達と交流する。

教材・ 教具等

国語の教科書・Jamboard・ホワイトボード

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチュラルの視点

関連

- ありについて知っていることを出し合う。

- * 理科の学習や、これまで住んだことのある場所で経験したことをもとに、ありについて知っている情報を出し合う。
- ◇ アメリカの学者ウイルソンがありを使って実験したことを知り、教科書の挿絵をヒントに、どんな実験をしたのか予想させ、読む意欲を引き出す。

A
B

ウイルソンは、どんな実験をしたのか、たしかめよう。

- 「ありの行列」の追い読みをする。(グループ)

- ◇ 分かち書きなども活用しながら、どこで言葉を区切るのかを理解できるように、教師のあとに続けて読むようにする。

A

- 言葉の意味を確認する。(グループ)

- ◇ ウイルソンがした実験についての内容をつかめるように、挿絵を提示したり、ありの動きを Jamboard に示したりする。

A

- (道すじから) 外れる。
- 行く手をさえぎる。
- (ありの行列は) ちりぢりになる。
- じょうはつする。
- (においに) そって歩く。

- 絵カードと言葉カードを合わせる活動を行い、動作化も行いながら、意味理解を促す。

- ◇ 早く終わったグループは、本時の学習で扱った言葉を使って、さまざまな文づくりにチャレンジしてよいことを伝える。

A

- 学習を振り返る。

- 本時の学習内容を聞く。

感想を書こう。

- 「ありの行列」の感想を、視点にそってまとめる。(グループ)

- ◇ 「おどろいたこと」「不思議に思ったこと」「もっと知りたいと思ったこと」の視点ごとに段落を変えて書けるよう、書き方のモデルを提示する。

A

- おどろいたこと
- 不思議に思ったこと
- もっと知りたいと思ったこと

「わたしは、『ありの行列』を読んで、～におどろきました。(不思議に思いました。)わたしは、～をもっと知りたいと思いました。」

- * フィリピンの赤いありにも同様の実験をしたら同じ結果になるのか問い、興味を喚起する。

C

- ミニ交流会をする。(全体)

- ◇ 自分と同じところやちがうところをさがしながら聞くことを確認する。

A

1

2

2

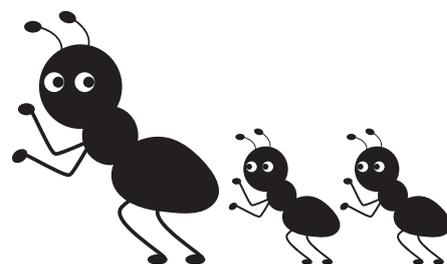
- 学習を振り返る。

- ◇ 自分、そして友達の感想文のよさを発表し、書くことへの意欲と自信をもたせる。

A

C

- ◇ 生き物の生体のなぞに迫る科学読み物を紹介し、学びを広げ、深めていく。



《日本語学級での様子》

【1時間目】

- 小グループで活動したことで、積極的に自分の考えを伝えたり、友達同士で教え合ったりしながら楽しく学習していた。
- △ 基本の読みがなかなかできない児童もいた。

【2時間目】

- 書き方のモデル文を見ながら、書くことができた児童が多かった。
- △ 文末が話し言葉になっている児童や、内容ごとに段落を分けて書くことができていない児童もいた。

《在籍学級での様子》

- 日本語学級で取り上げた言葉の意味を、国語の時間に再度尋ねた際、すすんで意味を発表していた。また、うなずきながら聞いている児童も多かった。
- 日本語学級で、感想を書いてミニ発表会を行っていたことで、国語の時間に自信をもって発表することができた。
- △ 内容ごとに段落を分けて書くという意識が薄く、全体的にできていなかった。

1時間目

成果



- 日頃の日本語の運用力をもとに3つのグループ（7人・4人・1人）に分けたことで、グループに応じて、より効果的に指導することができた。
- 絵カードを使ったり、動作化したり、文の中に出てきた言葉を絵カードから見つけたりすることで、言葉の意味理解を深めることができた。

課題



- △ 言葉の意味は分かっているが、正しく活用できていない児童が多かった。
- ➔ 国語の時間に再度語彙を確認する必要がある。まずは意味理解を促し、実際に書かせて活用する力も高めていきたい。

2時間目

成果



- ミニ交流会があることを伝えたことで、意欲的に書く活動に取り組むことができた。また、聞く際の視点を与えたことで、しっかり聞くこともできた。
- 感想の書き方のモデルを示したことで、安心して書き始めることができた。

課題



- △ 抵抗なく書いていたが、話し言葉で書いていたり、段落分けができていなかったりしていた。日本語学級の時間が足りず、個々の訂正までできなかった。
- ➔ モデル文の中で、文末表現に注目させる必要がある。また、自分が書いたものを内容ごとに段落分けしているか、各自で確認させ、その後、個別に訂正を行いたい。



オンライン授業

第3学年
日本語学級

モチモチの木 登場人物の気持ちをさがろう

2時間

トピックの ねらい

○ 物語を読み、登場人物の心情を読み取ることができる。

日本語の 目標

- ① 物語を読んで、感想をもつことができる。
- ② 登場人物の気持ちを読み取り、「～は～な気持ちだと思います。」という文型を使って伝えることができる。

関連

教科・ 単元

国語科：「モチモチの木」 **A**
 総合：「ドキドキフィリピン探検隊」 **B**

くらし・ 行事

・ 文化的行事（正月） **C**

主な 学習活動

- ① 「モチモチの木」を読んで、感想をもつ。
- ② 文章の中から登場人物の気持ちを考える。

教材・ 教具等

国語の教科書、ふりかえりカード

授業展開

時間

学習活動

指導のポイント

支援 ○日本語 ◇教科
* バイカルチュラルの視点

関連

- 「霜月二十日のぼん」に出てくる「霜月」について知る。

- 日本で今も昔も使われている月の呼び名を知る。
- * フィリピンの月の呼び名を尋ね、昔と今とで呼び名が変化していることについて興味をもたせる。

A
C

物語を読んで、感想をもとう。

- 「モチモチの木」を読む。(グループ)

- ◇ 「モチモチの木」をやさしい日本語に直したあらすじを見せることで、物語全体の内容理解を促す。
- 文章を区切る場所やイントネーションなど、正しい読み方を知るために、教師の音読を聞いた後に、追って読むことを伝える。
- 分からない言葉は、国語辞典やインターネットを使って調べ、言葉の意味を確認するとよいことを伝える。

A

- 読んだ感想を交流する。(全体)

- ◇ 友達の感想を聞いて、さまざまな感じ方があることに気づかせたい。また、より深い読みができている児童の感想を聞いて、「本当にそのようなことが書かれてあったのか」等、全体に問い返したりしながら、読む意欲を高める。

A

- 学習を振り返る。

- ◇ ふりかえりカードに記入するよう指示し、自己評価できるようにする。

A

- 豆太について振り返る。

豆太の気持ちは、どこに書かれているだろうか。

- 「豆太は見た。」の場面について、確認する。

- 難しい言葉は、動作化して理解できるようにする。
 - うなる
 - とびつく
 - 歯を食いしばる

A

- 「豆太は、なきなき走った。」ときの気持ちはわかる言葉を探す。

- ◇ キーセンテンスを短冊で提示することで児童が豆太の気持ちに注目できるようにする。
- ◇ 考えたことを伝えられるように、「～は～な気持ちだと思います。」のモデル文を提示する。

A

- 学習を振り返る。

- ◇ ふりかえりカードに記入するよう指示し、自己評価できるようにする。

A
B

1

2

2

- * 日本の物語だけではなく、フィリピンや世界各国の物語にも豆太のように主人公が成長していく物語があることを伝え、関連する絵本を紹介する。



《日本語学級での様子》

【1時間目】

- 今回の読む活動は、先行学習として行ったため、漢字にふり仮名を振ったり、正しい場所で言葉を区切ったりする姿が見られた。
- △ 一部の児童ではあるが、一文読むにも時間がかかった。漢字が出てくると顔をしかめるほど、読むことに抵抗を抱いている児童がいた。
- △ 一部の児童ではあるが、特に、内容が捉えにくい文章は、どこで区切って読むのか分からず、言葉としての理解ができていない様子だった。

【2時間目】

- 登場人物の行動に込められた気持ちを、文章の中から意欲的に見つける姿がみられた。
- △ 文章はくわしく書くと相手に伝わりやすいという既習事項から、文章の中に自分の考えや他の場面の様子を入れながら、長々と説明する児童がいた。

《在籍学級での様子》

- 国語「モチモチの木」の音読では、漢字や読みづらい日本語にも臆することなく、正しい語の区切り箇所を、堂々と読むことができていた。
- 登場人物の気持ちを尋ねた際、自信をもって説明する姿がみられた。
- 読み取り活動において、登場人物の気持ちは「行動や会話の前後に書いてあります。」と発言し、在籍学級で学習する児童の学びを促した。
- 読む活動の中で、うまく読めない児童に読み方を教えたり、励ましたりする姿が見られた。

成果



- 分からない言葉は国語辞典などで意味を確認し、内容理解につなげることができた。

- △ 漢字が読めずに戸惑ったり、どこで区切れればいいのかわからなかったりする児童がいた。

→ 教師の後に続けて読ませることで、文節やイントネーションを知ることのできる活動であった。また、漢字のルビや分かち書きされた教科書（デジタル教科書）を使うことで、児童の読みをサポートできたのではないかと考える。

- △ 活動時間の中で、全場面の音読が終わらなかったグループもあった。
→ 読む活動の進め方として、各グループの児童の実態をしっかりと把握し、読む活動量を設定する必要がある。家庭学習として出している音読の成果を定期的に見るなど、継続的な指導を行う。

1時間目

課題



2時間目

成果



○ 登場人物の気持ちは、文章の中に書いてあるということを読み取らせることができた活動であった。また、「より強い気持ちがどちらなのか」と問うことで、「しかし」や「もっと」という文章中の言葉に着目させることができた。

△ 登場人物の気持ちを読み取ることはできるが、自分の考えを入れながら、長々と説明する児童もおり、分かりにくかった。

➔ 文章の中の言葉を用い、より簡潔に、分かりやすくまとめることの重要性を引き続き授業の中でも指導していく。

課題



△ 対象児童には、主人公の気持ちを読みとることが困難であるという実態があったため、2時間目に、主人公の気持ちの読み取りを確認する活動を行った。

今年度は、在籍学級の国語科において十分な時間確保ができなかったため、本活動を計画した。

主人公の気持ちを理解した上で、音読発表会等の活動に繋げることで、より豊かな表現力を発揮できると考える。





オンライン授業

第4学年
在籍学級

きょう土の伝統・文化と先人たち

授業者
三好 豪

単元の 目標

- 地域の伝統と文化や、地域の発展に尽くした先人の働きなどについて関心をもって、教科書や地図帳、およびインターネット、社会科副読本などに加え、マニラの地域情報なども含めて調べることができる。
- 伝統や文化、先人の働きが過去・現在の人々の生活とどのように関わっているのかについて考え、表現することを通じて、伝統や文化、先人の功績を守る人々の努力や願いを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちができることを考えようとする態度を養う。

知識 ・ 技能

- ① 文化財や年中行事を地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など、人々の様々な願いが込められていることを理解している。
- ② 文化的建造物の仕組みや工夫について理解するとともに、つくった先人たちが様々な努力や工夫により住民の生活の向上に貢献したことについて理解している。
- ③ インターネットで調査したり、教科書や地図帳、副読本「マニラの暮らし」等の資料を調べたりして、ノートや年表などにまとめている。

単元の評価規準

思考力 ・ 判断力 ・ 表現力

- ① 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現している。
- ② 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目し、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きの苦勞や成果について考え、表現している。

主体的に 学習に 取り組む 態度

- ① 予想や学習計画を立てて、学習問題を解決する見通しを持っている。
- ② 地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしている。
- ③ 他の都道府県や地域についても調べ、例を比較して共通点や相違点から新たな学びを得ようとしている。

指導に当たって

1. 教材観

各都道府県には、それぞれの伝統や文化、先人の働きが残されている。この伝統や文化、先人の働きについて学習を進め、調べていくということは、歴史的な背景や当時の課題、そこから現在に至る経緯について知ることにつながる。長い時を経て今もなお引き継がれる伝統や文化、先人の働きの社会的な意味や価値などについて、地域の人々の努力や願いを知ることからも、より深い理解をしていくことを図る教材である。ここで育まれる力は、多様性を認め、他を尊重する姿にも通じており、豊かな国際性の涵養へとつながる。

2. 児童観

フィリピン政府のコロナウィルス感染拡大予防措置のため、2020年3月中旬から現在に至るまで、本校では、休校状態が続いている。そのため、本校の児童は、半年以上の間、オンライン授業を受けている。児童は、Zoomによってオンライン授業に参加し、Google Classroomによって教材の受け取りと課題の提出を行っている。教師・児童、どちらも現在の学習の在り方に慣れてきたが、実際の対面授業と比較すると、授業中の反応や習熟度がわかりにくいことや、体験的な活動ができないことが悩ましい。

社会科の学習も Google Classroom を用いて課題を配信、提出することにより学習を進めている。日本の都道府県のことについて調べる上では、インターネットを利用できる現在の環境は、かえってよい環境かも知れない。ただし、都道府県に関しては、渡航前の出身地や祖父母や親戚が住む場所という認識の児童が多く、フィリピンで生まれた児童、日本の記憶がほとんど無いほど幼い時期に来比した児童もあり、「私の都道府県」という実感を共有することは、難しい。

3. 指導観

学級の児童のほとんどが、マニラで生活をしており、通常であればマニラにあるマニラ大聖堂や、サンチャゴ要塞、コレヒドール島などの貴重な史跡を巡ることができる。しかし、コロナウィルスの影響で、今はフィリピンの史跡を見学することができない。また、日本の各都道府県の伝統や文化、先人の働きの跡を実際に見ることはできない。そのような状況下、児童は、伝統や文化、先人の働きに関することを資料やインターネットで知ることがメインとなる。

自分の置かれた状況を乗り切るために精一杯生きている児童が、地域の人々により大切に守られ、引き継がれてきた伝統・文化や先人の働きについて触れ、都道府県のよさに改めて気づけるようにし、他の地域や国でも同じように大切にしていることがあることや、大切にしている人たちがいることに目を向け、受け入れ、尊重した考え方ができるようにする。

日本語指導との関わり

1. 日本語学級に在籍している児童の実態

本学級の国際結婚家庭数は9件で、日本とフィリピンが7件だが、他にも中国、韓国、など多岐にわたる。家庭での言語は、日本語だけの家庭は少なく、英語を併用している児童が多い。また、フィリピン人のメイド、ドライバーを雇用する家庭もあり、国際結婚家庭に限らず、日常生活で英語を話す機会は日本よりも多い。保護者の一方は日本人であることもあり、9名の児童全てが、日本語での日常会話に困ることはないが、授業中の丁寧な言葉遣いや学習言語の理解などが十分でない児童がいる。9名の児童のうち、日本語学級に在籍するのは6名であり、その中で学習言語や学習そのものの支援の必要性が高いのは、5名である。いずれも、父親が日本人で母親がフィリピン人の家庭であるため、児童の活動時間に父親の日本語での支援が受けられず、学習の準備の細かい指示や家庭への連絡が届きにくいことがある。そのため、父親に個別に授業の準備や課題の提出、通信の不具合などの確認を行ったり、時間を見つけて児童に個別の指導・支援をしたりしている。

児童は、オンライン授業に休むことなく参加しており、教師の問いかけにもよく反応をしている。父母の出身地や祖父母が暮らす都道府県のことを特に知りたいという気持ちが強く、古いお寺や教会、有名なお祭りのことについて自ら家族にインタビューをしたり、インターネットで調べたりするなど、学習意欲の高まりを感じる。

2. 日本語支援の主な内容

- 日本の歴史ある寺や城郭、祭りについて予備知識を得るため、先行学習をする。
- 日本語の比較表現が授業の中でスムーズに活用できるように支援する。

例

ア 「(那覇市)で、(P)が大切にされているように、(札幌市)でも(P)が大切にされています。」

イ 「(宇都宮市)では、(P)が大切にされています。それと同じように、(水戸市)でも(P)が大切にされています。」

ウ 「(日本)でも、(フィリピン)でも、(P)が大切にされています。」

場所 A = 場所 B
P が大切 P が大切

〈参考資料 1〉

支援	支援の視点	支援タイプ
直接	日本語や学習内容の理解を促す支援	理解支援
	表現内容の構成や日本語での表現を促す支援	表現支援
間接	語彙や表現の記憶を促す支援	記憶支援
	自分で学習する力を高める支援	自立支援
	学習への動機付けなど、情意的側面での支援	情意支援

(「学校教育における JSL カリキュラム (中学校編) II 日本語支援の考え方とその方法」より)

単元の指導・評価計画（総時数 10 時間）

次
(時)

主な学習活動

指導上の留意点

評価

日本語学級の指導内容

理 表 記 自 情

一
(1)

- 愛媛県や他の都道府県にある古いものについて出し合う。

- 単元の学習に関して
- ◇ 校内研究に関して
- ◎ 日本語支援に関して
- 愛媛県の代表的な有形・無形の文化財や年中行事を紹介し、児童が他の例を想起できるようにする。
- ◇ 古いものが各地に多く残されていることに気づけるようにする。
- ◎ 「残されている」という表現を活用して気づいたことを発表できるようにする。

古くから残る物を想起し、学習の見通しをもっているか。
(発言・ノート)
【主体的に学習に取り組む態度】

- 理 日本 の有形・無形の文化財には、どのようなものがあるか。
- 表 「残されている」「今も残される」

二
(9)

- 学習計画を立てる。

- なぜ古いものが今までのこっているのかの予想から、課題づくりへつなぐ。
- ◇ 松山市の例から自分の縁のある地域へと学習をつなげられるように促す。
- ◎ 「残されている」という表現を活用して気づいたことを発表できるようにする。

地域には、古いものが多く残されていることを理解し、具体例を挙げることができている。
(発言・ノート)
【知識・技能】

- 文化財について学習問題を作って調べる。
- 文化財についてわかったことを発表する。

- 愛媛県の有形文化財や保存する人々の様子を理解できるように教科書を活用する。
- ◇ NHK for School を利用し、他の県の例を知り、自分の縁のある地域への関心へつなげる。
- ◎ 「〇〇では～」「〇〇でも～」という表現を活用する。

各地に残る文化財が、大切に守られているということをもとに、人々の願いや思いについて考えているか。
(発言・ノート)
【思考・判断・表現】

- 理 フィリピンの有形・無形の文化財には、どのようなものがあるか。
- 表 「浜松市では～」「浜松市でも松山市でも～」

本時

- 郷土芸能は、どのように伝わってきたかについて調べる。
- 郷土芸能についてわかったことを発表する。

- 無形文化財や継承する人々の様子を理解できるように教科書や社会科副読本、旅行雑誌などを活用する。
- ◇ NHK for School を利用し、伝統。文化を守り伝える人々の願いや思いを知る。
- ◎ 自分のルーツについて関心を高められるようにする。

各地に残る文化財の例を比較し、大切にしている人々の願いや思いについて考えているか。
(発言・ノート)
【思考・判断・表現】

- 理 情 日本とフィリピンの民族や文化には、どのようなものがあるか。
- 記 「アイヌは～」「イフガオ族は～」

- 昔から続く祭りには、どのような願いがこめられているのかについて調べる。
 - 祭りについてわかったことを発表する。
- 年中行事や継承する人々の様子を理解できるように教科書や社会科副読本、旅行雑誌などを活用する。
 - ◇ NHK for Schoolを利用し、伝統・文化を守り伝える人々の願いや思いを知る。
 - ◎ 自分のルーツについて関心を高められるようにする。
- 古くから残るものについて年表にまとめる。
- 調べて分かったことを年代や時代で並べて写真や絵などを加えて整理し、説明文を吟味することで学習のねらいへとつなげる。
 - ◇ 事例を比較し、共通点と相違点からの気づきを大事に扱う。
 - ◎ 調べて分かったことを、日本語学級で学んだ表現を使って、比較できるようにする。
- 古いものを受け継ぐために自分たちができることを考える。
- これまで学習で触れた、事例をもとに、保存・継承の大切さについて考えられるようにする。
 - ◇ 事例を比較し、共通点と相違点からの客観的な気づきを大事に扱う。
 - ◎ 調べて分かったことを、日本語学級で学んだ表現を使って、比較できるようにする。
- 各地に残る文化財に対する人々の願いや思いを知り、自分の考えをもっているか。
(発言・ノート)
【思考・判断・表現】
- 理情**
日本とフィリピンの民族や文化の共通点には、どのようなものがあるか。
- 記**
「アイヌは～」
「イフガオ族は～」
- 自**
調べたことをスライドを用いて表現する方法を身につける。
- 表**
「(東京)で、(A)が大切にされているように、(京都)でも(A)が大切にされています。」
- 調べたことを年表やスライドなどにまとめ、県内の文化財や年中行事に込められた人々の努力や願いについて理解しているか。
(発言・成果物)
【知識・技能】
- 地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしているか。
(発言・学習感想)
【主体的に学習に取り組む態度】

本時の学習 (第2次3時)

1. 小単元名

「古くから残る県内の建物」

2. 本時のねらい

自分たちの地域に古くから残る建物が、どのようにして守られているのかを調べ、地域の人々の思いや願いについて考える。

3. 本時の評価 【思考・判断・表現】

A

各地に残る文化財が地域の人々に大切に守られているということをもとに、人々の願いや思いについて考え、さらに、自分の考え・見方をもつことができている。

B

各地に残る文化財が地域の人々に大切に守られているということをもとに、人々の願いや思いについて考えている。

4. 準備・資料等

★ ノート PC (Zoom) ・ iPad (ロイロノート) ・ Apple Pencil

★ Google Classroom の「授業」に以下の資料を掲載。

- ・ 前回の板書（ノート）画像
- ・ 児童から提出された前回の愛媛県の文化財のまとめの画像
- ・ NHK for School の関係動画へのリンク
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005311165_00000
- ・ 学習の振り返りフォーム（Google Forms）



5. 本時の展開

学習活動・
児童の姿

- ・ 前時を振り返る。
 - ・ 愛媛県のことを学習した。
 - ・ 文化財のことを調べた。
 - ・ 守っている人がいる。
 - ・ フィリピンにも文化財があるよ。
- ・ 愛媛県以外の都道府県の文化財を出し合う。
 - ・ 大阪城、名古屋城、姫路城
 - ・ 善光寺、法隆寺、清水寺
 - ・ マニラ大聖堂、カリエド水道
- ・ 文化財が大切にされている理由を考えて発表する。
 - ・ 古いから。
 - ・ ずっと続いているから大切。
 - ・ 観光資源になるから。

○教師の指導
◎日本語支援◇校内研との関わり
◆評価【観点】（方法）

- 児童の発言やまとめの画像（ノート・スライド）の共有から内容を想起できるようにする。
- 愛媛県・文化財（古い建物）・保存する人々の存在の3点を確認する。
- ◎ **日本語学級で学んだフィリピンの有形・無形の文化財について提示することで、自分たちの生活と関連づけて関心を持つことができるようにする。**
- 「他の都道府県にはどのような文化財がありますか。」
- 多くの場所で文化財が大切にされていることを改めておさえておく。
- 「文化財は、なぜいろいろな場所で大切にされているのでしょうか。」
- これまでの学習での発言などを振り返り、文化の広がりや人々の思い・願いの共通性に全員が目を向けるきっかけとしたい。

導入
10分

- めあてを立てる。

めあて 文化財が大切にされている理由を考えよう。

- 浜松市の文化財の様子についての動画を視聴しメモを取る。 …3分 22秒
 - NHK for Schoolの動画を視聴し、浜松市には、天竜川橋（85年前）、旧警察署庁舎（90年前）、石蔵（約130年前）、浄水場のポンプ室（約90年前）など、たくさんの文化財が残っていることを確かめる。
- 中山さんの思いを推察する。
 - 思い出のある場所だから。
 - これまで大切にしてきたから。
 - もったいないから。
- 文化財がなぜ現在まで残っているかについて考える。
 - ① 各自で考える。 …2分
 - ② 全体で交流する。 …3分
 - 思い出があるから。
 - 丈夫にできているから。
 - もったいないから。
 - 修理しているから。
- 中山さんが、『ここをそのまま続けて、維持してほしい』と話したのはどうしてかを問い、中山さんの思いを推察する。
- さらに、思考を広げるため、他の地元の人はどうか、他の文化財に対してはどうか、を問う。
- ◎ フィリピンの人たちの思いについても、想像したり、経験から考えたりすると良いことを助言する。
- 自分の意見をもって、全体交流に臨めるようにする。
- 全体交流の場で、保存の努力・人々の思い・人々の願いというキーワードを特に大切にし、共通理解できるようにノートで提示する。

手立て 浜松市と松山市・マニラを比べて考えたことを交流する。

- ① 少人数交流（3名以下） …2分
- ② 全体交流 …3分
 - 大切にしている人がいると思う。
 - 保存するための努力をしている。
- ◇ ブレイクアウトセッションで、浜松市と松山市の例の比較を通しての話し合いをする際に、フィリピンで生活している自分たちの思いや考えも含めて、それぞれの共通する価値を見出すきっかけをつくる。

- ◎ 主述の関係を明確にし、「〇〇では～。□□では～」または、「〇〇でも□□でも～」と、話せるように、事前指導をしたり、必要に応じて分け意を示したりして支援する。**表**
- 全体交流で、意見の集約をし、まとめにつなげる。

- 本時の学習内容をまとめる。

【まとめ】「文化財」は、保存に取り組む人々の努力や思いに支えられている。

- 学習感想を発表する。
 - 場所は違っても大切にしている気持ちや願いは同じ。（似ている。）
 - いろいろな場所に文化財がある。
 - 文化財を大切にしている人がいる。
- 感想を書く視点を示す。**お は な し**
（驚いたこと・初めて知ったこと・納得したこと・もっと知りたいこと）
- 「人々の努力や思いが詰まっている文化財について、どのようにしたいと思いますか。」と発問し、自分の考え・見方を想起することを促す。

- 大切さは人によって違う。
- 他県の文化財も大切にしたい。
- フィリピンにある古いものも大切にされているのか。
- フィリピンの郷土芸能を知りたい。

- ◆ 各地に残る文化財が、大切に守られているということをもとに、人々の願いや思いについて考えているか。
(発言・ノート) 【思考・判断・表現】
- ◆ 地域には、古いものが多く残されていることを理解し、具体例を挙げることができている。
(発言・ノート) 【知識・技能】
- ◆ 地域の伝統や文化の保存や継承について自分なりの考えをもとうとしている。
(Google Forms) 【主体的に学習に取り組む態度】

	月	日	曜日
◎文化財はなぜ残っているのか。			
• やくめがあるから。			
• じょうぶにできているから。			
• こわすともったいないから。			
• しゅう理をしているから。			
◎浜松市と松山市をくらべて…			
• 文化財が残っているのが同じ。			
• 大切にしている人がいると思う。			
• 보존する努力をしている。			
• 自治体が支えんしているかも。			
Ⓜ地いきには、			
<u>古くから残る文化財があり、</u>			
<u>多くの人々が 보존に取り組ん</u>			
<u>でている。</u>			
Ⓢ古いものが残っているのは、			
それを大切にしている人がいるか			
らだということがわかった。			

© 小学生の学習教材【ちびむすドリル】 <http://kotoshihitoru.jp/syogaku.html>

★ 事後に Google Forms にて、下記の項目を問い、自他の評価と学習感想を回収する。

- 児童名
- 設問①「今日のやる気メーター（1～10）」
- 設問②「今日の学習であなたができたことは、どんなことですか。」
- 設問③「かつやくしていた友達は、だれですか。」
- 設問④「その友達のどんなところがよかったですか。」
- 設問⑤「今日の学習からわかったことを書きましょう。」

研究仮説について

本単元では、在籍学級における日本語支援を効果的に進めることにより、バイカルチュラルの視点をもって深く考えることができる児童を育むことを目標として、2点の児童像を設定した。

- 愛媛県の人々が、地域の伝統や文化について大切にしようとする気持ちをもつように、他の地域や国の人々も同じように大切にしている人々がいることを理解できる児童。
- 愛媛県と自分の地域の事例、日本とフィリピンの事例など、それぞれの伝統や文化について理解し、単純に優越を比較せず、そのまま受容し、その背景に思考を及ぼせながら、建設的な判断や思考、表現を生み出そうとする児童。

また、この児童像が達成できるように、研究仮説を以下のように設定した。

都道府県に伝わる伝統・文化について知識を広げ、その内容や背景を地域間で比較する授業づくりをすれば、それぞれの伝統や文化の歴史的価値や、それを守り伝える人々の存在や思いを意識して尊重することができる児童が育つだろう。

これを受けて仮説の検証の方法は、

調べ学習により習得した知識からその背景について思考を働かせる活動を積み重ねることで、

- 多様性や文化を尊重し、相手や周囲の状況を考えた発言や感想の記述が増えているか。
- 発言や感想の内容が具体的で深いものになったか。

について、ワークシートを用いてポートフォリオを形成し、毎時のまとめや学習感想を蓄積して総合的・段階的な児童の変容を確かめる。

こととした。

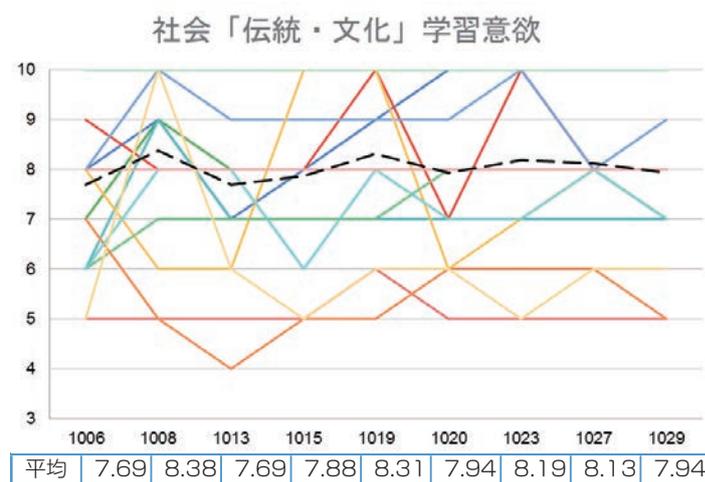
児童の変容については、少なくとも単元を通じた追跡調査が必要である。そこで、本単元では、Google Forms で5つの設問の回答を授業後必ず回収するようにした。

- ①「今日のやる気メーター（1～10）」
- ②「今日の学習であなたができたことは、どんなことですか。」
- ③「かつやくしていた友達は、だれですか。」
- ④「その友達のどんなところがよかったですか。」
- ⑤「今日の学習からわかったことを書きましょう。」

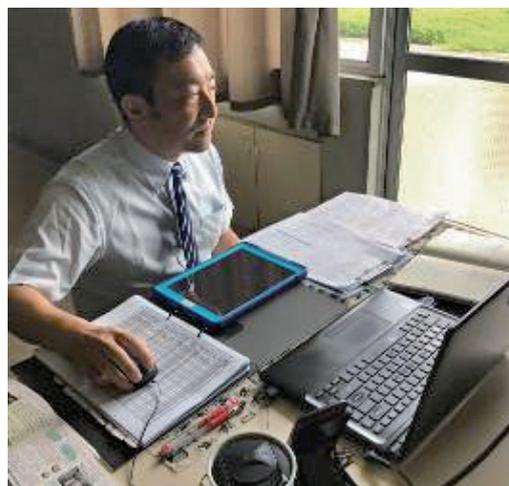
仮説検証に向けて特に注視したのは、設問①と⑤である。設問①からは、この学習についての学習意欲の変化を見取り、設問⑤からは、単元の学習が進むにつれ、多様性や文化を尊重し、相手や周囲の状況を考えた発言や感想の記述が増えているか、内容が具体的で深いものになってきているかについて確かめることとした。

まず、設問①では、本單元における学習意欲を確かめた。後半に展開するに従ってポイントが高くなっていくことを期待していたが、平均値は波線が示す通り、おおむね8ポイントで一定していた。全体的に右上がりではないものの、意欲が高いまま単元の学習が進んでいったと見ることができる。また、最低ポイント4を示した児童については、その後、6ポイントとしており、個人内でプラスの変化が見られる。総じて、学習意欲については、良好な状態であったと考える。

10月8日の意欲が全体的に高くなっている。第1次の導入を経て、伝統・文化に興味をもち始めた児童が、教師が用意したスライドや道後温泉の公式HPなどの具体例に触れて、さらに興味を深め、学習への期待を高めたことがうかがえる。その後も、単元を通して各地の伝統・文化に触れ、それにはどのような意味や成り立ちがあるのかを調べたり、考えたりすることを児童は積み重ねた。



(資料1 「設問①の自己評価による学習意欲の推移」)



(Zoom を利用してのオンライン授業)

次に、設問⑤では、毎時の学習の中でわかったことの記述を回収した。児童の感想は、「人々の思いに関する感想」と「古いものの価値に関する感想」、そして「それ以外の感想」の3つに分類することができた。この中で、研究仮説に直結するのは、「人々の思いに関する感想」である。

前ページの表は、設問⑤の回答を集約して一覧にしたもので、色づけしてある部分は、「人々の思いに関する感想」である。色が濃いところは、人々の思いに触れた上で、児童が思考を働かせ、より深い内容の感想をもった部分であり、単元が進めば児童からより深い感想を得られると考えていた。残念ながら、実際は、ねらい通りになっていないことがわかる。しかし、そのような中で、継続的に深い感想を提出できている児童がいる。

I児は、10月15日から参加した転入児童である。I児は、授業で学んだことを基にして、ほぼ毎回、事実の裏側まで考えを巡らせた考察を含む感想を書くことができていた。記述のスタイルは、前半に伝統・文化を守り伝えてきた人々の思いについて述べ、後半に新たな学習課題や自分なりの所感を述べるという形である。

人々の思いがなければ、歴史建造物はもうとっくにないから、人々の「あとに伝えて未来の人にも同じ景色を見てもらおう」という思いはこれほど強いのだなと思いました。

「10月15日の記述」

たとえ世界遺産とか文化財じゃなくても、そこの地元の人はそれを大切にして、受け継いだんだなと思いました。

「10月19日の記述」

昔の人は踊りを受け継いでもらうため、次の人に受け継がせてきたことがわかりました。それもあとに伝えたいという人々の思いなのだなと思いました。でも受け継ぐには相当教えておかないと受け継ぐことができないからどうやって教えていたのか、どうしたらほとんどおどりを変わらないように受け継げたのかが気になりました。

「10月20日の記述」

私が調べた踊りは人手が足りないのが悩みだけど、子どもに教える活動をしたから今も残っているのだなと思いました。何でも受け継ぐためには行動しなければならぬのだなと思いました。

「10月23日の記述」

お祭りも昔から大切にされてなお、途切れさせない工夫をしてきたのだなと思いました。祭りの意味が変わったというお祭りは、何かを変えてまでもつなげたいという気持ちが強いのだなとわかりました。

「10月23日の記述」

伝統・文化を守り伝えてきた人の思いというテーマを常にもって、同じ視点で毎時の授業に取り組む中で、次第に、教材のよさや抱える問題点を自分事として考えられるように感想が変化しつつあることがわかる。まさにねらい通りの児童像といえよう。

1児のような学びを他の児童からも引き出すためには、感想の記述内容のテーマを焦点化することや、記述の仕方の指導、学習課題を見出す力を高めることなど、さらなる教師の努力が必要不可欠であると実感した。このような優れた手本を適宜示しながら、どのような感想を書くかを共通理解することがまず大事である。

それと共に、何をすればよりよい学びに結びつくのかを児童自身が確かめ、次の学びに生かせるようにするためには、ルーブリック評価表を用いての評価とフィードバックが有効であると考え。ルーブリック評価表での児童の記録を工夫することによって、個々の意識の変容や傾向を把握することもできるであろうし、個々の情報を一括することで、全体の成果の分布も表わすことができるようになるだろう。

1か月後。道徳科の時間に「わたしの大切なもの」という、世界中の子ども達の大切なものというテーマで、世界の人々の多様性について考える時間があった。その学習の中で、国の異なる子ども達の大切なものの比較を通して、とても興味深い感想が出された。

- 大切なものは人それぞれ違って、その人にしかわからない良さがある。(H児)
- 比べて違うなあというところなどを見つけるのは、いいことだと思う。(F児)
- どの大切なものも受け入れてもらいたいし、受け入れようと思いました。(I児)
- たくさん相手のことを考えて、ブルキナファソの人たちのように挨拶をたくさんしたい。(G児)
- フィリピンの人は私と同じ意見。家族は大切。(7名)

これらの感想は、本時の研究仮説、「愛媛県と自分の地域の事例、日本とフィリピンの事例など、それぞれの伝統や文化について理解し、単純に優劣を比較せず、そのまま受容し、その背景に思考を及ぼせながら、建設的な判断や思考、表現を生み出そうとする児童」の姿に近づいていると感じさせる内容である。社会科で学んだことが道徳科の学びにもつながり、よい影響を与えていると推察できる。

このように、本校の研究は、教科横断的な取り組みや評価、検証によって、相乗効果が得られる可能性がある。よって、このことも踏まえて年間学習計画を構成するとよいであろう。

日本語支援の手立てについて

1. 「ノートのレイアウトで板書を進める」

日本語支援が必要な児童や低学年の児童、視覚からの情報を認知するのが苦手な児童にとって、板書を自分のノートに書き写すことは学習以前の部分で困難があり、ストレスとなる。余計な時間がかかるだけでなく、不必要な誤答さえも起きることがある。その問題を少しでも解消するため、ノートのマス数と行数を意識した板書を心がけている。現在、オンラインで授業を行なっているため、「黒板 to ノート」という形式ではなく、教師がノートに必要事項を書き進める画面を共有しながら「ノート to ノート」で授業を進めている。使用している機器は、iPad とアップルペンシル、アプリは、ロイロノートである。ノートを書く際にレイアウトで悩むことが無くなったため、ほとんどの児童が、「ノート to ノート」を支持しており、通常の対面授業に戻ったとしても、この手立てはノート指導や日本語支援、特別支援に有効であると考えられる。

2. 「文型による表現支援」

本時の前の日本語学級では、さらにそれ以前に先行学習とした、日本の有名な文化財に対して、フィリピンにはどのような文化財があるのかを一緒に調べた。そして、「(日本)では、〇〇が大切にされています。(フィリピン)でも、△△が大切にされています。」という文型に合わせた表現ができるよう練習をしていた。当初の予定では、

(ア)「(〇〇市)で、(A)が大切にされているように、(□□市)でも(A)が大切にされています。」

(イ)「(〇〇市)では、(A)が大切にされています。それと同じように、(□□市)でも(A)が大切にされています。」

(ウ)「(〇〇市)でも、(□□市)でも、(A)が大切にされています。」

という3つのパターンのうち、自分が言いやすいパターンを選択して発表する方法を考えていたが、練習の過程で生まれた(エ)のパターンが、シンプルで使いやすいということがわかったので、この表現を採用し、基本的な表現パターンとして本時でも用いた。

(エ)「(日本)では、〇〇が大切にされています。(フィリピン)でも、△△が大切にされています。」

この表現を用いたグループ活動を本時では設定していたので、グループ活動に入る前にこの表現を視覚情報として提示した。しかし、ブレイクアウトセッションになるとその提示は見えなくなったため、必要な時に必要な児童がその文型を確認できるように、ノートに書き写す時間をとったり、ブレイクアウトセッションに分かれた先でも、文型が見られるようなサポートの手立てを準備したりするなど、もう一工夫が必要であった。しかしながら、発表した児童は、この文型を用いて積極的に発表をすることができおり、日本語学級の児童以外の児童にも、答え方の支援は有効であることがわかった。



対面授業

第5学年
在籍学級

より豊かなフィリピンへ

授業者
渡邊花穂

単元の 目標

- フィリピンの問題点に対し、「自分たちにできること」という視点から改善策を考えて提案書をつくり、聞き手を意識した表現方法で発表することができる。

問題解決 能力

- ① フィリピンの問題について関心を持ち、計画的に問題解決に向けて取り組むことができる。
指導内容：Ⅲ

思考力 ・ 判断力

- ① 問題点に対する友達の意見を聞き、取り入れることができる。
指導内容：Ⅲ
- ② JICA の方の助言を取り入れ、より良い「説得力」のあるプレゼンテーションを考えることができる。
指導内容：Ⅳ、Ⅴ

情報活用 能力

- ① 人・書籍・インターネット等から情報を集め、取捨選択して整理することができる。
指導内容：Ⅰ、Ⅱ

表現力

- ① 聞き手を意識した発表内容を考え、今まで学んだ表現方法をもとに、表現方法を工夫することができる。
指導内容：Ⅲ、Ⅳ

単元の評価規準

単元の概要

1. 単元の設定理由

本学級の児童は、社会科の授業でSDGsについて考える活動を行い、『持続可能な開発』を考える学習を進めてきた。その一方で、フィリピンの闇の部分に触れることがない生活を送っているため、フィリピンの社会問題や環境問題を自分事として考えることができている実態がある。また、フィリピンに対して良くないイメージを持っている児童も少なくない。

2学期途中に、フィリピン JICA の方から出前授業のお話をいただいた。そこで、出前授業の話をもとに、フィリピンの問題について調べ、改善策として自分たちにできることを見つけるといった活動に取り組むことになった。その改善策をパワーポイントにまとめ、フィリピン JICA の方にプレゼンを行い、助言をいただけるような機会をつくることにした。そうすることで、目的意識が生まれ、児童の意欲も増すのではないかと考えた。また、JICA の方に発表をするため、「説得力」をもつ発表にしなければならないことから、問題解決能力を養うだけでなく、聞き手を意識した表現力を高めることができる活動でもあると考える。

フィリピンに住む一人の人として、フィリピンの闇の部分だけでなく、フィリピンの良いところを理解した上で、問題点についての解決策を考えることで、現地理解を深めさせたい。

2. 第5学年でつきたい力

問題解決能力：「米」「環境」について関心をもち、自分なりの課題を見つけ、計画的に問題解決に向けて取り組む。

思考力・判断力：自己の活動を振り返ったり、友達の見方、考え方を取り入れたりする。

情報活用能力：人・書籍・インターネット等から情報を集め、取捨選択し整理する。

表現力：今までに学んだ表現方法をもとに、聞き手を意識して、自分なりに表現方法を工夫する。

3. 単元で学ぶ内容

- I フィリピンの良さの問題点
- II フィリピンの問題点の実態を調査
- III フィリピンの問題点への解決策の考案
- IV JICA からのアドバイスを受けて、内容をより発展させる
- V JICA への第2回プレゼンテーション
- VI 環境問題について改善策を実施する機関の考察

日本語指導との関わり

1. 日本語学級に在籍している児童の実態

日常会話における日本語については全く問題なく、学習能力も高い。国語の読み取りは非常によくできる。その一方で、漢字や文章を書くことが苦手だったり、学習言語に対する苦手意識が強かったりする印象がある。特に社会科や算数科では、その様子が顕著に表れている。そのため、2学期の日本語学級の学習では、社会の先行学習を中心に行った。その結果、社会の授業での発言が増えたり、今まで白紙だった資料の読み取りの問題や記述式の問題に解答できたりするようになった。さらに、ある一人の女子児童については、社会の成績が大幅に伸びた。

また、総合的な学習の時間では、自身の英語の力を生かすなど積極的に活動に参加する姿が見られた。プレゼンテーション当日には、JICA の方の質問に対しても積極的に手を挙げて、返答していた。今後、さらに意欲的に学習に参加し、児童の能力を最大限に発揮できるような活動内容にしていきたいと考える。

単元の指導・評価計画（総時数 22 時間）

次	主な学習活動	指導上の留意点	日本語との関連
一 (6)	I. 日本とフィリピンの良さ フィリピンの問題点 (3H)	<ul style="list-style-type: none"> フィリピンの問題点を考えることがフィリピンへの悪い印象を持つことにつながるよう、配慮しながら指導する。 	日本語学級： ウェビングの書き方を練習する。 ※語彙が必要となる。
	II. フィリピンの問題点の実態を調査 (3H)	<ul style="list-style-type: none"> 児童が調べ学習を円滑に進められるよう、教師も事前に調べる。 調べるための視点を与える。 	資料を読み取る力 【読む力】
二 (13)	III. フィリピンの問題点への解決策の考案 (5H) テーマ：環境問題について 教育問題について 治安イメージについて	<ul style="list-style-type: none"> 問題を深く考えていけるように、Iの活動で書いたウェビングを活用しながら、解決策を考える。 3つのグループに分かれて活動を行う。 	表現力 【話す力】 まとめる力 【書く】
	IV. JICA からのアドバイスを受けて、内容をより発展させる (4H)	<ul style="list-style-type: none"> JICA の方からの助言をもとに、3つのグループから出ているテーマを1つに絞り、より深い内容の発表にする。 	話し合い 【話す力】 まとめる力 【書く】
	V. JICA への第2回プレゼンテーション (4H) テーマ：環境問題について	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手を意識した表現方法で発表する。 	表現力 【話す力】 助言の内容を理解する力 【聞く力】

VI. 環境問題について改善策を実施する機関の考察 (3H)

- 自分たちが考えた改善策を実施できるのがどの機関もしくはどの人たちのなかを整理する。
- 環境問題を解決するためには、全員の協力が必要であることが可視化できるようにする。
- 授業後、可視化できるように作成した製作物を掲示する。

話し合い活動【話す力】

本時の学習

1. 本時のねらい

自己の活動を振り返り、今まで学習してきた知識や情報を整理しながら、自分なりに問題解決に向かうことができる。

2. 本時の展開 (22/22 時間)

学習内容

- 川が汚れている原因について発表する。
- 本時の課題を確認する。

・指導上の留意点

○日本語指導の留意点 ◇評価方法

- 今までの学習を想起するような声掛けをする。
- 川の汚れている原因をあらかじめ、カードにしてまとめておく。

準備物

- 川が汚れている原因が書かれたカード

課題 川の環境を改善していくためにはどうすればよいのか、学んできた情報を整理して、自分なりの考えをもとう。

- 話し合いを通して、川が汚れている原因が書かれたカードやその解決方法が書かれたカードを分類する。

(6つの立場)

- フィリピンに住むフィリピン人
- フィリピンに住む外国人
- フィリピン政府
- フィリピンにある工場
- 川の近くに住む人々
- JICA

- 川が汚れている原因を5つの立場のどこで解決すべきものなのかをしっかりと考えることができる場の設定をする。

- 自分の意見を表現できなくても、カードを動かして自分の意見を可視化できるように工夫する。

- 川が汚れている原因が書かれたカード

- 解決方法が書かれたカード

- 6つの立場が書かれた表

展開
25分
(続き)

- 話し合いの活動を通して、気づいたことを書く。

教師 「川を改善するために大切なことはなんだと思いますか。話し合いの活動を通して、気づいたことを書きましょう」

(予想される児童の反応)

- 川が汚れている原因を解決する立場は一つではなかった。
- みんなが協力しないと川はきれいにならないことがわかった。

- 書くことが難しい児童は、書くための視点を与える。もしくは、その前の活動で作成した分類表を参考にしながら、書けるように支援する。

◇ 今まで学習してきた知識や情報を整理しながら、自分なりに問題解決に向かうことができる。【ワークシート】

- ワークシート

終末
10分

- まとめ

- 児童の意見をもとに、川の環境を改善していくために必要なことをまとめる。

板書計画

2/21 環境を守るわたしたち

課題 川の環境を改善していくためにはどうすればよいのか、学んできた情報を整理して、自分なりの考えをもとう。

話し合っ**て**気づいたこと

- ・
- ・
- ・

フィリピン	外国人	政府	工場	川に住む人	JICA

まとめ

川の環境改善をしていくためには、企業や行政だけではなく、わたしたち一人ひとりの協力が必要である。



- 日本語学級で先行して、川の水質汚染についての学習を行っていたため、在籍している児童も意欲的に活動に参加できた。
- 授業の流れを視覚化したことにより、短時間で全員が授業内容を理解して活動に取り組むことができた。
- カードを動かしながら話し合いを行ったことで、児童が自分の意見を発言しやすい環境を作ることができた。
- 話し合い活動を取り入れることで、友達に分からないことを聞くことができ、理解が深まった。
- 十分に理解が深まった上で、書く活動を行ったので、どの児童もワークシートに自分の意見を書くことができた。
- 日本語学級に在籍している児童が班の意見を自分の言葉で表現することができた。

成果



課題



- 書くことが苦手な児童への手立てをどうしていくか。(学習内容は理解し、ワークシートに記入はしていたが、自分の思いを十分に相手に伝わるように表現することが難しい)



オンライン授業

第5学年
在籍学級

比べ方を考えよう(1)

授業者
島袋源大

単元の 目標

○ 2つの量の割合としてとらえられる数量について、速さなどの単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解し、単位量あたりの大きさを用いた比べ方や表し方について図や式を用いて考える力を養うとともに、単位量あたりの大きさの意味や表し方を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。

知識・ 技能

- ① 2つの量の割合としてとらえられる数量について、速さなど単位あたりの大きさへの意味及び表し方について理解している。
- ② 速さや人口密度、単位量あたりの大きさを求めたり、比べたりすることができる。

思考・ 判断・ 表現

- ① 2つの量の割合として表される数量の関係に着目し、その数量の意味について図や式、言葉を用いて表現している。
- ② 目的に応じて大きさを比べたり、表現したりする方法を図や式などを用いて考えることができる。

単元の評価規準

主体的に 学習に 取り組む 態度

- ① 速さなど単位量あたりの大きさ及び表し方を、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的にとらえ、検討してより良いものを考えることができる。
- ② 単位量あたりの大きさを比べることのよさに気づき、学習したことを今後の生活や学習に活かそうとしたりしている。

指導に当たって

1. 教材観

速さや人口密度、割合など、2つの量の割合としてとらえられる数量は数多くある。この単元では、その表し方について理解することや図や式を用いて考える力を養うこと目標としている。実際の日常生活においてもそのまま直接的に比べることのできないデータは数多く存在する。この単元で身に付ける力をもとにして、それらを目的に応じた数量として表すことでより正確に見ることを目指す教材である。自分の感覚だけではなく数量で表し、客観的に比較することで双方の特徴や違いを実感することにつながる。さらにそれをきっかけとして道徳や総合における互いの文化や考え方の学習にもつなげるようにする。

2. 児童観

フィリピン政府のコロナウィルス感染拡大予防措置のため、2020年3月中旬から現在に至るまで、本校では、休校状態が続いている。そのため、本校の児童は、半年以上の間、オンライン授業を受けている。児童は、Zoomを使用してオンライン授業に参加し、Google Classroomを通して教材の受け取りと課題の提出を行っている。教師・児童、どちらも現在の学習の在り方に慣れてきたが、実際の対面授業と比較すると、授業中の反応や習熟度がわかりにくいことや、体験的な活動ができないことが悩ましい。

5年生は現在、オンライン授業を受けている児童は男子5名、女子8名である。算数科や他の教科でも課題の提出は自分で行うことができ、問題は無い。教室とは異なった環境でのオンライン授業のため、時間に遅れて参加したり、画面をオフにしたりする児童も見られるが、その都度チャットで指導と声掛けを行っている。全体として、自発的に意見を述べる児童は女子に多い。オンライン授業がスタートした当初と比べると自発的に手を挙げて発言する児童は増えてきている。Jamboardを用いたグループ活動も行っているが、内容によっては個人作業になってしまい、会話の進まない場面も見られる。1学期の単元で扱った1mあたりの値段を求める学習では、苦戦する児童が多く、割合のような学習は苦手としている。

3. 指導観

単位量あたりの大きさについての考え方は、1学期の単元「小数のわり算」で1mあたりの値段などを求める課題を通して学習した。今回の単元では、単位量あたりの大きさについての考え方をもとにして、異種の2量である面積と人口から見出す数量「こみぐあい」や、時間と距離から見出す数量「速さ」について学習する。そこで児童が主体的に取り組めるように、児童にとってなじみの深い「日本」と現在住んでいる国「フィリピン」を含めた周辺の国々を題材として取り入れ、それぞれの人口密度を求める活動を行う。新たに人口密度という数理的な見方を用いて、複数の国や地域を比べることにより、バイカルチャーの視点を持った児童の育成へとつながる。

日本語指導との関わり

1. 日本語学級に在籍している児童の実態

本学級の日本語学級へ参加している児童は2名である。1人はフィリピン人の母親を持ち、家庭学習等も期限を守り、提出することができる。学習についても他の児童に後れを取らず、学習内容も理解もできている。もう1人は中国人の母親を持ち、母親とはほとんど中国語で話している。父親の仕事の都合上本人と関わる時間がとれないため、今年に入ってからには特に日本語を話す機会が減っている。授業中も集中力を保てず、授業とは関係のない行動をとってしまうこともある。また、吃音持ちのため、難しそうに発音することがある。その2名における日本語能力の差は大きく、日本語学級の時間も場面によってはそれぞれ個別に指導を行っている。本単元に合わせて事前に人口密度を求める活動を日本語学級にて行う予定である。

2. 日本語支援の主な内容

- グループ活動の時には Jamboard 上にモデル文を提示し、意見交換を円滑に行えるようにする。
- 「混み具合」の感覚をつかむため、図や写真を用いて視覚的に理解できるようにする。
- PowerPoint のアニメーションを利用し、速さを視覚的に捉えられるようにする。

〈参考資料1〉

支援	支援の視点	支援タイプ
直接	日本語や学習内容の理解を促す支援	理解支援
	表現内容の構成や日本語での表現を促す支援	表現支援
間接	語彙や表現の記憶を促す支援	記憶支援
	自分で学習する力を高める支援	自立支援
	学習への動機付けなど、情意的側面での支援	情意支援

(「学校教育におけるJSLカリキュラム(中学校編) II日本語支援の考え方とその方法」より)

単元の指導・評価計画（総時数 10 時間）

次
(時)

主な学習活動

指導上の留意点

評価

日本語学級の指導内容

理 表 記 自 情

一
(2)

- 面積とウサギの数が違う3つの小屋の混み具合の比べ方を考える。
- AとCの比較を通して、匹数が面積のどちらかをそろえればよいことを考える。
- AとCの比べ方を、数直線の図を使って確認する。

- 単元の学習に関して
- ◇ 校内研究に関して
- ◎ 日本語支援に関して
- ◎ 実際に図や絵を動かすことで「ならず」ことを理解できるようにする。
- 面積かウサギの数かをそろえて考えることをおさえる。

混み具合の比べ方を、面積と匹数の関係に着目して図や式を用いて考え、説明している。
(発言・ノート)
【思・判・表】

理 面積とウサギの数をそろえ、混み具合を比べる。

- A、C、Dの比較を行う。調べる数が多くても、混み具合を一度に比べやすい方法を考える。
- 面積をそろえて1m²あたりの匹数で比べたり、匹数をそろえて1匹あたりの面積で比べたりすればよいことをまとめる。

- 前時の例と異なるものについて考え、場合によっては考えにくい方法もあることをおさえる。
- そろえた面積や決められた面積を単位面積と呼ぶことをおさえる。

単位量あたりの大きさを用いて比べることの意味を理解し、混み具合を比べることができる。
(発言・ノート)
【知・技】
匹数と面積のどちらにそろえる方がより良いか考えている。
(発言・ノート)
【態度】

理 面積とウサギの数はどちらをそろえた方が良いか考える。

- 周辺の国々の混み具合を予想する。
- 「人口密度＝人口÷面積」を知る。
- 「人口密度」をもとに、3つの国の混み具合を比べる。

- 人口も面積も異なる国の混み具合を比べるためには、どちらかをそろえる必要があることを押さえる。
- ◇ 人口と面積を情報から混み具合を比較する。
- ◎ それぞれのJamboardに「私は〇〇のこみぐあいは大きいと思います。なぜなら～～だからです。」のモデル文を提示しておく。表

人口と面積から人口密度を計算して求め、比べることができる。
(発言・ノート)
【知・技】

様々な地域の人口密度を比べて混み具合の大きい順に並べる。

理 記

本時

二
(2)

- 米のとれ具合を、単位量あたりの大きさを用いて調べる。

- これまでの学習から、面積あたりの収穫量に注目すればよいことをおさえる。

単位面積あたりの収穫量の大きさを用いて、2つの資料を比べることができる。
(ホワイトボード)
【知・技】

- 速さを決めるために必要な量について考える。
- 走った距離、時間が異なる人の速さの比べ方を考える。
- 時間をそろえて1秒間当たりの距離で比べたり、距離をそろえて1m当たりの時間で比べたりすればよいことを数直線の図を使って考え、まとめる。

- ◎ パワーポイントのアニメーションを用いて、視覚的に速さを比べられるようにする。 **理**
- 時間も距離も異なると比べることが難しくなることをおさえる。

速さの比べ方を、時間と距離の2つの量をもとにした、単位量あたりの大きさの考え方を用いて考えようとしている。
(発言・ノート)
【態度】

- 新幹線のはやぶさ号とかがやき号の速さを比べる。
- 速さを求める公式をまとめる。
- 「時速」「分速」「秒速」の意味を知り、公式を用いて速さを求める。

- 速さは単位時間あたりに進む道のりで表すことをおさえる。
- ◎ 前時に用いた数直線や図を提示し、式の意味をイメージしやすくする。 **記**

速さを求めるときに使う2つの量に着目し、速さを求める公式を表すことを考え、説明している。
(Jamboard)
【思・判・表】

「時速」「分速」「秒速」について何が違うのか説明する。

表

- 速さと時間から道のりの求め方を考える。
- 道のりを求める公式をまとめ、公式を用いて道のりを求める。

- 速さの意味を確認し、数直線を提示することで、道のりを求める式を導く。
- ◎ 言葉の意味を提示しておき、いつでも確認できるようにする。 **記**

速さを求める公式を用いて、速さと時間から道のりを求める公式を導き、道のりを求めることができる。
(発言・ノート)
【知・技】

- 台風の速さと道のりから時間の求め方を考える。
- かかる時間を□時間として式に表し、時間を求める。
- 速さ、道のり、時間の関係を振り返り、それぞれの求め方を統合的にとらえる。

- 速さの意味を確認し、数直線を提示することで、道のりを求める式を導く。
- ◎ 言葉の意味を提示しておき、いつでも確認できるようにする。 **記**

道のりを求める公式を用いて、速さと道のりから時間を求めることができる。
(発言・ノート)
【知・技】

四
(2)

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 身の回りから単位量当たりの考えを使っている場面を探す。 雷の音が伝わる速さについての問題を、単位量当たりの考えを活用して解決する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書を例に実際に使われていることを確認する。 ◎ ブレイクアウトセッションを用いていつでも質問できる部屋を作る。 | <p>基本的な問題を解決することができる。
(観察・発言)
【知・技】</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 「たしかめよう」に取り組む。 「つないでいこう算数の目」に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ ブレイクアウトセッションを用いていつでも質問できる部屋を作る。 | <p>単元の学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。
(観察・発言)
【態度】</p> |

本時の学習 (第2次1時)

1. 小单元名

「人口密度で比べよう」

2. 本時のねらい

日本・フィリピンとその周辺の国々の混み具合について、人口密度を求め、比べることができる。

3. 本時の評価 【知識・技能】

A

人口と面積から人口密度を計算して求め、比べることができる。

B

人口と面積から人口密度を求めることができる。

4. 準備・資料等

- ★ ノート PC (Zoom・Google Classroom)、iPad (GoodNotes5)、Apple Pencil
- ・ スライド資料
- ・ Jamboard

5. 本時の展開

T1：島袋 源大

T2：齋藤 亜由美

学習活動・ 児童の姿

○教師の指導 ◎日本語支援

◇校内研との関わり ◆評価【観点】(方法)

- 学習課題をつかむ。

- 児童の興味を引くキャラクターから出題をし、児童が楽しみながら学習に入れるようにする。
- 前時でフィリピンと日本の混み具合について考えたことを振り返り、他の国々ではどうなのかと問う。

めあて 周辺の国々の混み具合を比べよう。

手立て 周辺の国の混み具合の順番を予想し、人口密度を計算して比べる。

- およその人口が載っている地図をもとに、混み具合をグループで予想する。
 - 中国は人口が多いからこんでいる感じがする。
 - オーストラリアは広いからあまりこんでいないと思う。

- 「周辺の国々の混み具合をグループで予想してランキング表を完成させましょう。」(Jamboard)
- 最初は国々の面積や人口の数は提示せず、人口を表す人が描かれた地図を提示して予想させる。
- ブレイクアウトセッションで4つのグループに分け、それぞれに Jamboard を振り分ける。
- T2 もグループに入り、必要であれば助言する。
- ◎ それぞれの Jamboard に「私は○○のこみぐあいは大きいと思います。なぜなら～～だからです。」のモデル文を提示しておく。 **表**
- ◇ 地図を見ながらおよその混み具合を考える。この活動の後に実際に人口密度を計算することで、混み具合を比べることができるようになると思う。また、周辺の国々の中では、日本とフィリピンの人口密度にあまり差がないことを感じるができるであろう。

- 全体で各グループの結果を共有する。

- 各グループで出た結果の順位のみ発表するように指示する。
- 中国の順位に焦点を当てて理由を聞く。

- 『人口密度＝人口÷面積』を知る。
 - 人口の数が必要。
 - 国の面積が必要。

- 「こみぐあいははっきりと比べるためにはそれぞれの国の何が必要ですか。」
- 必要に応じて前時のスライドを見せ、何が必要であるか振り返られるようにする。
- 『人口密度＝人口÷面積』を提示する。
- 図を提示して、「人口密度」の意味が単位面積あたりの人口であることを伝える。

導入
5分

展開
30分

展開
30分

- 人口と面積から人口密度を求める。
 - 各国の人口と面積を提示する。
 - 日本を例として人口と面積から、人口密度の公式に当てはめて計算して見せる。
 - 必要に応じて、電卓を使って良いことを伝える。
 - ◎ 人口密度を求める公式を画面上に提示しておき、いつでも確認できるようにする。

- 人口密度から混み具合を比べる。

- 「こみぐあいの大きい国はどこですか？」
- 「なぜ、人口密度が大きいと、こんでいると言えるのですか？」
- 単位面積あたりの人口が多いほど混み具合は大きくなることをおさえる。
- ◆ 人口と面積から人口密度を計算して求め、比べることができる。(発言・ノート)【知・技】

終末
5分

まとめ 混み具合には、人口と面積が関係している。人口密度を使うと、様々な国々の混み具合を比べることができる。

- 本時の算数日記を書く。
 - ◇ 自分や友達の予想と結果を比べてどう感じたのか感想を書くように指示する。



研究仮説について

本単元では在籍学級における日本語支援を効果的に進めることにより、バイリンガル・バイカルチャラルの視点をもった児童を育むことを目標として、2点の児童像を設定した。

面積と人口から得られる人口密度を用いて、日本とフィリピン、周辺の国々を比べ、その結果からそれぞれの国の背景や文化、特徴について興味・関心を持つ児童。

また、この児童像が達成できるように、研究仮説を以下のように設定した。

2つ以上の国や地域を様々な観点から比較し、それぞれの特徴や違いを児童が実感できる授業づくりをすれば、双方の特徴や文化を理解し、互いの考え方を尊重できる、バイカルチャラルの視点をもった児童が育つだろう。

これを受けて仮説の検証方法は次の通りとした。

新たな視点から2つ以上の国や地域を比べて、その特徴について客観的に見て、自分の予想とのギャップを感じる如果能够できれば、それぞれの国や地域の特徴や違いについて興味・関心を持つだろう。そこで、前時の終わりに、フィリピンと周辺の国々について、混み具合の大きさを理由もつけて予想し、ノートに書く。さらにこの授業で人口密度を学習し、比べた後に予想と結果の違いも含めて感想を交えて書く。これら二つを比べて、この授業を通しての児童の変容を見取る。

検証方法で述べた通り、次の2つの提出物の結果をもって検証を行おうと考えた。

提出物①

フィリピンと日本の混み具合の大きさについての予想

【前時終了後提出】

提出物②

計算した人口密度と予想との違いを比べた結果をもとにした感想

【本時終了後提出】

児童

提出物①

A 日本の方が混んでいると思う。なぜなら、日本の東京などはたくさんの人がいるから。

B フィリピンが混んでいる。フィリピンは人が多いから。

C フィリピン。なぜなら、飛行場を出たときには日本よりもフィリピンの方が人がおおいからです。

提出物②

まさかシンガポールが1位だとは思いませんでした。また人口密度を調べる機会があれば、他の国も調べたいと思いました。

まさか中国の人口密度が低い結果になるとは思いませんでした。

実際はシンガポールだった。人口密度を計算すると比べることができることを知りました。

D	フィリピンの方が混んでいると思います。理由はフィリピンの方が狭いからです。	中国が1位だと思ったけどシンガポールだった。しっかり計算することが大切だと思います。
E	フィリピン。理由はフィリピンの方が国土が小さくて、住んでいる人が多いからです。	人口と面積でこみぐあいが決まるんだとわかりました。
F	フィリピン。理由は面積が小さくて人口が多いから。	みんなと予想が同じで正解かもしれないと思ったけど、全然違った。計算してみなきゃわからないこともあるんだとわかりました。
G	日本。理由は日本の方が人口が多いからです。	予想は中国が1位だったけど、シンガポールが1位だった。
H	日本の方が混んでいる。なぜなら、フィリピンの面積は日本の面積よりも小さいけど、人口は日本より多いから。	予想は中国が1位だったけどシンガポールだった。中国は人口も多いけど、面積も広いからだと思った。
I	フィリピンが混んでいる。理由はフィリピンの方が小さいと思うし、大家族が多いからです。	予想では中国が1位だと思ったけれど意外とシンガポールだった。日本とフィリピンはだいたい同じだった。
J	フィリピンの方が混んでいると思います。理由はローカルな場所では家がびっしりとたくさん並んでいるからです。	予想では中国が1位だったけど、計算してみるとシンガポールだった。計算すると、予想と全然違ってビックリしました。

児童 A は提出物②の中で、「他の国についても調べてみたいと思いました。」と感想を述べている。これについては今回の授業で児童 A が様々な国の人口密度や混み具合に対して興味をもち始めていると考えることができる。しかし他の児童については、人口密度が人口と面積によって決まることを再確認したような感想が多かった。このことから、ねらいを十分に達成できなかったといえる。では、今回の授業で扱った単元で目指す児童像に近づけるための手立てとして何が考えられるのか考察する。授業を終えて感じたことをもとに次の2点を提案したい。

- ① 児童の経験をクラス全体へ広げてその話をもとに混み具合の予想をする。
- ② 人口密度を計算した後に、全体で予想との比較し、本当に混み具合が表れているか考える。

1つ目は、最初の予想をする場面での方法についてである。最初の活動におけるグループでの会話の中で「私、シンガポールに住んでいたことあるけど、…」や「僕は中国に行ったことがある」など、児童から生活経験をもとにした予想が上がった。この声を全体で共有することで、行ったことのない国であっても他の児童もその国のイメージをもちやすくなるだろうと考える。さらに各国での生活の様子を聞くことで、興味をもつ児童が増えると考えられる。

2つ目は、結果と予想を比較する場面での方法である。実際に人口密度を計算した後に、もう一度自分の予想を振り返る時間が必要である。今回であれば、提出物①で、

実体験をもとに予想した児童が多くいた。しかし実際の計算結果は異なる。このことから、計算することではっきりと比べることは可能だが、そこに住んでみたり、行ったりしたときに感じる印象とは異なる事実があることを実感できると考える。そこでそれぞれの児童は初めの予想で聞いていた中国やシンガポールでの生活経験への関心をさらに高めると考える。

上のように提案したが、このような手立てを1時間のうちに行うには難しいと考える。単元全体の計画を見直したり、他教科の一部と絡めて授業を行ったりする必要がある。手立てを取り入れるための単元計画も考えていく必要があると考える。

手立てや発問の有効性（評価できる児童の言動）…成果と課題

1. 「Jamboard を用いてランキングを予想する活動」

本時の初めの活動としてグループ活動を取り入れた。人口と面積を比べながら、混み具合を予想する活動である。この活動を通して、話し合いながら混み具合を考えたり、それぞれがどんな国なのか興味を持たせたりすることをねらいとしていた。グループ内の成果として考えられる発言を挙げると次のようなものがある。

A児 私、シンガポールに住んでいたけど、小さい国なのにとってもたくさん人が住んでいたよ。

C児 シンガポールにはたくさん人が来るから1位じゃない？5位じゃないと思う。

このように他国のことを話題にして比較の話をするということは、出身地や現住地のマニラ、訪れたことがある国などをもとにして考えを働かせているということであり、バイカルチャーの視点をもった児童に近づいていると考える。これを成果とする。

課題としては、これらの発言を拾い上げて、他のグループとも共有できれば、ねらいへ迫る児童が増えたと考える。児童のもつ生活経験を把握しておくことで、さらに有効な手立てを考えることができたと感じる。

2. 発問「なぜシンガポールが混んでいるのですか？」

この発問は人口密度を計算した結果をどのように判断していくか児童に再考を促すことがねらいである。この発問に対する児童の発言の中で成果として考えられるものは、

H児 1km²の中にどれだけ人が住んでいるかを表しているから、人口密度が1番多い国が混んでいる。

この発言からH児は人口密度の意味を理解し、人口密度から混み具合を判断することができていると考える。

課題としては、この発問に対して発言できたのがこの児童1人だった。児童への投げかけ方をもう一度考える必要がある。この授業全体として児童が「人口÷面積」の式が表す

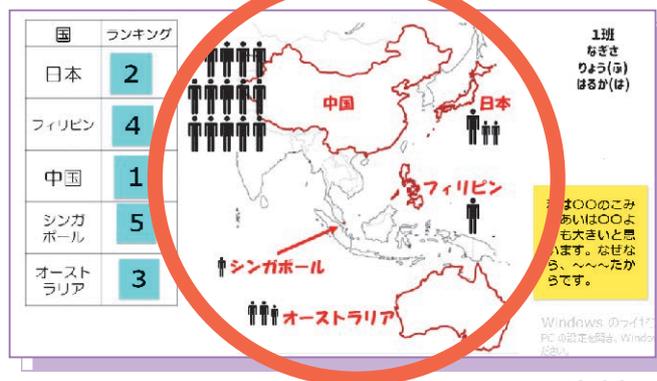
意味を考える時間がかかなり少なかった。教科の理解を深めるためにも時間配分についてさらに考える必要がある。

日本語支援の手立てについて…成果と課題

成果

1. 「Jamboard 上の視覚的支援」

支援の必要な児童にとっては、「人口」や「面積」という言葉から、それぞれの大きさをイメージすることが難しいと考える。そこで【資料1】のように、Jamboard 上に白地図と人口を視覚的に捉えられるように表した人の図を提示した。



資料1

この図を提示したことで、日本語支援の必要な児童は面積が大きければ混み具合は小さくなることや、人口が多ければ混み具合は大きくなることを感覚的に理解できた。

課題

1. 「Jamboard 上にモデル文を提示」

量的感覚をとらえられても、思ったことを発言することが難しいと考えた。そのため、Jamboard 上に「私は〇〇のごみぐあいは〇〇よりも大きいと思います。なぜなら、〜〜〜だからです。」のモデル文を提示した。これにより、日本語支援の必要な児童も意見を表現できると考えた。

しかし、授業の中でこのモデル文はあまり使われず、自分の意見を表現する児童も少なかった。原因としては、与えられた課題に対する表現としては使にくいモデル文となってしまったことにある。「私は〇〇のごみぐあいの大きさが〇番目だと思います。理由は〜〜〜だからです。」などのモデル文であれば利用されたと考える。例えば、Jamboard での活動時、児童はモデル文を使うことができず、自分の意見を表現する様子が見られなかった。そこで、混み具合のランキングを話し合う場面では与えられたモデル文が使にくいものであると考える。「私は〇〇のごみぐあいが〇番目だと思います。なぜなら〜〜〜だからです。」のモデル文にする。また、「1km²あたり」という言葉の意味や概念を理解することができていないように見られたため、今後は、体験的活動を取り入れ、クラス全体の量と一人あたりの量を求めるなどの活動を交えて学習を進める。



資料2



オンライン授業

第6学年
在籍学級

フィリピンと日本の架け橋

授業者
山野陽子

単元の 目標

○ シスター海野のバギオに住む日系人の方々を支援したり、フィリピンの方々とつないだりした生き方を通して、現在もその意思がアボン（財団法人北ルソン比日友好交流団体）の方々に受け継がれていることを知り、フィリピンで学んだ小学生として自分にできることを考え、交流活動を進めることができる。

知識 ・ 技能

これまでの社会科や総合的な学習の時間で習得した知識をさらに広げて、シスター海野の功績や、その意思を受け継ぐアボンの方々の思いや願いを知り、自分の生き方に活かそうとする。

思考力 ・ 判断力 ・ 表現力

シスター海野について知っていることから、彼女と関わりの深いバギオについて課題を設定し、本やインターネット等から情報収集、整理・分析、まとめ・表現などの学習の課程を通して、自分の考えをもち、友達の見方、考え方を知り、さらに自分の考えを深める。

主体的に 学習に 取り組む 態度

フィリピンで学んだ小学生であることを自覚し、自分にできることを考え、積極的に交流活動を進めることができる。

第6学年でつきたい力

単元計画（全16時間）

第1次 単元計画を立て、シスター海野について知る。（4）

- シスター海野について知っていることを共有し、単元計画を立てる。（1）
- シスター海野について調べる。（冬休み課題）
- シスター海野について調べたことから自分の考えをもつ。（1）
- ビデオ「何か私にできること—シスター海野の生涯—」視聴（2）

第2次 シスター海野と関わりのあるバギオについて調べ、シスター海野の功績を通して彼女の思いや願いについて考えを深める。（9）

- テーマ「バギオの歴史」「ケノン道路」「バギオの日本人」「バギオの行事」について調べる。（3）
- 中間報告会を開き、さらに知りたいことや調べたいこと、感想などを交流する。（1）
- シスター海野の生き方から考えを深め、自分の生き方につなげる。（1／本時）
- Google Slides にまとめる。（4）

第3次 調べたことや自分の考えを発信し、まとめをする。（3）

- アボンの方々との交流活動を行う。（2）
- これまでの学習活動を振り返り、自分の生き方について再考する。（1）

日本語指導との関わり

1. 国際結婚家庭の児童の実態

現在日本語学級に在籍している児童はいないが、以前日本語学級に在籍していた児童が2名いる。学力は高い。学習言語能力について、話すことは自信をもって行うことができるが、書くときに格助詞や接続助詞の使い方に不安がある。英語は得意で、発音もよい。英訳をするときや司会、始めの言葉等で活躍できると考える。

2. 日本語支援の主な内容

シスター海野と関わりの深いバギオについて Google Slides にまとめるとき、完成後、自分で読み返し、誤字脱字、他にふさわしい表現はないか確認できるようにする。特に苦手とする助詞の使い方を意識させるために、文章を書いた後、他の助詞に当てはめて意味が通るか確認するようにする。間違いに気づいたときや正しい文章が書けたときには褒め、次への意欲につなげる。「フィリピンで学んだ小学生としてできること」を考える際、これまでの総合的な学習の時間、社会科、道徳科等の学習と関連付けて、考えを深めることができるように、個人チャットで「総合こそこそ話」としてヒントを送る。「総合こそこそ話」で、道徳科のマザーテレサや杉原千畝の生き方や、社会科の震災復興を願う人々の思いの学習での、6年2組担任の牛島教諭の阪神淡路大震災を体験した自分の使命の話等、既習内容と関連付けることで自分の考えをもちやすくなると思う。

本時の指導 (9/16)

1. 本時の目標

- バギオについて調べたことを通して、シスター海野の生き方が現在も受け継がれていることを再確認し、彼らの想いや願い、自分にできることを仲間と対話しながら考えることができる。

2. 本時の展開

過程

学習活動
・予想される児童の反応

指導と支援
(○一般的／◇仮説／◎日本語) ◆評価

導入

10分

1. これまでの学習活動を想起し、本時の学習課題を確認する。

○ Google Slides を見て、これまでの学習活動を想起し、本時の学習課題につなぐようにする。

めあて これまで調べたことをもとに、フィリピンで学んだ小学生として自分にできることを考えよう。

2. シスター海野の活動の原動力となったもの、それを受け継ぐアボンの方々
の想いや願いについて話し合う。

◇ シスター海野の生き方そのものがバイカルチャー
ルの考え方であるため、彼女の状況や立場になっ
て考えさせたい。

(シスター海野の原動力)

- 戦後、困難な状況にある日本人の力になりたい。
- フィリピンの人々と日本人の人々(日系人)の関係をよくしたい。

○ 道徳の学習(マザーテレサ、杉原千畝)の学習と関連付けて横断的・総合的に考えられるようにする。

○ バギオについて調べたことをもとに、考えられるように、自分たちが作成中の Google Slides を振り返ってもよいことを伝える。

(受け継ぐアボンの方々)

- 国籍関係なく誰もが住みやすいバギオの町にしたい。
- フィリピンと日本をつなぐ役目を担いたい。

手立て 班に分かれて Jamboard に自分の考えを書くことで可視化でき、話し合いをまとめやすくする。

3. フィリピンで学んだ小学生として、自分にできることについて考える。

◎ 書くことが難しい児童は、「総合こそそ話」を個人チャットに送り、自分の考えをもてるような視点を示したり、始めに提示した Google Slides を参考にしたりしながら書くようにする。

○ シスター海野の功績がフィリピンと日本を結ぶ架け橋となり、現在も受け継がれていることから、自分もフィリピンで生活をする小学生として考えられるようにする。また、日常で2つの国の価値観にふれている国際結婚家庭の児童だからこそ考えることのできる、相手の立場を尊重し、理解しようとする考えを活かしたい。

展開

23分

まとめ 交流会を楽しんだり、人に話したりと身近なことから自分たちにできることを始めていく。

4. 自分にできることを発表し、本時の学習のまとめとする。

- アボンの方々との交流会を楽しむこと。
- 日本の中学校で話したい。
- これから自分が生活する地域で、問題が起こったとき、他人事ではなくて自分事として行動したい。
- 人の役に立つような仕事をしたい。

◆ 仲間の考えを知り、さらに自分の考えを深めることができる。(Jamboard・発言)

【思考力・判断力・表現力】



研究仮説について

成果

- 自分にできること考える場面で、困っている児童に、自分の考えをもつヒントとして「総合こそこそ話」をチャットで送ったことで考えを広げやすくなり、自分の考えをもつことができた。
- 「フィリピンで学ぶ小学生だからこそ」というテーマで考えたため、自分事として考えることができた。
- みんなの前で話すことがあまり得意ではないフィリピンの国際結婚家庭児童が、アボンの方々との交流会の開会の言葉に立候補した。グループでのプレゼンテーションの英訳や発音等で仲間頼られることが多く、自信をもつことができたようである。
- これまで双方の文化や歴史について学んできたことを振り返りながらまとめたことで、フィリピンで学んだ小学生だからこそできることを発信していきたいという意思を育むことができた。(バイカルチュラルの視点)

これまで学習したことをもとに、フィリピンで学んだ小学生として、自分にできることを書く。

フィリピンにいたからこそ、肌で感じた国民性・習慣、そして学んだ歴史は「生きた言葉」として、伝えることができる。まずは、確信的に学び、発信していくべきだと考える。堀

歴史資料を探することは困難であるが、日本だけでなく、日本の方、またフィリピンの方、様々な資料から学ぶことが僕らにはできるのではないが、また、現地の方と話すこともできるのが、一番の学びになると考える。堀

。知り合いや友達にフィリピンのことを教える

フィリピンの歴史、文化を学習してきたよな

自分からフィリピンで
教えた友達に教える
ことを伝えたい
FRIENDS

自分にできることを書いた Jamboard 画像

課題

- オンライン授業で、Google Slides や Jamboard 等を使用するとお互いの顔を見ないで話し合いをしなければいけない場面がある。相手の表情から伝わる反応が見られないため不安になり、自分の考えを発言しにくい児童がいる。話し合いの際、教師はモニターで児童の反応を見ているので、「みんながうなずいているよ」「〇〇さんの表情がパッと明るくなったよ。何か思いついたみたいですよ」と反応を伝えることで安心できると考える。特に、学習言語能力について不安のある国際結婚家庭の児童には、オンライン授業だからこそ、安心して自信をもって話し合いに参加できるように、Jamboard を共有する時間と話し合う時間を分けて、友達の表情や反応を見ながら話せるようにしていくことが大切である。

日本語指導の実践を通して

2019年度の対面授業及び2020年度のオンライン授業では、それぞれの授業の特徴を生かしながら、各学年で、児童の実態に合わせた授業づくりに取り組んできました。

バイカルチュラルの視点を取り入れる際には、児童の経験や生活場面から課題を設定するとよりよいことや、教科横断型の学習を行うことで学びが様々な場面へと広がること、その結果、日本語力の向上だけでなく、学ぶ意欲の向上にもつながっていくことを、校内研究授業や日々の実践をとおして、全職員で理解を深めることができました。

一方で、2020年度は全校の授業がオンライン授業となり、体験的な活動がなかなかできなかつたり、児童がどれだけ理解しているのか十分見とれなかつたりという新たな課題に直面しました。また、各教科の学習時間の確保のため、日本語学級の時間内で、教科横断型を意識した授業の難しさも課題となりました。

しかしながら、これらの課題を解決するために、Googleの各種アプリやZoomの機能を効果的に使って学習活動を工夫してきたことで、児童の学びを支えることができ、新たな学びの可能性を見出すことができました。オンライン授業であっても、日本語学級の時間を確保し、日本語指導を実践できたことは、私たち教師にとっても大きな自信となりました。

また、児童は、対面授業・オンライン授業にかかわらず、日本語のモデル文等があることで、日本語での表現の仕方が分かり、安心して自分の考えを発表する姿が見られました。在籍学級での学習に意欲的に参加できる場面も増えてきています。保護者から、「各教科での理解度が高まると、学習意欲もより高まるのではないか」という声もよせられ、保護者も児童の姿から日本語指導の成果を実感しているようです。



今後に向けて

これまでの対面授業及びオンライン授業における学習活動計画や実践を各学年で見直し、改善しました。この作業を通して、私たち教師自身が学びを深めたり創造力を高めたりしていることに気づくこともできました。

今後も、日本語学級では、教科の先行学習を主とした教科横断型日本語指導を進めるとともに、在籍学級でもバイカルチュラルの視点と教科横断型を意識した授業実践を行いながら、汎用性の高い日本語指導プログラムを提供できるよう取り組んでいきたいと考えています。

具体的には、小学部1～3年生の日本語学級における学習活動案の作成と授業実践の継続、小学部4～6年生の在籍学級における授業実践の継続、マニラ日本人学校主催のオンライン情報交換会の開催、マニラ、大連、青島日本人学校3校オンライン合同研修会の開催を計画しています。

今後、対面授業が開始されても、引き続きオンラインで学習を受ける児童がいることも予想されます。対面型とオンライン型を交えたハイブリッド型の授業を進める必要性も考えられます。このような新たな課題も見据え、これまでの実践を通じた学びを生かし、さらに前進していきたいと考えています。



2019年度～2020年度

研究代表 佐藤 郡衛（明治大学 特任教授）
研究担当 近田 由紀子（目白大学 専任講師）
研究委員 中村 雅治（公益財団法人海外子女教育振興財団 相談役）
研究委員 市川 昭彦（群馬県巴楽郡大泉町立北小学校 教諭）＜2019年度の研究＞

校長 梶山 康正
教頭 三戸 みゆき
前教頭 今西 和江
事務局長 武田 文男

（教諭・五十音順）

赤澤 加奈	天野 有香	牛島 敏雄
海老澤 尚美	大迫 愛子	加藤 寧
加藤 陸雄	久保 方人	齋藤 亜由美
島袋 源大	城間 ふみ桜	外川 孝太郎
田中 亜紀	中川 健	中川 智尋
夏目 悠甫	林田 由佳	春木 雄一郎
古米 成美	町田 健	宮下 禮
三好 豪	山野 陽子	吉本 優毅
若海 初美	渡邊 花穂	

日本語学級・在籍学級での 教科横断的な日本語指導

～マニラ日本人学校の対面・オンライン授業の実践から～

2021年3月

編著者 ● 在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業
AG5 運営指導委員

発行者 ● 公益財団法人海外子女教育振興財団
理事長 綿引 宏行

連絡先 ● 公益財団法人海外子女教育振興財団内
AG5事務局
〒105-0002
東京都港区愛宕一丁目3番4号
愛宕東洋ビル6階
E-MAIL：ag5@joes.or.jp
TEL：03-4330-1352
FAX：03-4330-1355

印刷所 ● 株式会社トック企画



公益財団法人

海外子女教育振興財団

Japan Overseas Educational Services